

平成29年度  
教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価報告書

(平成28年度事業分)

平成30年3月

弘前市教育委員会



## はじめに

弘前市教育委員会では、平成２２年１２月に策定した弘前市教育振興基本計画（以下「教育振興基本計画」という。）に基づき実施した取組について、毎年度点検及び評価し、施策の見直しに反映させてまいりました。

このような中、平成２６年５月、弘前市は社会経済環境の大きな変化に対応し、地域の持続的な成長・発展を実現するため、地域づくりの新たな最上位計画として「弘前市経営計画」（以下「経営計画」という。）を策定し全ての施策を体系化しました。

これを受け、弘前市教育委員会では、教育振興基本計画がこの経営計画と連動している必要があることから、経営計画の人づくり等の教育関連政策と整合性をとる形で、平成２６年６月に教育振興基本計画を新たに策定し、その計画期間も経営計画と同様に、平成２６年度から平成２９年度までの４年間としたものです。

この報告書は、教育振興基本計画で体系化した２３の施策ごとに、その進捗状況について教育委員会全体で点検及び評価を実施し、その結果について学識経験者の意見を付してまとめております。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本報告書を議会に提出するとともに、公表することにより、市民の皆様への説明責任を果たし、市民の皆様信頼される教育行政を推進してまいります。

また、教育振興基本計画を効果的かつ効率的に推進するため、この度の点検及び評価の結果を施策に反映させ、弘前市が目指す「より新しい自分をつくる（創る）」「これまでと今、そしてこれからをつなぐ（繋ぐ）」「心と心をつむぐ（紡ぐ）」教育の実現に向け、継続的な改善を図ってまいります。

なお、点検及び評価に対する意見は、教育分野における連携・協力体制を構築するため、平成２４年１月に「連携に関する協定」を締結した、弘前大学教育学部に依頼したものです。専門的知識を豊富に有する大学からいただいた意見は、今後の改善に生かしてまいりますので、市民の皆様より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２ 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



## 目 次

### 1 平成28年度教育委員会の活動状況

|                            |   |
|----------------------------|---|
| (1) 教育委員・・・・・・・・・・・・・・・・   | 1 |
| (2) 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・   | 1 |
| (3) 教育委員会審議案件・・・・・・・・      | 2 |
| (4) 教育委員会会議以外の活動状況・・・・・・・・ | 4 |

### 2 教育委員会における事務の点検及び評価

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| (1) 弘前市教育振興基本計画・・・・・・・・       | 6  |
| (2) 施策の体系・・・・・・・・             | 7  |
| (3) 各施策の点検及び評価                |    |
| ・施策の基本方向Ⅰ                     |    |
| 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成・・・・・・・・ | 8  |
| ・施策の基本方向Ⅱ                     |    |
| 学びと育ちの環境の充実・・・・・・・・           | 28 |
| ・施策の基本方向Ⅲ                     |    |
| 学び合い支え合う生涯学習活動の推進・・・・・・・・     | 44 |
| ・施策の基本方向Ⅳ                     |    |
| 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成・・    | 56 |

### 3 学識経験者による意見

|                  |    |
|------------------|----|
| 弘前大学教育学部・・・・・・・・ | 68 |
|------------------|----|



# 1 平成28年度教育委員会の活動状況

## (1) 教育委員（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

| 役 職 名          | 氏 名     | 就任年月日                       | 任 期                   |
|----------------|---------|-----------------------------|-----------------------|
| 委 員 長          | 九 戸 眞 樹 | H26. 5. 20                  | H26. 5. 20～H30. 5. 19 |
| 委 員 長<br>職務代行者 | 前 田 幸 子 | H23. 5. 20<br>H27. 5. 20 再任 | H27. 5. 20～H31. 5. 19 |
| 委 員            | 土 居 眞 理 | H24. 5. 20                  | H24. 5. 20～H28. 5. 19 |
| 委 員            | 一 戸 由 佳 | H25. 5. 20                  | H25. 5. 20～H29. 5. 19 |
| 委 員            | 澤 田 美 彦 | H28. 5. 20                  | H28. 5. 20～H32. 5. 19 |
| 教 育 長          | 佐 々 木 健 | H26. 5. 20                  | H26. 5. 20～H30. 5. 19 |

## (2) 教育委員会会議の開催状況（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

| 会 議       | 開催日         | 議案件数 | 報告件数 | その他 |
|-----------|-------------|------|------|-----|
| 平成28年 第6回 | H28. 4. 7   | 2    | 3    | 0   |
| 第7回       | H28. 4. 27  | 1    | 1    | 0   |
| 第8回       | H28. 5. 12  | 2    | 1    | 0   |
| 第9回       | H28. 5. 20  | 1    | 1    | 1   |
| 第10回      | H28. 6. 6   | 3    | 0    | 0   |
| 第11回      | H28. 7. 15  | 1    | 0    | 0   |
| 第12回      | H28. 7. 27  | 3    | 0    | 0   |
| 第13回      | H28. 8. 29  | 2    | 0    | 0   |
| 第14回      | H28. 9. 21  | 3    | 0    | 0   |
| 第15回      | H28. 10. 26 | 5    | 0    | 0   |
| 第16回      | H28. 11. 7  | 2    | 2    | 0   |
| 第17回      | H28. 12. 16 | 3    | 3    | 0   |

| 会 議           | 開催日        | 議案件数  | 報告件数  | その他 |
|---------------|------------|-------|-------|-----|
| 平成 29 年 第 1 回 | H29. 1. 25 | 3     | 0     | 0   |
| 第 2 回         | H29. 2. 16 | 3     | 0     | 0   |
| 第 3 回         | H29. 3. 15 | 1     | 0     | 0   |
| 第 4 回         | H29. 3. 29 | 3     | 0     | 0   |
| 合 計           |            | 3 8 件 | 1 1 件 | 1 件 |

※その他は、組織会。

### (3) 教育委員会審議案件

| 開催日        | 内 容                                      | 審議結果 |
|------------|------------------------------------------|------|
| H28. 4. 7  | 議案第 15 号 教育財産の取得申出について                   | 原案可決 |
|            | 議案第 16 号 史跡津軽氏城跡堀越城跡整備指導委員会委員の委嘱について     | 原案可決 |
| H28. 4. 27 | 議案第 17 号 弘前市いじめ防止等対策審議会委員の委嘱について         | 原案可決 |
| H28. 5. 12 | 議案第 18 号 教育財産の取得申出について                   | 原案可決 |
|            | 議案第 19 号 弘前市指定文化財の指定解除について               | 原案可決 |
| H28. 5. 20 | 議案第 20 号 平成 2 8 年度教育費補正予算案に対する意見申出について   | 原案可決 |
| H28. 6. 6  | 議案第 21 号 ひろさき教育創生市民会議委員の委嘱について           | 原案可決 |
|            | 議案第 22 号 弘前市学校給食審議会委員の委嘱について             | 原案可決 |
|            | 議案第 23 号 教育財産の取得申出について                   | 原案可決 |
| H28. 7. 15 | 議案第 24 号 弘前市奨学金貸与者の決定について                | 原案可決 |
| H28. 7. 27 | 議案第 25 号 平成 2 8 年度教育費補正予算案に対する意見申出について   | 原案可決 |
|            | 議案第 26 号 弘前市社会教育委員の委嘱について                | 原案可決 |
|            | 議案第 27 号 弘前市立図書館協議会委員の任命について             | 原案可決 |
| H28. 8. 29 | 議案第 28 号 弘前市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則案 | 原案可決 |
|            | 議案第 29 号 弘前市指定文化財の指定解除について               | 原案可決 |

| 開催日         | 内 容                                                                                                                                                                                         | 審議結果                                 |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| H28. 9. 21  | 議案第 30 号 教育財産の取得申出について<br>議案第 31 号 弘前市立博物館協議会委員の任命について<br>議案第 32 号 弘前市文化財審議委員の委嘱について                                                                                                        | 原案可決<br>原案可決<br>原案可決                 |
| H28. 10. 26 | 議案第 33 号 平成 2 8 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について<br>議案第 34 号 教育財産の取得申出について<br>議案第 35 号 弘前市指定文化財の指定について<br>議案第 36 号 弘前市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について<br>議案第 37 号 平成 2 8 年度教育費補正予算案に対する意見申出について | 原案可決<br>原案可決<br>原案可決<br>原案可決<br>原案可決 |
| H28. 11. 7  | 議案第 38 号 指定管理者の指定について<br>議案第 39 号 指定管理者の指定について                                                                                                                                              | 原案可決<br>原案可決                         |
| H28. 12. 16 | 議案第 40 号 弘前市立郷土文学館運営委員会委員の委嘱について<br>議案第 41 号 平成 2 9 年度教育費予算案に対する意見申出について<br>議案第 42 号 職員の懲戒について                                                                                              | 原案可決<br>原案可決<br>原案可決                 |
| H29. 1. 25  | 議案第 1 号 弘前市教育振興基金条例の一部を改正する条例案<br>議案第 2 号 弘前市立公民館管理運営規則の一部を改正する規則案<br>議案第 3 号 平成 2 8 年度教育費補正予算案に対する意見申出について                                                                                 | 原案可決<br>原案可決<br>原案可決                 |
| H29. 2. 16  | 議案第 4 号 県費負担教職員に係る異動内申について<br>議案第 5 号 県費負担教職員の懲戒処分の内申について<br>議案第 6 号 県費負担教職員の懲戒処分の内申について                                                                                                    | 原案可決<br>原案可決<br>原案可決                 |
| H28. 3. 15  | 議案第 7 号 教育委員会管理職員に係る人事異動について                                                                                                                                                                | 原案可決                                 |
| H28. 3. 29  | 議案第 8 号 弘前市立図書館管理運営規則等の一部を改正する規則案<br>議案第 9 号 弘前市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について<br>議案第 10 号 平成 2 8 年度教育費補正予算案に対する意見申出について                                                                         | 原案可決<br>原案可決<br>原案可決                 |

(4) 教育委員会会議以外の活動状況

| 年 月     | 活 動 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成28年4月 | あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動<br>大成小学校（1人出席）、西小学校（1人出席）<br>裾野小学校入学式（4人出席）<br>小・中学校長会議（5人出席）<br>東北都市教育長協議会定期総会（1人出席）<br>さくらまつり開会式（2人出席）                                                                                                                                                                                                                                        |
| 5月      | 市長と教育委員会の情報交換会（2人出席）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 6月      | 教育委員会一般質問打合せ（5人出席）<br>平成28年第2回市議会定例会本会議（延べ12人出席）<br>学校訪問（高杉小学校、北辰中学校、フレンドシップルーム、ことばの教室、5人出席）<br>学校訪問（相馬小学校、相馬中学校、5人出席）<br>学校訪問（裾野小学校、裾野中学校、4人出席）<br>学校訪問（新和小学校、三和小学校、文京小学校、4人出席）                                                                                                                                                                                    |
| 7月      | 青森県市町村教育委員会連絡協議会定期総会及び研修会（3人出席）<br>旧弘前偕行社保存修理委員会（1人出席）<br>自得小学校創立140周年記念式典（1人出席）<br>三和小学校創立140周年記念式典（1人出席）<br>新和小学校創立110周年記念式典（1人出席）<br>学校訪問（石川中学校、石川小学校、5人出席）<br>学校訪問（大和沢小学校、千年小学校、朝陽小学校、5人出席）<br>学校訪問（青柳小学校、小沢小学校、第四中学校、5人出席）<br>学校訪問（百沢小学校、常盤野小中学校、岩木小学校、5人出席）<br>学校訪問（船沢中学校、船沢小学校、小友小学校、5人出席）<br>学校訪問（西小学校、城西小学校、第三中学校、5人出席）<br>学校訪問（東目屋小学校、東目屋中学校、桔梗野小学校、4人出席） |
| 8月      | 弘前ねぷたまつり（審査員として延べ2人出席）<br>あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動<br>福村小学校（1人出席）、和徳小学校（1人出席）<br>市長と教育委員会の情報交換会（2人出席）<br>平成28年第3回市議会定例会本会議（2人出席）<br>教育委員会一般質問打合せ（5人出席）                                                                                                                                                                                                                   |
| 9月      | 平成28年第3回市議会定例会本会議（延べ10人出席）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

| 年 月     | 活 動 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月     | 青森県都市教育長協議会（1人出席）<br>東北都市教育長協議会（1人出席）<br>総合教育会議（4人出席）<br>豊田小学校創立140周年記念式典（1人出席）<br>小沢小学校創立140周年記念式典（1人出席）<br>第五中学校創立50周年記念式典（1人出席）<br>福村小学校創立140周年記念式典（1人出席）<br>学校訪問（福村小学校、大成小学校、5人出席）<br>学校訪問（堀越小学校、時敏小学校、5人出席）<br>学校訪問（三省小学校、自得小学校、新和小学校、5人出席）<br>学校訪問（城東小学校、北小学校、3人出席）                                                                                           |
| 11月     | 学校訪問（第三大成小学校、第五中学校、5人出席）<br>学校訪問（豊田小学校、南中学校、5人出席）<br>学校訪問（松原小学校、附属特別支援学校、5人出席）<br>学校訪問（東小学校、東中学校、4人出席）<br>学校訪問（致遠小学校、和徳小学校、5人出席）<br>学校訪問（第一中学校、4人出席）<br>学校訪問（附属小学校、附属中学校、津軽中学校、5人出席）<br>学校訪問（第二中学校、5人出席）<br>学校訪問（第一養護学校、第二養護学校、4人出席）<br>裾野小学校開校・校舎落成記念式典（3人出席）<br>千年小学校創立140周年記念式典（2人出席）<br>青柳小学校創立140周年記念式典（1人出席）<br>平成28年第4回市議会定例会本会議（2人出席）<br>教育委員会一般質問打合せ（4人出席） |
| 12月     | 平成28年第4回市議会定例会本会議（延べ10人出席）<br>弘前子ども議会（2人出席）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 平成28年1月 | 二十歳の祭典（4人出席）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2月      | 平成29年第1回市議会定例会本会議（延べ6人出席）<br>市長と教育委員会の情報交換会（2人出席）<br>教育委員会一般質問打合せ（5人出席）                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 3月      | 平成29年第1回市議会定例会本会議（延べ6人出席）<br>中学校卒業式（延べ2人出席）<br>小学校卒業式（延べ6人出席）                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## 2 教育委員会における事務の点検及び評価

### (1) 弘前市教育振興基本計画

弘前市の教育が目指す姿を実現するためには、学校、家庭、地域などが共通理解のもとで相互に連携・協働し、社会全体で取り組むことが大切です。平成22年12月に策定した夢実現弘前教育プラン「弘前市教育振興基本計画」においては、取組全てにおいてこの考え方を重視し、総合的かつ計画的に取り込むべき施策について、その方向性を明らかにするため4つの基本方向を定めるとともに、それぞれの基本方向を具体化するための目標を掲げ、教育の推進に努めてまいりました。

平成26年5月、弘前市が、市の新たな最上位計画である弘前市経営計画を策定したことを受け、同年6月、この弘前市経営計画との整合性を図るため、計画期間を前倒しし、新たに弘前市教育振興基本計画を策定いたしました。

これまで、弘前市は、考え方、生き方が異なっても、一人一人が「あらゆる可能性をもった固有の存在であること」を認め合い、個と集団を大切にした教育を行ってきました。その人らしい輝きを放ちながら、調和した社会を創り出し、弘前の「教育風土」を培い、学びの芽を育ててきました。

弘前市教育振興基本計画においては、先人たちが築き、脈々と受け継いできた「個が生き、仲間と輝く」教育を大切にしながら、

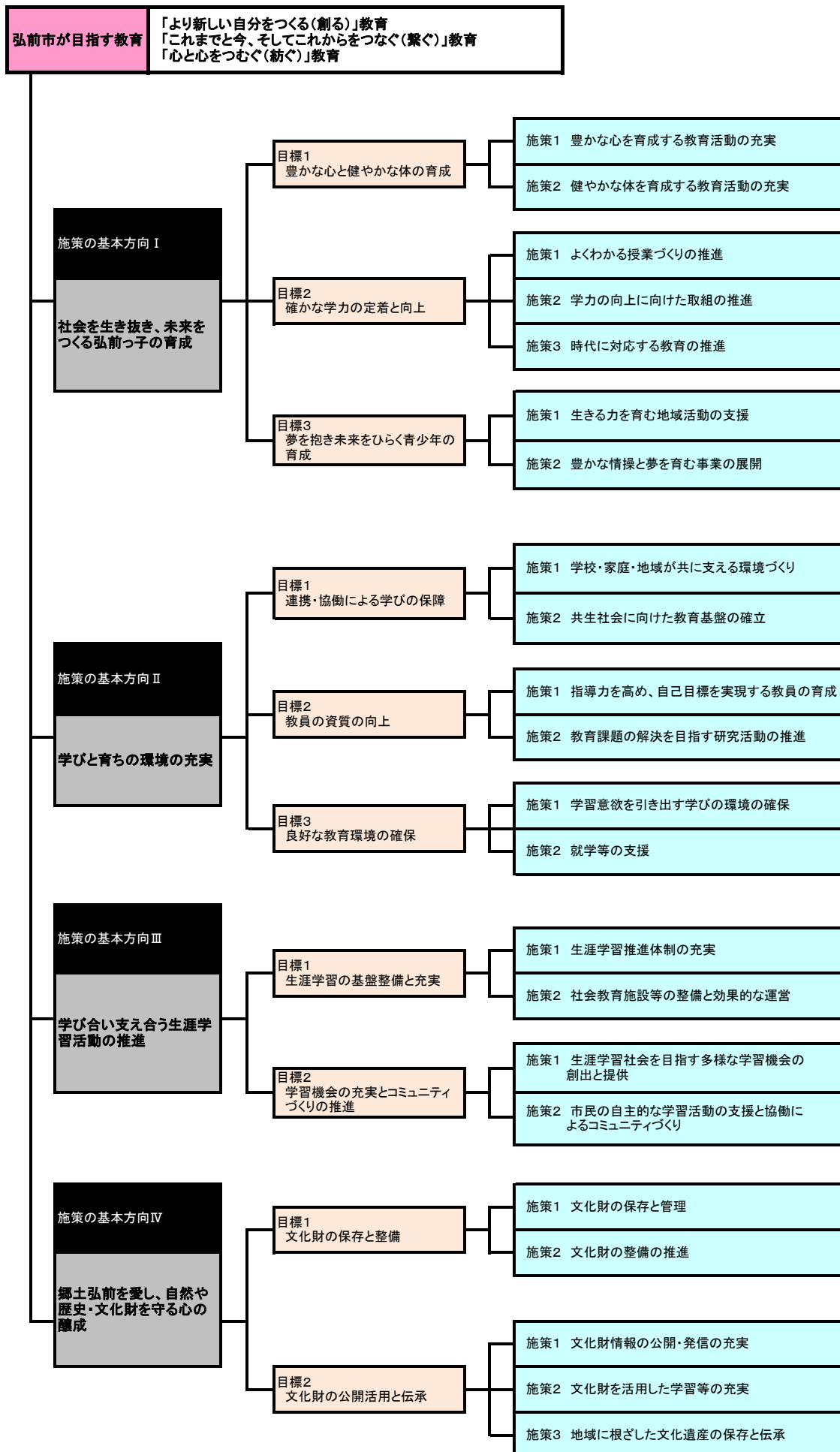
「より新しい自分をつくる（創る）」教育、

「これまでと今、そしてこれからをつなぐ（繋ぐ）」教育、

「心と心をつむぐ（紡ぐ）」教育

を目指して取り組んでまいります。

(2) 施策の体系



### (3)各施策の点検及び評価

#### 〈基本方向シート〉

| 施策の基本方向Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                     |  | 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成 |                 |                 |                 |       |     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|-----|
| <p>弘前市の子どもたちが個性豊かに、自立して社会で生きるための力の源となる豊かな心と健やかな体を育成するとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用するために必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力及び主体的に学習する意欲や望ましい学習習慣の育成を図ることにより、確かな学力の定着と向上を目指します。</p> <p>また、国際化や情報化の進展といった大きな社会変化に対応できる人材の育成、地域全体で子どもを育てる仕組みづくり、豊かな情操を育むための事業の展開を図ります。</p> |  |                       |                 |                 |                 |       |     |
| 指 標                                                                                                                                                                                                                                                          |  | 指標の動向                 |                 |                 |                 |       |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                              |  | 基準値                   | H26年度           | H27年度           | H28年度           | H29年度 | 方向性 |
| 全国学力・学習状況調査アンケートでの「1 と思う」「2 どちらかと言えばと思う」の合計割合                                                                                                                                                                                                                |  | ①<br>小<br>83.2%       | ①<br>小<br>82.8% | ①<br>小<br>86.6% | ①<br>小<br>82.7% |       | 上昇  |
|                                                                                                                                                                                                                                                              |  | 中<br>78.1%            | 中<br>78.9%      | 中<br>81.0%      | 中<br>79.4%      |       |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                              |  | ②<br>小<br>75.5%       | ②<br>小<br>76.9% | ②<br>小<br>79.1% | ②<br>小<br>75.7% |       |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                              |  | 中<br>63.9%            | 中<br>67.1%      | 中<br>66.8%      | 中<br>70.2%      |       |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                              |  | ③<br>小<br>72.5%       | ③<br>小<br>74.7% | ③<br>小<br>75.7% | ③<br>小<br>75.5% |       |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                              |  | 中<br>69.1%            | 中<br>64.5%      | 中<br>63.3%      | 中<br>68.2%      |       |     |
| 取得年度                                                                                                                                                                                                                                                         |  | H25                   | H26             | H27             | H28             |       |     |

## 〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                            |              |              |              |     |              |
|---------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|--------------|-----|--------------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                            |              |              |              |     |              |
| 目 標     |         | 1 豊かな心と健やかな体の育成                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                            |              |              |              |     |              |
| 施 策     |         | 1 豊かな心を育成する教育活動の充実                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                            |              |              |              |     |              |
| 取組み内容   |         | 幼児期からの豊かな情操や規範意識、命を大切にする心、さらに自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる心と態度を育み、望ましい人間関係を育成するとともに、子ども一人一人が主体的に判断して行動し、積極的に自己の良さを伸ばしていけるようにします。そのために、子どもの居場所を保障し、信頼関係を基盤とした生徒指導を展開するとともに、一人一人に寄り添った学校内外の教育相談体制の充実を図ります。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                            |              |              |              |     |              |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                        | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                            | 実績値(下段:取得年度) |              |              |     | 目標値          |
|         |         |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                            | H26          | H27          | H28          | H29 |              |
|         | 名称      | 教育相談により不登校児童生徒のうちフレンドシップルーム(適応指導教室)通室につなげた割合                                                                                                                                                           | 19.7%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 26.2%                                                                                      | 23.1%        | 31.9%        | 26.5%        |     | 33.3%        |
|         | 算式      | 通室につなげた児童生徒÷不登校児童生徒×100                                                                                                                                                                                | H24                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | H25                                                                                        | H26          | H27          | H28          |     |              |
|         |         | 状況                                                                                                                                                                                                     | 通室生が増えたものの、不登校児童生徒数も増えていることから、通室率は前年度に比べ微減となっております。<br>(通室生/不登校児童生徒 H26:30/130人 H27:44/138人 H28:41/155人)                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                            |              |              |              |     |              |
| 指標      | 名称      | 全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の割合                                                                                                                                                        | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 小学校<br>95.7%                                                                               | 小学校<br>97.2% | 小学校<br>98.3% | 小学校<br>97.7% |     | 小学校<br>98.0% |
|         |         |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 中学校<br>94.5%                                                                               | 中学校<br>93.0% | 中学校<br>94.5% | 中学校<br>94.8% |     | 中学校<br>98.0% |
|         |         |                                                                                                                                                                                                        | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | H25                                                                                        | H26          | H27          | H28          |     |              |
|         | 算式      | 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合                                                                                                                                                                                | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 目標値は98.0%と設定していますが、全国平均より小学校1.1ポイント、中学校1.2ポイント上回っております。<br>(H28全国:小学校6年生96.6% 中学校3年生93.6%) |              |              |              |     |              |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                                                                                     | フレンドシップルームには、市立小・中学校における不登校生の約30%が通室し、そのうち約60%が再登校(部分登校を含む)に至りました。また、高校進学を含めると、約70%が集団生活へと復帰することができました。これは一人一人に寄り添った教育相談・支援体制の充実の成果であると思われます。                                                                                                                                                                                 |                                                                                            |              |              |              |     |              |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                                     | 不登校に至る背景や原因が多様且つ複雑化する中で、対応する教育指導員の負担が大きくなっています。教育指導員や担当する指導主事の人員増や時間的な負担軽減が課題となっています。通室生数は大幅に増えていますが、不登校児童生徒数も増えていることから通室率は微減となっています。不登校の状態から学校に復帰する自立支援だけではなく、不登校を出さない学校づくりを目指していかなければなりません。                                                                                                                                 |                                                                                            |              |              |              |     |              |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                                   | 現在、フレンドシップルームでは、教育指導員による不登校児童生徒への通室による適応指導を行っています。その内容は教育相談・教科の学習・創作活動・調理実習・社会見学等を行っており、児童生徒の実態や課題を最大限に考慮して柔軟に対応しています。そのため、個別指導を基本とした支援する教育指導員の負担は大きく、平成29年度からは教育指導員を1名増員し、通室生一人一人に寄り添った支援を継続しています。不登校を出さない学校づくりについては、国から県を通じて委託されている「魅力ある学校づくり調査研究事業」を市内全部の学校に展開し、調査研究しているところです。                                             |                                                                                            |              |              |              |     |              |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                                  | 不登校児童生徒数は県や全国の調査と同じように増加傾向にありますが、不登校の子どもたちが人との関わりを通して少しずつ元気と自信を取り戻す場所としてフレンドシップルーム(適応指導教室)への通室率は年々高まっています。また、全国学力・学習状況調査における「いじめはどんなことがあってもいけないと思う」と回答した弘前市の子どもたちの意識は高い状態を維持していますが、全国的にはいじめにより子どもたちが命を絶つなど深刻な社会現象になっています。重要性が高まっているフレンドシップルームを不登校対策の受け皿として十分に活用することと、いじめや虐待のないひとづくりを推進するために学校・家庭・地域が一体となり、幼・小・中の連携を図る必要があります。 |                                                                                            |              |              |              |     |              |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                 | 事業概要                                                                                      | H28事業実績                                                                                                                                    | 評価・改善内容                                                                                                                                                                                                  | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| フレンドシップルーム<br><br>〈教育センター〉                    | 市内小・中学校に在籍し、<br>集団生活に困難を感じてい<br>る、又は不登校傾向にある児<br>童生徒について、集団生活<br>への復帰に向けた支援を行う<br>取組を実施   | ○教育指導員による不登校<br>傾向の児童生徒に対して、<br>通室による集団生活への適<br>応指導<br>○教育相談・教科の学習・創<br>作活動・調理実習・社会見学<br>の実施<br>○不登校に関する事例研修<br>会<br>○小・中学校不登校の約<br>25%が通室 | 市立小・中学校における不<br>登校生の約30%が通室し、<br>そのうち約60%が再登校(部<br>分登校を含む)に至ってい<br>ます。また、高校進学を含め<br>ると、約70%が集団生活へと復<br>帰しています。<br>通室生数が平成27年度以<br>降増加しているため、平成29<br>年度から教育指導員を1名増<br>員し、通室生一人一人に寄り<br>添った支援を継続していま<br>す。 | 14,262             |
| 「子どもの笑顔を広げる<br>弘前市民条例」啓発事<br>業<br><br>〈学校指導課〉 | 「子どもの笑顔を広げる弘<br>前市民条例～いじめや虐待<br>のないまちづくりを目指して<br>～」を啓発するため、あいさ<br>つ運動を実施するほか、<br>フォーラムを開催 | ○あいさつ運動の実施<br>・実施時期・回数:4・8・1月<br>3回<br>・実施場所:各小・中学校門<br>前・通学路等<br>・参加者:約4,000人<br>○弘前市教育フェスティバル<br>事業に参加                                   | 学校中心、学校関係者中<br>心の活動となり、いじめや虐<br>待を起こさせない街づくりの<br>市民運動となっていない現状<br>があります。<br>いじめや虐待を起こさせない<br>街づくりとなるように、学校中<br>心、学校関係者中心の活動<br>に留まることなく、広い市民運<br>動となるよう、次期計画にお<br>いても活動のあり方を検討<br>し、事業を進めていく必要が<br>あります。 | 874                |
| 弘前私立幼稚園連合<br>会研修事業費補助金<br><br>〈学校指導課〉         | 弘前私立幼稚園連合会が実<br>施する研修事業に要する経<br>費に対し補助                                                    | ○弘前私立幼稚園連合会研<br>修事業費補助金の交付<br>交付先:弘前私立幼稚園連<br>合会                                                                                           | 様々なカテゴリーの研修を<br>企画して教員の資質向上が<br>図られています。中央講師を<br>招聘し、視野を広げ、より充<br>実した研究活動を行うことが<br>できています。                                                                                                               | 300                |
| 弘前市教育フェスティ<br>バル事業<br><br>〈教育政策課〉             | 子どもたちが学校で学んだ成<br>果、特色ある活動、学校自慢<br>などを子どもたちが主体と<br>なって作成したパネル展示の<br>ほか学習成果の発表              | ○市内小・中学校等のパネ<br>ル展示56校<br>○広報紙紹介57校<br>○キャラクター紹介18体<br>○ステージ発表4校<br>・堀越小学校吹奏楽部<br>・岩木小学校吹奏楽団<br>・朝陽小学校三味線クラブ<br>・第五中学校保健委員会                | 普段目にする機会が少ない<br>子ども達の教育活動の発表<br>は、来場した市民にはとても<br>好評であった。<br>また、会場を教育センター<br>からヒロロに移し、開催期間も<br>1日から4日間に延長したの<br>で、より多くの市民へ学校の<br>活動や教育委員会の取組を<br>紹介する機会となった。                                              | 500                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                      | 事業概要                                                                                                                     | H28<br>決算額<br>(千円) |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 弘前地区小学校生徒指導連絡協議会補助金、弘前地区中学校生徒指導連絡協議会補助金<br>〈学校指導課〉 | 小・中学校教員の生徒指導研究及び充実のための組織活動に要する経費に対し補助                                                                                    | 100                |
| 生徒指導支援事業<br>〈学校指導課〉                                | 小・中学校の生徒指導面に関わる諸問題の早期解決を目指して、教員経験者やカウンセラーの資格等を有する人材を雇用し、学校での教育活動全般を支援するとともに、ネットパトロールを実施                                  | 1,442              |
| 情報モラル等啓発事業<br>〈学校指導課〉                              | ネットを介したトラブルの未然防止や早期発見・対応を図るため、ネットパトロールを実施するほか、担当者会議を開催                                                                   | 128                |
| 「子ども悩み相談」事業<br>〈教育センター〉                            | いじめや不登校、学習に関することや人間関係などについて悩む児童生徒に対して健全な成長と問題の早期解決を図るために、電話での相談窓口を開設。また、「こども悩み相談電話」についてのカードやポスターを作成し、児童生徒や保護者に周知を図る取組を実施 | 100                |
| 合宿による不登校・問題行動等改善プログラム事業<br>〈教育センター〉                | フレンドシップルーム通学生等が、岩木青少年スポーツセンターに合宿しながら、規則的な生活を送るプログラムを実施                                                                   | 294                |
| 心の教室相談員配置事業<br>〈学校指導課〉                             | 生徒の悩み相談・話し相手となるほか、地域及びフレンドシップルームと学校の連携を促進する「心の教室相談員」を全市立中学校に配置                                                           | 8,244              |

〈施策シート〉

|         |              |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
|---------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|
| 施策の基本方向 |              | Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
| 目 標     |              | 1 豊かな心と健やかな体の育成                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
| 施 策     |              | 2 健やかな体を育成する教育活動の充実                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
| 取組み内容   |              | 子どもたちの食生活の乱れや生活習慣病の低年齢化等が見られることから、食に対する正しい知識と望ましい食習慣を指導します。<br>また、児童生徒による飲酒・喫煙・薬物乱用が問題となっているほか、性に関する情報の氾濫による影響が危惧されることから、健康教育講座を実施し、正しい知識を習得させます。<br>さらに、生涯にわたって運動に親しむとともに、健康で活力ある生活を送るために、学校、家庭、地域等と連携した取組を推進します。 |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
| 指標      | 指標名及び算式      |                                                                                                                                                                                                                    | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                     | 実績値(下段:取得年度) |              |              |              | 目標値   |
|         |              |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     | H26          | H27          | H28          | H29          |       |
|         |              |                                                                                                                                                                                                                    | 名称                                                                                                                                                                                                                                                          | 小学校<br>92.5%                                                        | 小学校<br>91.3% | 小学校<br>96.5% | 小学校<br>97.2% | 小学校<br>96.5% |       |
|         | 中学校<br>84.1% | 中学校<br>86.5%                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                             | 中学校<br>92.4%                                                        | 中学校<br>93.4% | 中学校<br>93.9% |              | 中学校<br>93.0% |       |
|         | 算式           | 「全国学力・学習状況調査アンケート」での朝食摂取率                                                                                                                                                                                          | 状況                                                                                                                                                                                                                                                          | 目標値を小学生は95.0%、中学生は93.0%としていますが、目標値より小学生は1.5ポイント、中学生は0.9ポイント上回っています。 |              |              |              |              |       |
| 指標      | 名称           | スポーツテストの学年男女別の平均値が全国平均を上回る割合                                                                                                                                                                                       | 72.2%                                                                                                                                                                                                                                                       | 38.8%                                                               | 33.3%        | 22.2%        | 22.2%        |              | 50.0% |
|         |              |                                                                                                                                                                                                                    | H22                                                                                                                                                                                                                                                         | H24                                                                 | H26          | H27          | H28          |              |       |
|         | 算式           | スポーツテストの調査集計データから、小学校1年生～6学年男女の12グループ、中学校1年生～3学年男女の6グループ合計18グループの内全国平均を上回るグループの割合(%)                                                                                                                               | 状況                                                                                                                                                                                                                                                          | 目標値を50.0%としていますが、目標値より27.8ポイント下回っています。                              |              |              |              |              |       |
| 評価      | 成果           | H28                                                                                                                                                                                                                | 当該施策で実施している健康教育や運動に係る取り組みは、成果を早急に求めることは困難であり、継続的に実施することにより成果が現れるものと考えます。<br>その中で、児童生徒の朝食摂取率は、小学校では平成28年度に若干減少しましたが、過去の状況を踏まえると年々上昇傾向にあります。このように、栄養教諭等による食に関する指導や食育など、継続的な取り組みの成果が着実に現れていきています。                                                              |                                                                     |              |              |              |              |       |
|         |              |                                                                                                                                                                                                                    | スポーツテストの学年男女別の平均値が全国平均を上回る割合が低下傾向になっています。<br>小学校では、運動に取り組んでいる子どもの記録に伸びがあることから、授業の工夫や環境の整備等により、運動する場や機会が少ない子どもたちが運動に取り組めるようにする必要があります。<br>中学校では、男女の持久力の低下が課題となっており、その背景として、生活習慣の乱れ、心の健康問題等、さまざまな要因が考えられます。そのため、健康教育や食育等を含めて総合的に体力・運動能力向上に係る取り組みを実施する必要があります。 |                                                                     |              |              |              |              |       |
|         | 課題           | H28                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
|         |              |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
|         | 事中評価         | H29                                                                                                                                                                                                                | 現在、当該施策に紐づく計画事業は全て着手しています。<br>また、計画事業である健康教育推進事業では、平成28年度に作成した各校の健康教育コアカリキュラム(学校保健計画)の実施が、平成29年度から全小・中学校で開始しています。                                                                                                                                           |                                                                     |              |              |              |              |       |
|         |              |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |
| 改善内容等   |              | 肥満傾向児出現率が全国と比較して高く、運動をしない児童生徒の割合も小学校では一旦低くなるものの、中学校から次第に高くなっていきます。生涯を通じて健康を維持するためには、さまざま生活習慣が影響することから、子どもの頃から健康に関する正しい知識を身に付けるとともに、身に付けた知識を日常生活で実践できるようにする必要があります。                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                     |              |              |              |              |       |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                                 | 事業概要                                                                                                                                                 | H28事業実績                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 評価・改善事項                                                                                                   | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 健康教育推進事業<br><br>〈学務健康課〉                                       | 市立小・中学校に医師や薬剤師などの専門家を派遣し、小学校高学年に対しては、飲酒・喫煙防止、中学校2年生に対しては性に関する講座を、(一社)弘前市医師会に業務委託して実施<br>食生活改善推進委員会や関係団体とともに、国や県が定める食育月間である6月と11月に開催される「食育フェスティバル」に参加 | 【実績】<br>○健康教育指導者養成講座・実施時期・回数:8月・9月・1月 4回(①～④)<br>○健康教育講座(全小・中学校で実施)<br>・開催時期・回数:4月～3月 51回 参加者:3,237人<br>・講師養成研修会:8月 1回 参加者:30人<br>○食育フェスティバル(ヒロロにおいて開催)<br>・開催時期・回数:6月及び11月に各1回 参加者:合計約800人<br>○実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究<br>・岩木小学校における実践研究<br>健康教育コアカリキュラムの開発、授業実践、長期休業中の運動習慣調査、啓発活動等 | 飲酒・喫煙による悪影響や性に関する知識を得ることで、児童生徒自身の健康について考えるきっかけづくりとなっています。                                                 | 1,584              |
| アレルギー対応食提供事業<br><br>〈学務健康課〉                                   | 食物アレルギーのある児童生徒にアレルギーに応じた代替食を提供                                                                                                                       | ○対応者数:120名<br>○対応アレルギー:22種類<br>○対応食提供食数:3,772食                                                                                                                                                                                                                                               | 食物アレルギーを持つ児童生徒に対し学校給食において対応食を提供します。また、教員等に対し、食物アレルギーに対しての正しい知識と緊急時の迅速な対応についての研修会を開催しており、必要性が高いものとなっております。 | 4,824              |
| 小学校スポーツテスト調査研究、中学校スポーツテスト調査研究(新体力テストの集計・分析・活用)<br><br>〈学校指導課〉 | 学校体育の指導資料とするため、小・中学校におけるスポーツテストの集計調査研究委託を実施                                                                                                          | ○小・中学校におけるスポーツテストの集計、分析をそれぞれ委託。<br>○上記結果を基に、指導参考資料の作成。<br>○「学校保健・体育資料」への掲載により、学校現場における教育への還元。                                                                                                                                                                                                | 経年変化から児童生徒の状況を把握し、児童生徒の発達の段階における、特徴に配慮した指導及び啓発活動の必要があります。                                                 | 111                |
| 地域スポーツアシスタント事業<br><br>〈学校指導課〉                                 | 小・中学校の運動部活動に対する外部指導者の派遣                                                                                                                              | ○小・中学校運動部活動へ外部指導者の派遣。20人30回<br>○感染症予防のため、外部指導者に対しX線検査の実施。<br>○外部指導者の資質向上のため研修会の開催。1回/年                                                                                                                                                                                                       | 校長から推薦された指導力に優れた外部指導者を派遣しており、派遣人数を大幅に増やすことは、指導の質の低下をまねく恐れがあります。現在の指導の質を維持するためにも、現在の規模の実施が必要です。            | 918                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                        | 事業概要                                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------|--------------------|
| 学校給食賄材料地元産品利用促進事業<br>〈学務健康課〉         | 納入業者と連携を図り、供給時期、数量等について、情報を交換しながら、学校給食への地元産品利用を促進 | -                  |
| 学校体育関係各種研修会<br>〈学校指導課〉               | 学校体育における衛生管理や安全指導等、指導力向上のための研修を実施                 | 80                 |
| 弘前地区中学校体育大会運営事業費補助金<br>〈学校指導課〉       | 弘前地区中学校体育連盟が主催する弘前地区中学校体育大会運営事業に要する経費を補助          | 715                |
| 青森県、東北及び全国中学校体育大会派遣事業費補助金<br>〈学校指導課〉 | 青森県、東北及び全国中学校体育大会系派遣事業に要する経費を補助                   | 5,052              |
| 中学校体育指導強化事業費補助金<br>〈学校指導課〉           | 弘前市中学校長会が実施する中学校体育指導強化事業に要する経費を補助                 | 1,830              |
| 小学校連合体育大会運営事業費補助金<br>〈学校指導課〉         | 弘前市小学校体育研究会が主催する小学校連合体育大会に要する経費を補助                | 3,000              |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
|---------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----|----------------------|
| 施策の基本方向 |         | I 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
| 目 標     |         | 2 確かな学力の定着と向上                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
| 施 策     |         | 1 よくわかる授業づくりの推進                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
| 取組み内容   |         | ・子ども一人一人が学ぶ意欲をもち、主体的に確かな学力を身に付けるために、計画訪問等を通して教員の授業づくりへの指導・支援を行い、個に応じた学習指導と望ましい学習集団の形成及び学習習慣の改善に努めます。<br>・ICTの活用を視点とした授業改革・授業づくりが求められていることから、ICT活用の環境整備や教員の指導力向上などを図るため、先行研究としてモデル校の児童生徒一人にタブレット端末一台という環境での授業に取り組みます。 |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                                      | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                             | 実績値(下段:取得年度)         |                      |                      |     | 目標値                  |
|         |         |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                             | H26                  | H27                  | H28                  | H29 |                      |
|         | 名称      | 小学5年生と中学2年生の勉強が好きな児童生徒の割合                                                                                                                                                                                            | 小5 71.8%<br>中2 58.6%                                                                                                                                                                                                                                           | 小5 68.4%<br>中2 53.2%                                                                                                                        | 小5 75.7%<br>中2 62.0% | 小5 68.9%<br>中2 60.2% | 小5 70.5%<br>中2 58.1% |     | 小5 80.0%<br>中2 60.0% |
|         |         |                                                                                                                                                                                                                      | H24                                                                                                                                                                                                                                                            | H25                                                                                                                                         | H26                  | H27                  | H28                  |     |                      |
|         | 算式      | 小学5年生「勉強が好きだ」<br>中学2年生「勉強が好きだ」                                                                                                                                                                                       | 状況                                                                                                                                                                                                                                                             | 県の3年ごとの調査結果と比較すると、平成26年度の小学5年生は県75.7%と同じ、中学2年生は県67.9%よりも5.9ポイント低い状況でした。各年度の児童生徒によって割合は上下しますが、中学2年生の5年間の推移を見るとやや上昇傾向にあり、特に、英語は11ポイント増加しています。 |                      |                      |                      |     |                      |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                                                                                                   | 計画訪問により、学校教育指導の方針と重点を全教員に徹底するとともに、板書計画の提出を求めることで、ほぼ全ての授業においてめあてが示されるようになりました。諸計画、表簿も、年度を重ねるごとに整ってきました。<br>「弘前式」ICT活用教育推進事業により、28年度に全小・中学校の普通教室3分の1に実物投影機及び電子黒板機能付プロジェクターが整備されたことで、ICTを活用した授業づくりに取り組める最低限の環境が整いました。                                             |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                                                   | よくわかる授業づくりのためには、ねらいを明確にして児童生徒の課題意識を高めること、まとめや振り返りが着実に行われることなど、達成が不十分な点について、授業者に対してより具体的な指導・助言をする必要があります。<br>また、「弘前式」ICT3点セットが全て整備できるためには、多額の経費を要するほか、教員のICT活用スキル向上も必須であり、今年度取り組む効果検証の結果を踏まえながら、計画的な整備を進める必要があります。                                              |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                                                 | 現在、当該施策の計画事業は全て着手しております。計画訪問は一学期中の予定でしたが、学校事情により1校のみ8月に実施します。また、ICT活用授業の効果測定・検証を指定校4校で実施するとともに、「次世代のひろさきICT活用教育チャレンジプロジェクト」でモデル校3校によるタブレット児童1人1台環境での授業実践に挑戦します。                                                                                                |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                                                | 本市では、ICTを活用した授業づくりに取り組める最低限の環境が整い、ICTを活用した授業づくりが行われるようになりましたが、日常的な活用が行われるよう推進する必要があります。また、「勉強が好き」と回答する子どもの割合が高い学校ほど、正答率が高い傾向があり、小中を比較すると小学校のほうが相関が強くなっていることから、子どもたちの興味・関心を高め、子どもたち自身が課題意識をもって学習を進める授業づくりについて指導・助言するとともに、ICT活用の推進のためのハード面・ソフト面の支援が欠かせない状況にあります。 |                                                                                                                                             |                      |                      |                      |     |                      |

## 1 施策を構成する主な事業

## 2 施策に関連する事業

16

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
|---------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------|-------------|-----|-------------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
| 目 標     |         | 2 確かな学力の定着と向上                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
| 施 策     |         | 2 学力の向上に向けた取組の推進                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
| 取組み内容   |         | ・標準学力検査結果分析をもとに、児童生徒の学力の状況を把握し、学習指導上の課題解決のための授業改善や学習習慣の方向性について研修し、各学校における分析や学習指導の改善を支援します。 |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                            | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                     | 実績値(下段:取得年度) |             |             |     | 目標値         |
|         |         |                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                     | H26          | H27         | H28         | H29 |             |
|         | 名称      | 標準学力検査教科平均通過率と全国との比較(小5～中1)                                                                | 全国比<br>108%                                                                                                                                                                                                                     | 全国比<br>109%                                                                                                                                                                                                                                                         | 全国比<br>109%  | 全国比<br>106% | 全国比<br>107% |     | 全国比<br>113% |
|         |         |                                                                                            | H24                                                                                                                                                                                                                             | H25                                                                                                                                                                                                                                                                 | H26          | H27         | H28         |     |             |
|         | 算式      | 市通過率の全国に対する割合                                                                              | 状況                                                                                                                                                                                                                              | 市通過率は、全国通過率と比較し、いずれの年も6%～9%上回っている。                                                                                                                                                                                                                                  |              |             |             |     |             |
| 指標      | 名称      | 標準学力検査教科平均通過率と全国との比較中2、中3[中学校学習内容]                                                         | 全国比<br>10%                                                                                                                                                                                                                      | 全国比<br>102%                                                                                                                                                                                                                                                         | 全国比<br>102%  | 全国比<br>102% | 全国比<br>103% |     | 全国比<br>106% |
|         |         |                                                                                            | H24                                                                                                                                                                                                                             | H25                                                                                                                                                                                                                                                                 | H26          | H27         | H28         |     |             |
|         | 算式      | 市通過率の全国に対する割合                                                                              | 状況                                                                                                                                                                                                                              | 市通過率は、全国通過率と比較し、いずれの年も2%～3%上回っている。                                                                                                                                                                                                                                  |              |             |             |     |             |
|         | 評価      | H28                                                                                        | 成果                                                                                                                                                                                                                              | RーPDCAサイクルで組織的に検証改善を図ることで全国通過率を常に安定的に上回る成果が得られています。「標準学力検査」(R)による学習の成果と課題の把握、知能検査との相関による一人一人の学習スタイルやアンダーアチーバーの把握、「学力向上プラン」(P)による自校の強み・弱みの把握、最重点と数値目標、校内体制・実践内容の計画、「学校訪問」及び「学力向上対策研修会」(D)による検査分析に基づく授業改善、教員の指導力向上、「プラン検証報告」(C)による改善点及び対応策の検討、新年度の取組(A)への反映に取り組んでいます。 |              |             |             |     |             |
| 課題      |         |                                                                                            | 各校には、学校ごとの標準学力検査及び知能検査の詳細な分析資料のほか、市全体と各校との比較や経年の変化、アンダーアチーバーの人数がわかるシートを作成、配付していますが、その活用は、主に各教科指導における課題に向けられています。例えば、定着が悪かった単元や領域に着目し、繰り返し指導するなどです。今後は、児童生徒一人一人の学習状況が明確になる特長を生かし、集団への配慮に加え、児童生徒一人一人への配慮を生かした指導が展開される必要があります。     |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
| H29     |         | 事中評価                                                                                       | 昨年度まで各校に提出を求めた「学力向上プラン」を見直し、「子どもの声・意識調査」に基づく「魅力ある学校づくりプラン」を事業に位置付けました。年3回の「子どもの声・意識調査」をもとに自校の強み・弱みを把握し、手立ての点検と見直しを各校で3回繰り返します。児童生徒一人一人への配慮を生かした指導が展開され、アンダーアチーバーが解消されることが期待されます。(「子どもの声・意識調査」の全国平均値を提供するとともに、各校の集計は教育委員会が行います。) |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |
|         |         | 改善内容等                                                                                      | 今年度の標準学力検査の結果では、全ての学年及び教科において、全国平均を上回りました。また、児童生徒一人一人の学習状況を把握し、配慮しながら指導に当たること、今年度はアンダーアチーバー(UA)の割合が昨年度に比べて、小5、小6、中3で1%から3%減少しました。持てる力を発揮できないでいる児童生徒が少しずつ減少していると言えます。今後も、アンダーアチーバー解消に向けて、学校における授業改善が推進されるよう支援を進めていく必要があります。      |                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |             |             |     |             |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                        | 事業概要                                                                               | H28事業実績                                       | 評価・改善事項                                                                                                                                       | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 学力向上対策事業(標準学力検査・知能検査)<br><br>〈学校指導課〉 | 子どもの学力の現状を把握し、学習指導上の課題と改善の方向性を示し、各学校が指導の改善に活用できるようにするとともに、学力向上にむけた校内体制づくりや指導の工夫を推進 | ○知能検査、標準学力検査、青森県学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の実施。 各1回／年 | 当市独自で実施している「知能検査」及び「標準学力検査」は、児童生徒一人一人の学習状況が把握できるものです。特に、知能レベルと各教科偏差値との相関における分析では、児童生徒一人一人の学習状況を正確に把握することができ、各校では、それを基に児童生徒の実態にあった指導を展開しております。 | 4,705              |

### 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉         | 事業概要                                                                  | H27<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 指導主事研修<br><br>〈学校指導課〉 | 学校が抱える問題に適切に対応し、学校教育指導の質的向上を図るため、県内外の研修会や管内教育委員会の指導主事関係職員を対象とした研修会に参加 | 376                |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                              |              |        |        |     |        |
|---------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------|--------|--------|-----|--------|
| 施策の基本方向 |         | I 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                              |              |        |        |     |        |
| 目 標     |         | 2 確かな学力の定着と向上                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                              |              |        |        |     |        |
| 施 策     |         | 3 時代に対応する教育の推進                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                              |              |        |        |     |        |
| 取組み内容   |         | ・子どもたちが、将来の夢と希望を抱き、社会の中で自分らしい生き方を見いだすことができるよう、国際化や情報化の進展などの社会の変化や技術革新等に対応できる教育の充実を図るとともに、地域の特色を生かした教育活動を展開します。また、次期学習指導要領の改正案に示される小学校3・4年生からの外国語活動の実施、5・6年生の外国語活動の教科化に向け、ALTを増員し先行研究の取り組みを拡充します。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                              |              |        |        |     |        |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                  | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                              | 実績値(下段:取得年度) |        |        |     | 目標値    |
|         |         |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                              | H26          | H27    | H28    | H29 |        |
|         | 名称      | ALT常駐先行実施小学校における、将来英語を使いたいと思う児童の割合                                                                                                                                                               | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | -                                                            | -            | -      | 100%   |     | 90.00% |
|         | 算式      | ALT常駐先行実施小学校におけるアンケート調査                                                                                                                                                                          | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 目標値を90%と設定していますが、既に上回っております。                                 |              |        |        |     |        |
| 指標      | 名称      | 英語の授業において、生徒の英語による言語活動時間の割合を50%以上行っている教員の割合(中学校)                                                                                                                                                 | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 21.88%                                                       | 15.00%       | 35.71% | 60.00% |     | 50.00% |
|         |         |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | H25                                                          | H26          | H27    | H28    |     |        |
|         | 算式      | 「英語教育実施状況調査」4月(市独自調査)と11月(国調査)で取得                                                                                                                                                                | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 平成26年度は、一旦下降しましたが、その後は上昇を続け、平成28年度は、60.0%に達し、既に目標値を上回っております。 |              |        |        |     |        |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                                                                               | ALTの増員については各学校から、子どもたちが本物の英語に触れ、慣れ親しむ機会が増えたと成果を得ています。<br>中学生国際交流学習事業へのニーズは高く、平成28年度と29年度は60名以上の応募者があり、現地生徒との交流やホームステイを通して英語によるコミュニケーションを経験し、異文化理解を高めることができました。                                                                                                                                                 |                                                              |              |        |        |     |        |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                               | 平成26年度より、英語担当教員を対象に講座を立ち上げ、英語力の向上に努めていますが、受講者数が10人前後と少ないのが現状です。平成27年度からは「英語教育調査研究委員会」において、さらなる指導力向上への取組を行っています。<br>ALTのベース校配置については、効果が一層高まるように、ベース校を拡大していく必要があります。<br>中学生国際交流学習事業については12名の生徒の参加でしたが、各中学校から選抜できるように派遣人数を増やし、将来の弘前市のリーダーとなり得る人材を広く求めていく必要があります。                                                  |                                                              |              |        |        |     |        |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                             | 現在、当該施策に基づく計画事業は全て着手しております。<br>7月下旬から8月上旬にかけて、ALTの入替があります。今年度は4名のALTが退任し、7名の新ALTが着任予定となっています。JETプログラムコーディネーターと連携し、新ALTのサポート体制を整えながら、スムーズに移行できるようにします。                                                                                                                                                          |                                                              |              |        |        |     |        |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                            | ALT常駐先行実施小学校における「将来英語を使いたいと思う」児童の割合、中学校の英語の授業において生徒の英語による言語活動時間の割合を50%以上行っている教員の割合は、順調に推移してはいるものの、小学校において次期学習指導要領が平成32年度に完全実施されると、授業時間数が、現在の70時間(5・6年生)から210時間(3～6年生)と大幅に増えることから、英語に親しみ英語が好きな児童生徒が増える一方、英語を苦手とする児童生徒も出てくると考えられます。また、中学校において次期学習指導要領が平成33年度に完全実施されると、互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う、対話的な言語活動が今まで以上に重視されます。 |                                                              |              |        |        |     |        |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉               | 事業概要                                                                                                   | H28事業実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 評価・改善事項                                                                                                                                                                                                                                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 英語教育推進事業<br><br>〈学校指導課〉     | 小学校外国語活動の3・4年生からの実施や5・6年生での教科化、さらに中学校英語の授業を英語で行うという動きに対応すべく、弘前市の求める英語教育の方向性を探りながら先行研究(カリキュラム・先進校視察)を実施 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究調査の実施</li> <li>・英語教育調査研究校英検IIBA受検支援(年2回の検証テスト)</li> <li>・ALTのベース校(8人)及び小学校専門・中学校専門(各1人)配置</li> <li>・ALT1名増員による小学校での常駐先行実施(1校)</li> <li>・先進校視察(東京方面:3名)</li> <li>・指導者研修会及び講座の実施(各1回/年)</li> <li>・公開授業講師謝金・交通費(弘前大学講師)</li> <li>・英語パワーアップ事業<br/>イングリッシュキャンプ(小学生36人、中学生4人)</li> <li>・英検IIBA受検支援(中学校3年生1032人)</li> </ul> | 公開授業を小学校・中学校それぞれ1校で実施し、協議会において話し合いを深めることで、英語担当教員の授業づくりへの意識が高まっています。また、ALTの増員(平成26年度7名から平成29年度14名)により、ALT派遣のベース校も増えており、それらの学校においては、授業だけでなく、その他の活動(行事・部活動等)での触れ合いが増え、校内で英語を使う必然性をもたらしています。さらに、イングリッシュキャンプでは、小学生が英語劇の創作を通じて英語に慣れ親しむことで、英語の学習意欲が向上しています。 | 49,907             |
| 中学生国際交流学習事業<br><br>〈学校指導課〉  | 中学生を海外に派遣し、現地の生徒との交流会やホームステイなどの国際交流学習を実施                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の海外派遣(英語が公用語の国) <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣時期:夏期休業中</li> <li>・派遣先:シンガポール</li> <li>・派遣人数:12人</li> <li>・内容:英語漬け体験及びホームステイ</li> </ul> </li> <li>○報告書の作成・配布</li> </ul>                                                                                                                                   | 英語を実際の意味疎通のツールとして使う経験と英語をすべて英語で学ぶという体験は、以後の英語学習への意欲付けにつながっています。また、弘前さくらまつり英語ボランティアでは、外国からの観光客に道案内をすることを通じて、英語を使うことへの自信を一層強くしました。                                                                                                                     | 2,984              |
| わくわく科学実験事業<br><br>〈教育センター〉  | 理科の授業における実験技術や指導法について卓越した講師を小学校に派遣し、授業における観察・実験活動を中心に授業を行うことで教員の資質向上を図りながら、児童の理科の学習への興味・関心を高める取組を実施    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別講師による授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期・回数:9月～12月 10回</li> <li>・実施場所:市立小学校</li> <li>・参加者:児童478人</li> </ul> </li> <li>○教材等の環境整備<br/>理科実験用ガスコンロ10台</li> </ul>                                                                                                                                             | 児童が特別講師による質の高い授業を体験できる機会を増やしたことで、市内児童の理科への興味・関心を高めることができるため、今後も継続する必要があります。                                                                                                                                                                          | 385                |
| 外国語活動支援員派遣事業<br><br>〈学校指導課〉 | 小学校5・6年生の外国語活動を円滑に進めるため、各校からの要望に応じて外国語活動支援員を派遣                                                         | ○文部科学省が外国語の教科化に伴って打ち出した5・6年生の専科教員による指導に関する先行調査研究として、指導案の共通化実施と支援員のアドバイザー的役割への移行研究実施。                                                                                                                                                                                                                                                                           | 平成32年の小学校外国語活動教科化に伴って、「書く」「読む」の指導が加わります。英語を教える教育を受けていない小学校教員への支援は更に必要となります。                                                                                                                                                                          | 7,780              |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                             | 事業概要                                                                                                             | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 外国人児童生徒、帰国子女に対する日本語指導<br>支援事業<br>〈教育センター〉 | 外国人児童生徒や帰国子女が安心した学校生活を送る<br>ための環境づくりとして、日本語指導支援員を配置                                                              | 2,789              |
| 理科観察実験支援事業<br>〈教育センター〉                    | 小・中学校における理科の観察・実験活動の充実を図る<br>ため、設備の準備、調整を行う補助員(観察実験アシスタ<br>ント)を派遣                                                | 1,719              |
| 弘前市少年少女発明クラブ事業費補助金<br>〈学校指導課〉             | 市内小・中学校児童生徒に、科学に親しみ学ぶことができ<br>る体験的活動の場を提供し、科学的思想に基づく創造的能<br>力の育成と豊かな人間形成を目指すための学習会、各種<br>発明展への応募やコンテストに参加する取組を実施 | 100                |
| 学校運営要項作成<br>〈学校指導課〉                       | 各学校、関係機関の指導資料等とすることを目的に、小・<br>中学校の教員目標、経営の主点及び特色等を集録した冊<br>子を作成し、市HP等に公開するとともに関係機関等へ配布                           | -                  |
| 全国小・中学校教育の動向調査研究委託<br>〈学校指導課〉             | 本市学校教育の振興に資するため、県外研究先進校や<br>研究大会等への参加を通して国の教育行政の動向や全国<br>の先進的研究事例などの調査を行い、成果を印刷物として<br>各校に配布                     | 140                |
| プラネタリウム学習投影<br>〈教育センター〉                   | 園児や児童生徒の学習への興味・関心を高めるため、学<br>校(園)で指導が困難な理科の天体の学習について、プラ<br>ネタリウムを活用した活動を行う取組を実施                                  | 14                 |
| 弘前子ども議会<br>〈教育センター〉                       | 市内小・中学校の児童生徒が夢を持って未来を描き、そ<br>の思いを各校の代表者が持ち寄り、弘前市議会議場で話し<br>合いを行うことを通じて、次代を担う人材を育成する取組を<br>実施                     | 119                |

〈施策シート〉

|         |           |                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                           |              |       |       |     |       |
|---------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------|-------|-------|-----|-------|
| 施策の基本方向 |           | Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                           |              |       |       |     |       |
| 目 標     |           | 3 夢を抱き未来をひらく青少年の育成                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                           |              |       |       |     |       |
| 施 策     |           | 1 生きる力を育む地域活動の支援                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                           |              |       |       |     |       |
| 取組み内容   |           | 学校・家庭・地域が連携して、子どもが社会の中で積極的に生きる自覚を高める仕組みを形成するために、地域において青少年を育成するための取組や各種団体の活動を支援し、子どもたちが地域に見守られていることが実感できるよう、また、地域住民にとっても子どもたちを育てていることが見える取組を進めます。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                           |              |       |       |     |       |
| 指標      | 指標名及び算式   |                                                                                                                                                  | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                           | 実績値(下段:取得年度) |       |       |     | 目標値   |
|         |           |                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                           | H26          | H27   | H28   | H29 |       |
|         | 名称        | 青少年の健全育成活動に参加したことがある市民の割合                                                                                                                        | 20.3%                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 19.4%                                     | 23.7%        | 27.1% | 27.0% |     | 33.4% |
|         |           |                                                                                                                                                  | H22                                                                                                                                                                                                                                                                                        | H25                                       | H26          | H27   | H28   |     |       |
| 算式      | 地域経営アンケート | 状況                                                                                                                                               | 過去の状況から0.1ポイント低下していますが、計画策定時より7.6ポイント上昇しています。                                                                                                                                                                                                                                              |                                           |              |       |       |     |       |
| 指標      | 名称        | 地域の行事に参加している子どもの割合(小学生)                                                                                                                          | 61.8%                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 55.9%                                     | 60.4%        | 57.1% | 56.9% |     | 63.9% |
|         |           |                                                                                                                                                  | H22                                                                                                                                                                                                                                                                                        | H25                                       | H26          | H27   | H28   |     |       |
|         | 算式        | 全国学力・学習状況調査                                                                                                                                      | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 過去の状況から1ポイント低下していますが、計画策定時より1ポイント上昇しています。 |              |       |       |     |       |
| 評価      | H28       | 成果                                                                                                                                               | 「子ども会活動推進事業」では、地域の子どもの活動に積極的に関わる住民の取り組みが生まれています。「弘前市子どもの祭典(実行委員会)支援事業」では、地域の育成関係者と連携を図ることにより、子どもが年間を通して活動できる環境づくりを進めています。また、これらの事業に参加した子どもは、異年齢の仲間との社会性を高め、力を合わせて目的を達成することで、自信を獲得します。                                                                                                      |                                           |              |       |       |     |       |
|         |           | 課題                                                                                                                                               | 事業の定員に対する参加率は7割程度に留まる結果となっています。また、参加者アンケートでは、小・中・高校生が自ら希望して参加する割合は35%、家族の促しが45%となっており、児童生徒が参加を希望しても、保護者の理解がなければ参加に至らない状況がうかがえます。<br>このことから、事業の周知の際には、保護者が、子どもたちが事業に参加することでどのような成長が期待できるのか、具体的にイメージできるように心掛ける必要があります。                                                                       |                                           |              |       |       |     |       |
|         | H29       | 事中評価                                                                                                                                             | 現在、当該施策の配下に位置付けられた計画事業は、すべて着手しており、計画通り進捗しています。募集定員の5割程度に留まっていた子ども対象の事業は、保護者が「子どもはこの事業に参加することにより、どんなことが成長できるのか」をより具体的にイメージできるよう周知方法を見直し、結果7割程度にまで上昇しています。<br>社会教育での子ども達の学びは、共通する活動の中で他者との関係性を認識し、コミュニケーションスキルや共通の目的達成への行動などを通して、自分や他者を高め合うことにあることから、様々な子ども達が多数集えるような事業のPRを積極的に行うことが極めて重要です。 |                                           |              |       |       |     |       |
|         |           | 改善内容等                                                                                                                                            | 弘前市では、地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童・生徒の割合は、全国平均及び青森県平均を上回っている一方で、地域の行事への参加については全国平均をやや下回っています。児童・生徒におけるボランティア活動が活発であるものの、地域との関わりとは必ずしも結びついていない現状がうかがえます。<br>また、定性分析では、子どもを取り巻く生活環境を深く分析すること、また、子どもを継続的に育成事業に参加させていくことが重要であるとの意見もあり、地域において青少年を育成するためには総合的に事業を進めて行く必要があります。                    |                                           |              |       |       |     |       |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                    | 事業概要                                                                         | H28事業実績                                                                                                                                             | 評価・改善事項                                                                                                                                                                                        | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 子ども会活動推進事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉                   | 地域での青少年を育成する<br>仕組みづくりを進めるため、<br>地域住民が行う子ども会活動<br>の活性化に資する事業に対<br>し補助        | ○補助金の交付<br>・事業募集の通知(広報等)<br>・事業審査会:1回<br>・事業申請件数:7件<br>・補助金交付件数:6件                                                                                  | 規模は大きくありませんが、<br>地域の大人が子ども達のため<br>に活動できる仕組みづくりに<br>寄与しているため事業を継続<br>して実施することが必要です。                                                                                                             | 283                |
| 子ども会リーダー養成<br>事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉             | 市内の小中学生、高校生を<br>対象に、異なる年代の子ども<br>達との交流や子ども会活動<br>の基本的な知識の習得を目的<br>とした宿泊研修を実施 | ○対象者:33人<br>(小学生25、中学生3、高<br>校生5)<br>○事業概要<br>・期間:5月～2月<br>・内容:宿泊体験学習(梵珠<br>少年自然の家)、弘前公園探<br>検、交流会の企画実施、カル<br>タ大会、レクリエーション活<br>動等<br>全10回に延べ296人が参加 | 本事業は、弘前市・太田市<br>青少年交流事業の対象者・<br>事業期間が重複するため、<br>隔年で実施しています。<br>28年度は、これまで宿泊体<br>験学習を中心としたプログラ<br>ムを、恒例の宿泊体験学習<br>のほか、月1回程度、計10回<br>の継続した事業を展開し、年<br>間を通してレクリエーション<br>スキルの習得等、リーダー養成<br>を行いました。 | 359                |
| 弘前市子どもの祭典<br>(実行委員会)支援事<br>業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉 | 「弘前市子どもの祭典」の企<br>画・立案や当日の運営等を行<br>う、弘前市内の中高中生で構<br>成される弘前市子どもの祭典<br>実行委員会を支援 | ○委員募集、祭典周知(広報<br>等)<br>○子どもの祭典(11月3日)<br>・開催場所:弘前文化セン<br>ター<br>・参加者:約900人<br>○実行委員会<br>・実行委員:15人(一般公<br>募)<br>・会議回数:24回(4月～10<br>月)<br>○ふりかえり交流会    | 施策の取り組みを全市のエ<br>リアで行う事業であり、今後も<br>子どもの祭典の目的を達成<br>できるよう意欲のある子ども達<br>を支援していくことが必要で<br>す。                                                                                                        | 0                  |
| 弘前市少年教育指導<br>員派遣事業<br><br>〈生涯学習課〉                | 地域少年団体等を育成指<br>導し、少年の健全な成長を図<br>るために、地域少年団体等<br>の求めに応じて弘前市少年<br>教育指導員を派遣     | ○指導員の派遣<br>・派遣事業件数:26件<br>・派遣人数:延べ160人                                                                                                              | 地域少年団体等を育成指<br>導し、少年の健全な成長を図<br>るために、地域少年団体等<br>の求めに応じて、引き続き市<br>少年教育指導員を派遣しま<br>す。                                                                                                            | 781                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                      | 事業概要                                                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 弘前市ガールスカウト弘前地区協議会事業費補助金<br>〈生涯学習課〉 | ガールスカウト弘前地区協議会が行う、指導者の養成や啓発活動等を目的とした活動に係る費用の一部を補助                 | 100                |
| 弘前市相馬子ども会育成協議会事業費補助金<br>〈生涯学習課〉    | 相馬子ども会育成協議会が行う、相馬地域における青少年の健全育成を目的とした子ども会活動に係る費用の一部を補助            | 180                |
| 弘前市子どもの祭典共催負担金<br>〈生涯学習課〉          | 弘前市内の中高生で構成される弘前市子どもの祭典実行委員会が、企画・立案や当日の運営等を行う「弘前市子どもの祭典」に対する共催負担金 | 958                |
| 新春子ども会親切カルタ大会運営支援<br>〈生涯学習課中央公民館〉  | 子ども会参与会と小さな親切運動が共催するカルタ大会を通じて子どもたちの交流と思いやりの心を育てる活動を支援             | -                  |

## 〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                             |                                   |              |       |       |     |       |  |
|---------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------|-------|-------|-----|-------|--|
| 施策の基本方向 |         |                                                                                                                                                                                                            | Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成                                                                                                                                                                                     |                                   |              |       |       |     |       |  |
| 目 標     |         |                                                                                                                                                                                                            | 3 夢を抱き未来をひらく青少年の育成                                                                                                                                                                                          |                                   |              |       |       |     |       |  |
| 施 策     |         |                                                                                                                                                                                                            | 2 豊かな情操と夢を育む事業の展開                                                                                                                                                                                           |                                   |              |       |       |     |       |  |
| 取組み内容   |         |                                                                                                                                                                                                            | 子どもたちが様々なものや事柄に素直に感動できる豊かな情操と、伸びやかな創造性、なりたい自分に近づくためのチャレンジ精神を育みます。このために、基礎となる「考える力」、「感じる力」、「表現する力」等を育てる様々な芸術に触れる取組や読書活動を推進するとともに、自然体験や異年齢集団での交流活動、また郷土「弘前」を学ぶなどの魅力ある事業を展開し、子どもたちが自分の未来を設計できる人として成長するよう支援します。 |                                   |              |       |       |     |       |  |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                            | 過去の状況                                                                                                                                                                                                       |                                   | 実績値(下段:取得年度) |       |       |     | 目標値   |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                             |                                   | H26          | H27   | H28   | H29 |       |  |
|         | 名称      | 将来の夢や目標を持っている中学生の割合                                                                                                                                                                                        | 76.0%                                                                                                                                                                                                       | 73.7%                             | 73.4%        | 72.7% | 75.0% |     | 75.0% |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                                            | H22                                                                                                                                                                                                         | H25                               | H26          | H27   | H28   |     |       |  |
|         | 算式      | 全国学力学習状況調査                                                                                                                                                                                                 | 状況                                                                                                                                                                                                          | 前年と比較し、2.3ポイント増加し目標の75.0%を達成しました。 |              |       |       |     |       |  |
| H28     | 成果      | 文化・芸術分野の底上げ、または分野人口の裾野を広げるアーティスト体験や演劇ワークショップなどの機会を提供し、子どもたちの興味と関心を高めることにつながっています。また、数年先を見据えた読書推進に資するブックスタート事業によって、子どものみならず保護者が本に親しむきっかけづくりにもなっています。中学生×医師交流プログラムにおいては、子どもの夢実現の後押しとなる具体的な事業で、高い満足度が示されています。 |                                                                                                                                                                                                             |                                   |              |       |       |     |       |  |
|         | 課題      | 子どもたちの興味・関心を引き出すような工夫をするとともに、より多くの分野における体験活動の機会を提供する必要があります。また、子どもたちの参加を促すためには、保護者の理解が深まるような取り組みが必要です。                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                             |                                   |              |       |       |     |       |  |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                                       | アーティスト体験ワークショップ事業では、参加者の希望や多彩な経験を可能とするよう単年度の事業という視点だけではなく、複数回足を運んでもらえるよう魅力あるものにしていくこととしています。また、中学生×医師交流プログラムでは、希望した生徒がもれなく参加可能となるよう受入れ側と協議する予定です。                                                           |                                   |              |       |       |     |       |  |
|         | 改善内容等   |                                                                                                                                                                                                            | 子ども達の社会を生き抜く力を育むため、様々な体験活動や読書活動の推進を通じて、その基礎となる力を身に付けることができるようにしています。また、身に付けた力を、更に社会に主体的に関われる力へと変えるためには、『学校・家庭・地域の協働』という視点を持った上で、活動を充実させて行く必要があります。                                                          |                                   |              |       |       |     |       |  |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                       | 事業概要                                                                                     | H28事業実績                                                                                               | 評価・改善事項                                                                                                                                | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 演劇ワークショップ事業<br><br>〈生涯学習課〉          | 「児童劇観劇教室」(市内小学校対象事業)を鑑賞するとともに、公演に出演している劇団員等による演技に関する指導、照明、音響等の舞台づくりに関する指導などをワークショップ形式で実施 | ○ワークショップ<br>・実施時期・回数:11月 1回<br>・実施場所:岩木文化センター<br>・参加者:54人(弘前市中学校文化連盟加盟の演劇部員等)                         | 劇団の俳優からの指導や、市内の他校の生徒との交流を持てる機会であり、生徒や教諭からも好評です。<br>また、生徒が主体となり朗読劇などを取り入れたワークショップとしており、今後も継続して実施します。                                    | 0                  |
| アーティスト体験ワークショップ事業<br><br>〈生涯学習課〉    | 市内文化芸術団体による体験コーナーを出展し、子どもたちが自由に文化芸術を体験出来るワークショップを実施                                      | ○ワークショップ<br>・実施時期・回数:7月 1回<br>・実施場所:総合学習センター<br>・参加者:1,501人                                           | 参加者数が微増となっていること、また来場者アンケートにおいて、「文化芸術に興味を持った」と回答した方の割合が平成27年度の81%から平成28年度は93%となっていることから、より多くの子どもたちが文化芸術に触れ、興味・関心を高めています。                | 516                |
| ブックスタート事業<br><br>〈弘前図書館〉            | 乳幼児期から読書に親しめる環境をつくるため、ヒロロスクエア「こども絵本の森」で、0歳児の保護者に絵本を配布するとともに、保護者等のための読み聞かせ講習会を実施          | ・事業案内チラシの配布 1,346人<br>・ブックスタート・パックの引換(見込) 1,076人 (H29.6月時点実績 814人)<br>・ブックスタートおはなし会の実施 12回            | 本事業による保護者へのブックスタート・パック引換率は、平成26年度が約84%、平成27年度が約81%と、いずれも高い数値で推移しています。                                                                  | 1,924              |
| 児童劇観劇教室<br><br>〈生涯学習課〉              | 市内小学校児童(3年生～4年生)を対象に優れた舞台芸術を鑑賞してもらい、豊かな情操を養う機会を提供(公演数:3日間6ステージ)                          | ○児童劇の鑑賞<br>・実施時期・回数:11月 1回(6公演)<br>・実施場所:岩木文化センター<br>・参加児童数:約2,728名(市内小学校3～4年生)                       | 優れた舞台芸術を鑑賞することにより、児童の豊かな情操を育み、道徳的、芸術的価値観を高めることができ、学校からも継続が望まれています。                                                                     | 7,495              |
| 中学生×医師交流プログラム<br><br>〈学校づくり推進課〉     | 夢探し・夢実現への応援として、医療職への興味や関心を高めるため、医師及び医学生との交流会を開催                                          | ○実施日程<br>H28年7月31日、8月8日、20日<br>・実施内容<br>医師及び医学生との交流<br>弘前大学オープンキャンパス参加による実習体験<br>・参加者<br>市内中学生20名【実績】 | 募集定員20名に対し過去3年間すべてで定員を超える申し込みがあり、中学生の興味のある分野についての事業を実施することができました。アンケート調査でも「さらに医療に興味を持った」「今、やるべきことが解った」など参加者は自分の夢実現へ向けての想いを強めることができました。 | 39                 |
| 「ひろさき亘(まんじ)学」新設事業<br><br>〈学校づくり推進課〉 | 郷土「弘前」の歴史や文化を学習できるようテキストを作成するとともに、児童生徒が郷土「弘前」に興味・関心を高めるため、弘前にこだわったクイズ「チャレンジ亘」を研究         | ・ひろさき亘(まんじ)学テキスト(パイロット版)作成 1,600冊<br>・チャレンジ亘の実施<br>市立小・中学校19校、1,143人                                  | 平成28年度に郷土「弘前」について学習する「ひろさき亘(まんじ)学」テキスト(パイロット版)を作成し、調査研究校での取組みのため配付し、総合的な学習の時間等において取り組んでいます。                                            | 1,001              |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                              | 事業概要                                                                                       | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| ウィークエンド子どもクラブ事業<br>〈生涯学習課〉                 | 地域のボランティアの指導と協力の下に、スポーツ、文化、その他の体験活動を年間を通じて実施                                               | —                  |
| 国際理解講座「留学生と遊ぼう！キッズアジア・プラス」<br>〈生涯学習課中央公民館〉 | 地域の留学生との遊びや体験学習を通じて、各国の言葉や文化を学びながら相互交流を深め、国際人として必要な感覚を育むとともに、様々な場所で開催しながら、地域の国際化と住民との交流を提供 | 543                |
| 子どもクラブ事業<br>〈生涯学習課中央公民館〉                   | 子どもラジオ劇団など6つのクラブを運営することにより、子どもたちが異なる学校・年齢集団の中で社会性を育てるよう促す                                  | 380                |
| 少年教育事業(地区公民館)<br>〈生涯学習課中央公民館〉              | 子ども会イベントなどを通じて、仲間との交流や自然・地域社会について理解を深める場を提供                                                | —                  |
| 弘前市・太田市青少年交流事業(隔年)<br>〈生涯学習課中央公民館〉         | 弘前市と群馬県太田市の小学4年～中学3年生が相互訪問による交流をし、互いの理解を進め、友情を深める                                          | —                  |
| キッズ☆ワールド運営支援<br>〈生涯学習課中央公民館〉               | 弘前大学のボランティア学生が企画・運営する、小学生のための遊びを通じた社会性や健全な心身の育成活動を支援                                       | —                  |
| 子どもの読書活動推進関係事業<br>〈弘前図書館〉                  | 乳幼児から小学校低学年を対象に、各種おはなし会を開催<br>小中学生を対象に、読書感想文コンクールを開催                                       | —                  |

〈基本方向シート〉

| 施策の基本方向Ⅱ                                                                                                                                                 | 学びと育ちの環境の充実 |       |       |       |       |     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-----|
| <p>学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、子どもたちが温かく見守られながら意欲をもって学習できる環境を整えます。</p> <p>また、教員の研修や研究活動を充実させ指導力向上に努めるほか、経済的理由によって就学が困難な子どもたちへの支援を図るなど、子どもたちの学びと育ちの環境の充実に努めます。</p> |             |       |       |       |       |     |
| 指 標                                                                                                                                                      | 指標の動向       |       |       |       |       |     |
|                                                                                                                                                          | 基準値         | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 方向性 |
| 弘前市の子どもにとって学習しやすい教育環境(教育に関する取組や学校施設など)だと思う市民の割合                                                                                                          | 40.4%       | 40.8% | 41.2% | 40.0% |       | 上昇  |
| 取得年度                                                                                                                                                     | H25         | H26   | H27   | H28   |       |     |

# 〈施策シート〉

|         |           |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |      |      |     |     |
|---------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------|------|------|-----|-----|
| 施策の基本方向 |           | Ⅱ 学びと育ちの環境の充実                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |      |      |     |     |
| 目 標     |           | 1 連携・協働による学びの保障                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |      |      |     |     |
| 施 策     |           | 1 学校・家庭・地域が共に支える環境づくり                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |      |      |     |     |
| 取組み内容   |           | ・「義務教育9年間を貫く“学びと育ち”の環境づくり」と「地域とともにある学校の実現」を達成するため、『弘前市立小・中学校の教育改革に関する基本方針』に基づき、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を進めます。<br>また、学校と地域が連携・協働して子どもたちを育てる意識や機運を高めていくため、ひろさき教育創生市民会議で協議していくとともに、大学生を含む地域の多様な方々の参画を得て、放課後等の居場所の確保及び学習・体験・交流活動等を行うなど子どもたちの教育環境の充実に努めます。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |      |      |     |     |
| 指標      | 指標名及び算式   |                                                                                                                                                                                                                                                 | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                     | 実績値(下段:取得年度) |      |      |     | 目標値 |
|         |           |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     | H26          | H27  | H28  | H29 |     |
|         | 名称        | 各中学校区の小中連携推進協議会で実施する自己評価における各項目の4段階評価の平均値                                                                                                                                                                                                       | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2.95                                | 3.19         | 3.31 | 3.36 |     | 3.5 |
|         |           |                                                                                                                                                                                                                                                 | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | H24                                 | H25          | H26  | H27  |     |     |
| 算式      | 4段階評価の平均値 |                                                                                                                                                                                                                                                 | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 年度ごとに着実に上昇し、計画策定時より0.41ポイント増加しています。 |              |      |      |     |     |
| 評価      | 成果        | H28                                                                                                                                                                                                                                             | 「義務教育9年間を貫く”学びと育ち”の環境づくり」と「地域とともにある学校の実現」を目指し、小中一貫教育システムとコミュニティ・スクールの導入に向け、10校の調査研究校において制度設計や組織編制を進めています。また、調査研究校以外においても、小中一貫教育システム推進事業費補助金により、各中学校区において小・中学校が小中一貫教育システム推進に向けて、特色ある活動に取り組んでいます。<br>ひろさき教育創生市民会議においては、地域の様々な立場の方から意見を伺いながら、子どもたちの学びの環境づくりを推進しています。<br>放課後こども教室では、地域の協力を得ながら、子どもたちの体験活動の場、学習活動の場を提供しています。                            |                                     |              |      |      |     |     |
|         |           | 課題                                                                                                                                                                                                                                              | 平成30年4月からの小中一貫教育システム導入に向け調査研究校(10校)で研究を進め、小・中学校間での教職員の意識も高まっていますが、調査研究校以外の小・中学校の教職員の意識を高めていく必要があります。<br>また、コミュニティ・スクールについては、調査研究校の取組み等を踏まえ、市立小・中学校で情報共有を図りながら、導入に向けて進めていく必要があります。<br>学校を支える地域の協力者が、特定の人に限られている現状にあることから、地域全体で子どもの学びの環境づくりを進めていくことが求められます。                                                                                          |                                     |              |      |      |     |     |
|         | 事中評価      | H29                                                                                                                                                                                                                                             | 平成30年4月からの小中一貫教育システムの導入に向けては、調査研究校で協議をし、機会を捉えて市立全小・中学校での共通理解を図りながら進めています。また、コミュニティ・スクールについても調査研究校での取組みを情報共有しながら、各中学校区において準備を進めています。<br>学校と地域との関わりについては、学校運営連絡協議会(調査研究校)や学校評議員制度において、学校と地域の情報交換・情報共有を図っており、また、教育全般については、様々な立場の方で構成されているひろさき教育創生市民会議で市民の意見を聞きながら各種取組みを進めています。<br>放課後こども教室については、事業開始から年々開設箇所を増やし、地域の協力を得ながら子どもたちの体験の場、学習の場の提供に努めています。 |                                     |              |      |      |     |     |
|         |           | 改善内容等                                                                                                                                                                                                                                           | 学校・家庭・地域が共に支える取組として、特色ある学校づくり事業や伝統文化学習講座などにおいて、地域の方が子どもたちに様々な体験活動などを提供し、また、放課後こども教室においても地域の方や弘前大学教育学部の学生の協力を得ながら進めています。<br>一方で、学校と関わる地域の方については特定の人たちに限られており、これまで関わってきた方からさらに広げ、地域全体で学校を支えていく必要があります。                                                                                                                                               |                                     |              |      |      |     |     |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                  | 事業概要                                                                                                     | H28事業実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価・改善内容                                                                                                                             | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 教育自立圏構築推進事業<br><br>〈学校づくり推進課〉  | <p>自立的で持続可能な教育機能を有した、中学校区を基盤とした圏域である「教育自立圏」の形成</p> <p>平成30年度からの小中一貫教育システム等の導入に向けて調査研究の推進</p>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究校: 裾野中学校区、東目屋中学校区、第三中学校区、石川中学校区(計10校)</li> <li>・教育自立圏検討会議(4回)、各種作業部会(7回)の実施</li> <li>・小中一貫教育システム「3つの教育プラン」の検討</li> <li>・学校運営連絡協議会の組織編成、試行運用</li> <li>・教育自立圏周知用リーフレット作成、配布</li> </ul>                                                                                              | <p>教育自立圏の構築に向けて、検討会議等の各種会議や調査研究校の取り組みにより、小中一貫教育システムの制度設計やコミュニティ・スクールの組織編成が計画通り進んでいます。また、今年度中に必要な規則等を制定し、平成30年度のスタートに向けて準備を進めます。</p> | 4,061              |
| ひろさき教育創生市民会議<br><br>〈学校づくり推進課〉 | <p>弘前市教育振興基本計画に基づき、学校、家庭、地域、行政が一体となって総合的かつ計画的に教育を推進するために設置</p>                                           | <p>○ひろさき教育創生市民会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催時期・回数: 6月・10月・2月 3回</li> <li>・開催場所: 中央公民館岩木館</li> <li>・出席者: 委員68人</li> </ul>                                                                                                                                                                                | <p>様々な立場の人物で構成している本会議の特色を活かし、今後は教育機関に限らず、市民、行政、関係機関が一体となって取り組めるような機能を持たせる必要があります。</p>                                               | 596                |
| 小中一貫教育システム推進事業<br><br>〈学校指導課〉  | <p>全ての中学校区が実施する小中連携教育を推進する取り組みに対し、各中学校区内の学校数に応じて、その経費を補助</p>                                             | <p>○小中一貫教育システム推進事業費補助金の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付先: 16中学校区学校運営連絡協議会</li> </ul> <p>○小中一貫教育システム推進研修会</p>                                                                                                                                                                                                 | <p>調査研究校で取り組んでいる小中一貫教育システムの構築を視野に、引き続き小中連携教育の充実を図り、「義務教育9年間を貫く”学びと育ち”の環境づくり」の実現を目指し、学校・家庭・地域の教育力向上を図る必要があります。</p>                   | 1,502              |
| 放課後子ども教室事業<br><br>〈生涯学習課〉      | <p>就学児童・生徒を対象に、放課後等を安全・安心に過ごすための活動拠点(居場所)を確保し、地域住民や教員を目指す学生などの参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供</p> | <p>〈放課後子ども教室〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施箇所 3箇所(三大、西、松原小)</li> <li>・実施期間 平成28年5月～平成29年2月</li> <li>・実施回数 延べ63回</li> <li>・参加児童数 延べ1,009名</li> </ul> <p>〈BiBiっとスペース〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施箇所 8箇所(総合学習センターほか7か所)</li> <li>・実施期間 平成28年5月～平成29年2月</li> <li>・参加児童生徒数 延べ2,008名</li> </ul> | <p>事業実施箇所を増やしていきますが、地域住民の協力関係の構築とその確保が課題となっています。</p>                                                                                | 1,509              |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                | 事業概要                                                                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 小・中学校特色ある学校づくり事業<br>〈学務健康課〉  | 地域の人材を講師として招き、農産物の栽培やねふた製作などの特色ある学校づくりを推進                                         | 928                |
| 学校評議員制度<br>〈学務健康課〉           | 学校運営に関し、保護者や地域住民の意向を把握・反映しながらその協力を得るとともに、学校としての説明責任を果たしていくことができるよう、学校評議員を小・中学校に配置 | 2,260              |
| 伝統文化学習講座<br>〈生涯学習課 中央公民館岩木館〉 | 岩木地区小・中学校へ地元の講師を派遣し、クラブ活動や総合的な学習の時間を利用して児童生徒に津軽三味線や登山囃子など地域の伝統芸能や文化・歴史について学習      | 478                |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                       |     |              |     |     |     |     |
|---------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 施策の基本方向 |         | Ⅱ 学びと育ちの環境の充実                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                       |     |              |     |     |     |     |
| 目 標     |         | 1 連携・協働による学びの保障                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                       |     |              |     |     |     |     |
| 施 策     |         | 2 共生社会に向けた教育基盤の確立                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                       |     |              |     |     |     |     |
| 取組み内容   |         | ・特別支援学級や通級指導教室など連続性のある「多様な学びの場」を確保しつつ、障がいのある子どもとない子どもが、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮のもと、できるだけ同じ場で共に学ぶことができる教育環境を構築するために、「弘前市立小・中学校におけるインクルーシブ教育システム推進ビジョン」を展開します。<br>また、この推進ビジョンの理念や取組を広く周知するとともに、障がいのある子どもへの適切な指導・支援を行うために、研修を実施するなど教員の資質向上を図ります。 |                                                                                                                                                                                                                                       |     |              |     |     |     |     |
| 指 標     | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                                                              | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                 |     | 実績値(下段:取得年度) |     |     |     | 目標値 |
|         |         |                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                       |     | H26          | H27 | H28 | H29 |     |
|         | 名称      | 特別支援教育支援員の配置人数                                                                                                                                                                                                                               | 16人                                                                                                                                                                                                                                   | 23人 | 24人          | 25人 | 28人 |     | 25人 |
|         | 算式      | 小・中学校に配置された特別支援教育支援員の人数                                                                                                                                                                                                                      | H21                                                                                                                                                                                                                                   | H25 | H26          | H27 | H28 |     |     |
|         |         | 状況                                                                                                                                                                                                                                           | 着実に増員され、目標値を達成しました。しかし、学校からは更なる増員が求められており、各校の状況を把握しながら拡充を図っていく必要があります。                                                                                                                                                                |     |              |     |     |     |     |
| 評 価     | H28     | 成果                                                                                                                                                                                                                                           | 当市における特別支援教育は、県内においても先導的に取り組んできており、平成25年度から3年間、国のモデル地域に指定され「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」の実践的研究を行ってきました。教職員の参考図書及び研修教材として作成されたハンドブックも弘前市立小・中学校に配付され、指導に役立てられています。学びの協力員の学校支援や、特別支援教育支援員の増員配置により、共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築が着実に進んでいます。           |     |              |     |     |     |     |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                                                                           | 通常の学級における配慮の必要な児童生徒の指導・支援について校内体制の強化、教員の意識と指導力の向上、支援員の増員や配置の工夫等が必要です。また、インクルーシブ教育の理念の浸透については、教職員や保護者、地域住民に対して、周知を継続的に図っていく必要があります。                                                                                                    |     |              |     |     |     |     |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                                                                         | 現在、当該施策配下にある計画事業及び関連事業は全て着手しており、計画通り進捗しています。ただし、子どもたちの教育的ニーズに応えようとする学校からの要望が高い特別支援教育支援員については、支援員の配置等の工夫や配置人数を増員しているものの、十分に應えることができていません。今後も引き続き増員し、特別な配慮を要する児童生徒を支援していく必要があります。                                                       |     |              |     |     |     |     |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                                                                        | 少子化により市立小・中学校の児童生徒数が減少している一方で、特別支援学級在籍者数は増加傾向にあります。また、通常の学級に在籍しながら通級指導教室で指導を受けている児童生徒数も増加傾向にあり、3年前に比べると約4割増えています。<br>児童生徒の個性や特性は多様化している状況にあることから、今後は子ども一人一人の教育的ニーズに応じていく教育環境の充実に努め、分かる授業づくり、安心して過ごせる集団づくり、特別支援教育の充実などが一層必要であると考えています。 |     |              |     |     |     |     |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                     | 事業概要                                                                                                                                     | H28事業実績                                                                                                                                                   | 評価・改善事項                                                                                                                                                                      | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| インクルーシブ教育システム構築事業<br><br>〈教育センター〉 | 障がいのある子どももいない子どももできるだけ一緒に学習することができる教育環境の整備を推進するため、学びの協力員を配置するとともに、ICT機器の活用により合理的配慮の実践的研究を実施                                              | ○本事業を学校教育改革室から教育センターへ移管<br>○小・中学校への学びの協力員の派遣事業<br>(学校への助言・校内体制構築に向けた支援・教育的資源(医療・福祉等)との連携の体制づくりなど)<br>・学びの協力員:4名<br>・拡大事務局会議:年12回<br>○リーダー的教員育成のための長期講座の実施 | 学びの協力員の派遣、ICT機器の整備、長期講座の実施、合理的配慮に関する実践的な研究などを進めてきたことで、学校におけるインクルーシブ教育の理解と求められる体制づくりが進んでいきます。<br>平成28年に策定した「弘前市立小・中学校におけるインクルーシブ教育システム推進ビジョン」に基づき、学校における一層の理解と意識の高まりを目指しています。 | 1,578              |
| 特別支援教育支援員配置事業<br><br>〈学務健康課〉      | 多動傾向や要介護など障がいのある児童生徒に対し、学校生活上の補助や学習活動上の支援などを行うため、特別支援教育支援員を配置                                                                            | ○支援員の配置<br>小学校:17校 21名<br>中学校:7校 7名<br>計 28名<br>※うち小学校2校2名は、11月から臨時的に配置。                                                                                  | 支援員の配置等の工夫により効果的な活用を図っているものの、子どもの教育的ニーズに応じる加配要望に対する充足率が低いことから、今後も引き続き拡充する必要があります。                                                                                            | 23,578             |
| 特別支援教育体制推進事業<br><br>〈教育センター〉      | 特別支援学級及び通級指導教室の授業を特別支援教育担当指導主事が参観し、授業について担任等とのディスカッションを行うことにより、特別な支援を必要とする児童生徒に対する指導について特別支援学級及び通級指導教室担当者が研修する機会を確保し、よりよい指導のあり方について研修を実施 | ○特別支援コーディネーター訪問<br>・実施時期・回数:6月～2月 25回<br>・実施場所:小・中学校 (25校)                                                                                                | 特別支援学級担当教員の資質向上のため、計画的に継続する必要があります。                                                                                                                                          | 0                  |
| 障がい児幼児教育事業<br><br>〈学務健康課〉         | 心身障がい児を受け入れ、特別支援教育を実施する私立幼稚園及び認定こども園を設置する学校法人に対し、人件費の一部を補助                                                                               | ・補助対象園 3園、園児数 3人<br>・補助金額 624000円<br>(文化幼稚園208,000円)<br>(若草幼稚園208,000円)<br>(柴田幼稚園208,000円)                                                                | 障がいを持つ幼児の支援のあり方について、市教委と私立幼稚園の円滑な協力体制を作り取り組んでいくこととし、当該事業の援助を今後も引き続き継続することが求められます。                                                                                            | 624                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉             | 事業概要                                                                                                     | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 緊急的学習支援員配置事業<br>〈学務健康課〉   | 児童生徒の疾病等により、学校側において介助を要する児童に対応する学習支援員を配置                                                                 | 875                |
| 教育支援委員会専門員研修会<br>〈教育センター〉 | 専門員の資質向上を図るとともに、教育支援委員会の円滑な運営に資するため、弘前市教育支援委員会専門員が作成する関係書類について研修を行う取組を実施                                 | -                  |
| 教育講演会<br>〈教育センター〉         | 今日的教育課題(特別支援教育に関する内容)について、専門的知識を有する講師を招聘して講演会を開催することで、教職員の資質向上を図るとともに、保護者や一般市民に対し、学校との連携や教育への理解を深める取組を実施 | 106                |

〈施策シート〉

|         |                                                                                               |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                |              |       |       |     |       |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|--------------|-------|-------|-----|-------|
| 施策の基本方向 |                                                                                               | Ⅱ 学びと育ちの環境の充実           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                |              |       |       |     |       |
| 目 標     |                                                                                               | 2 教員の資質の向上              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                |              |       |       |     |       |
| 施 策     |                                                                                               | 1 指導力を高め、自己目標を実現する教員の養成 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                |              |       |       |     |       |
| 取組み内容   | 教員の自己研鑽と困難な課題を同僚と協働で解決し、教員一人一人が指導力を高めるとともに、社会の急速な進展による知識・技能の絶えざる刷新のための探究心をもち、学び続ける教師の育成に努めます。 |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                |              |       |       |     |       |
| 指 標     | 指標名及び算式                                                                                       |                         | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                | 実績値(下段:取得年度) |       |       |     | 目標値   |
|         |                                                                                               |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                | H26          | H27   | H28   | H29 |       |
|         | 名称                                                                                            | 講座受講者の授業への活用意欲の割合       | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | -                                              | 96.1%        | 98.9% | 98.6% |     | 98.0% |
|         |                                                                                               |                         | -                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | -                                              | H26          | H27   | H28   |     |       |
| 算式      | アンケートにより講座内容の活用状況を調査                                                                          |                         | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 目標値を98%と設定していましたが、平成28年度は目標値より0.6ポイント上回っております。 |              |       |       |     |       |
| 評 価     | H28                                                                                           | 成果                      | 平成27年度の講座内容の授業への活用意欲の割合は、目標値の98%を上回りました。これは、受講した教師が、講座で身に付けた内容を学校へ持ち帰り、授業改善に役立てようとする割合が高まったことの現れと言えます。<br>このことは、教師の自己研鑽はもとより、直接的に授業を受ける児童生徒への指導の改善が見込まれ、研修の推進と確かな学力の向上に寄与することが期待されます。                                                                                                                                    |                                                |              |       |       |     |       |
|         |                                                                                               | 課題                      | 学校現場の多忙化と課題の多様化により、教師の研修に対するニーズも複雑化することが予想されます。そこで、アンケートの結果から研修内容や実施時期、回数等の見極めと企画運営する指導主事等の工夫が重要になると考えられます。                                                                                                                                                                                                              |                                                |              |       |       |     |       |
|         | H29                                                                                           | 事中評価                    | 平成25年度から3年間で全教員(校長・教頭を除く)が悉皆で受講する授業づくりワークショップが終了しました。悉皆ながら、受講者の満足度は高く、教員の研修意欲が感じられました。国の動向に合わせ、外国語・英語教育・ICT活用教育・道徳に関する講座について内容や回数等を工夫し充実を図りましたが、参加率は伸び悩んでいます。一方、各校における校内研修は、指導主事の要請も多く、計画的に熱心に行われています。各校の学校課題と国・県・市の教育課題の解決について、指導力向上の優先順位と教員の実態に応じた研修のあり方を示していく必要があります。新学習指導要領が示されたことから、今後は全面実施に向け、更に研修内容の充実を図る必要があります。 |                                                |              |       |       |     |       |
|         |                                                                                               | 改善内容等                   | 教職員は自らの資質向上を図るため、自発的に研修講座を受講し、受講内容を日々の授業に積極的に活用しています。<br>さらに、市教育委員会指導主事が学校を訪問し、校内研修での授業実践への指導・助言や、要請されたテーマに基づき講義を行う要請訪問も毎年100件以上の依頼があり、各校において、校内研修計画に基づいた授業改善や教職員の資質向上に向けた取組が、計画的・継続的に行われていることがわかります。<br>しかし、教育課題の多様化が進み、研修の必要性が高まる一方、学校現場においては多忙化により、研修時間を十分に確保することが難しいという課題もみられます。                                     |                                                |              |       |       |     |       |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                    | 事業概要                                                  | H28事業実績                                                                                                                  | 評価・改善事項                                                                                                    | H28<br>決算額<br>(千円) |
|----------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 弘前市教育委員会教職員研修・講座<br><br>〈教育センター〉 | 教育委員会「教職員研修体系」を基に、適切な研修内容と機会を提供することで、教員の資質向上に努める取組を実施 | ○各研修会・講座・長期研修の実施<br>・実施時期:4月～2月<br>*基本研修 2種 3回<br>*職務研修 11種 20講座<br>*専門研修 15種 33講座<br>*特別研修 6種 23講座<br>・実施場所:総合学習センター ほか | 昨今の教育改革の動向を睨み、教員のニーズに合わせた研修会や講座を実施していますが、講座の開催月日が学校行事と重なるなど、受講しにくい状況も見られるので精選する必要があります。                    | 213                |
| 要請訪問<br><br>〈教育センター〉             | 各小・中学校が指導主事派遣要請計画表を提出し、調整後担当指導主事が各校を訪問                | ・延べ訪問総数:109件(小教研、中教研等の要請を除く)<br>・講義、演習等学習会の総数:小学校11件、中学校1件<br>・授業研究、協議会の総数:小学校57件、中学校40件                                 | 要請内容は、各学校の校内研修計画に基づくもの、現職教育、市教委の学校教育指導の方針と重点を踏まえたものでありましたが、ICT活用教育や情報モラル、道徳の教科化に関する要請などもあり、必要性が明確になってきました。 | 290                |

### 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                   | 事業概要                                                                                            | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 校内研修講師派遣事業<br><br>〈学校指導課〉       | 教育活動の活性化・効率化及び教員の資質向上を目的とした小・中学校校内研修会への謝金を補助                                                    | 157                |
| 造形教育調査研究事業<br><br>〈学校指導課〉       | 児童生徒の図画工作・美術作品等の審査、展示等を通して、造形教育の質的向上と教員の資質向上を図るとともに、小中美術展開催・運営を通して児童生徒による造形活動への一般市民の理解を深める取組を実施 | 102                |
| 初任者研修「ふるさとの教育研修」<br><br>〈学校指導課〉 | 故郷に根ざした教育の大切さを知るとともに、教員としての使命感を養い、幅広い知見を得させ、実践的指導力と資質の向上を図るための研修を行う取組を実施                        | 11                 |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                       |                      |              |     |     |     |     |
|---------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 施策の基本方向 |         | Ⅱ 学びと育ちの環境の充実                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                       |                      |              |     |     |     |     |
| 目 標     |         | 2 教員の資質の向上                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                       |                      |              |     |     |     |     |
| 施 策     |         | 2 教育課題の解決を目指す研究活動の推進                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                       |                      |              |     |     |     |     |
| 取組み内容   |         | 今日の重要な教育課題や学校運営の在り方について研修し、教員の資質向上を図るとともに、課題解決に向けて組織的に取り組み、創意工夫と活力に満ちた学校運営のための研究活動を推進します。 |                                                                                                                                                                                                                                                       |                      |              |     |     |     |     |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                           | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                 |                      | 実績値(下段:取得年度) |     |     |     | 目標値 |
|         |         |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                       |                      | H26          | H27 | H28 | H29 |     |
|         | 名称      | 研究指定校の学校教育課題に対する解決の自己評価4段階の平均値                                                            | -                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.5                  | 3.5          | 3.4 | 3.8 |     | 3.7 |
|         |         |                                                                                           | -                                                                                                                                                                                                                                                     | H25                  | H26          | H27 | H28 |     |     |
|         | 算式      | 研究指定校研究報告                                                                                 | 状況                                                                                                                                                                                                                                                    | 昨年度から0.4ポイント上昇しています。 |              |     |     |     |     |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                        | 平成28年度は市立小・中学校51校のうち、11校に研究を委託しました。研究委託数が減り、年度による指標のばらつきはあるものの、学校教育に関する課題を研究することは、校内における研修の活発化につながり、学校教育の質、教員の資質を高めています。さらに、研究成果を「研修集録」に掲載し、冊子を全職員に配布することにより、同様の学校の教育課題を抱える他の学校にとって参考となっています。                                                         |                      |              |     |     |     |     |
|         |         | 課題                                                                                        | 各小・中学校においては、県の研究指定校、当市の他の事業で依頼している「～モデル校」「各種調査研究委員会」など、研究指定、調査協力が多岐にわたっており、委託を負担に感じる学校も出てきています。委託数について検討する必要があります。                                                                                                                                    |                      |              |     |     |     |     |
|         | H29     | 事中評価                                                                                      | 平成29年度の研究指定校は6校であり、昨年度より5校の減少となりましたが、研究指定校では、教育界の動きや要望を反映させながら、授業づくりや総合的な学習の時間など、現在求められる教育に関する課題の研究を進めています。<br>学校運営研修会は、平成30年度から「教育自立圏」が全中学校区で実施されることから、28年度から3年連続で研修会を実施することとし、28年度は「小中一貫教育」、29年度は「コミュニティ・スクール」をテーマとして、それぞれの分野で活躍されている専門家に講演いただきました。 |                      |              |     |     |     |     |
|         |         | 改善内容等                                                                                     | 学校教育に関する課題の研究を委託し、校内での研修を活発化することで、学校教育の質の向上が図られています。各研究指定校では、「教科が好き」の割合が増加したり、アンダーアチーバーの人数が減少したりするなど、設定したテーマに関して成果が挙がっています。教育課題解決の達成についての自己評価平均値は、基準値を上回ったり下回ったりしています。                                                                                |                      |              |     |     |     |     |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                  | 事業概要                                                                                                    | H28事業実績                                                                                            | 評価・改善事項                                                                                                                                                | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 研究指定校研究委託<br>事業<br><br>〈学校指導課〉 | 学校教育における課題を解明し、その成果を本市教育の向上に資するために希望する市内小・中学校に研究団体(会)を指定し、研究を委託                                         | ○研究指定校に委託:11団体<br>○研究指定校報告書の提出:11団体<br>○2年次研究指定校の研究内容を「研修集録」に記載:7団体                                | 学校教育に関する課題の研究を委託することにより、小・中学校の連携した授業研究、授業へのICT活用、アンダーアチーパーの減少など、学校教育の質の向上が図られています。「研修集録」に記載した研究報告によって、研究指定校の研究内容・成果が広がり、市内各校の研修の活性化や教職員の資質向上に役立っております。 | 990                |
| 学校運営研修会<br><br>〈学校指導課〉         | 今日の重要な教育課題や学校運営の在り方について研修し、教員の資質向上を図り、課題解決に組織的に取り組み、創意工夫と活力に満ちた学校運営を図るため、第一線の研究者や専門家を講師として招き研修会を行う取組を実施 | 期日:平成28年5月24日(火)<br>場所:弘前市総合学習センター<br>演題:「地域とともにある学校づくりの必要性と課題」<br>講師:青森中央学院大学 教授 高橋 興 氏<br>参加:91名 | 26年度までは、今日の重要な教育課題や学校運営の在り方について研修を実施してきました。平成30年度から「教育自立圏」が全中学校区で実施されることから、28年度から3年連続で研修会を実施することとしました。                                                 | 17                 |

### 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                    | 事業概要                                                                          | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 研修集録作成<br><br>〈学校指導課〉                            | 研究指定校の研究成果、市教委主催研修会の記録を掲載し、教職員に配布することにより、集録の活用を通して本学校教育の資質向上を図る               | 313                |
| 弘前地区小学校教育研究協議会補助金、弘前地区中学校教育研究会補助金<br><br>〈学校指導課〉 | 弘前地区小学校教育研究協議会、中学校教育研究会が実施する研修事業に要する経費を補助することにより、指導内容の質的向上を図る                 | 487                |
| 造形教育調査研究委員会<br><br>〈教育センター〉                      | 小学校図画工作・中学校美術の指導や連携の在り方について調査、実践研究を進め、成果報告書を通して情報提供し、小中連携による本市造形教育の充実を図る取組を実施 | 27                 |
| 魅力ある学校づくり調査研究事業<br><br>〈教育センター〉                  | 本調査研究では、意識調査の実施・考察や、学校、家庭との連携した対応を通して、不登校の未然防止、初期対応について研究を進め、本市における対策を推進します。  | 432                |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                        |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
|---------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----|----------------------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅱ 学びと育ちの環境の充実                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                        |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
| 目 標     |         | 3 良好な教育環境の確保                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                        |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
| 施 策     |         | 1 学習意欲を引き出す学びの環境の確保                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                        |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
| 取組み内容   |         | ・「学習意欲」と「確かな学力」は相関関係にあり、教育現場においては学習意欲を向上させる手法について常日頃から研究することが求められていることから、各種教材等の整備や少人数学級や少人数指導を通じて、より質の高い学びの環境と教員が児童生徒と向き合う時間の確保に努めます。 |                                                                                                                                                                                                        |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                       | 過去の状況                                                                                                                                                                                                  |                                                         | 実績値(下段:取得年度)         |                      |                      |     | 目標値                  |
|         |         |                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                        |                                                         | H26                  | H27                  | H28                  | H29 |                      |
|         | 名称      | 青森県学習状況調査による小学5年生と中学2年生の勉強が好きな児童生徒の割合                                                                                                 | 小5 71.8%<br>中2 58.6%                                                                                                                                                                                   | 小5 68.4%<br>中2 53.2%                                    | 小5 75.7%<br>中2 62.0% | 小5 65.9%<br>中2 59.1% | 小5 70.5%<br>中2 58.1% |     | 小5 80.0%<br>中2 60.0% |
|         |         |                                                                                                                                       | H23                                                                                                                                                                                                    | H25                                                     | H26                  | H27                  | H28                  |     |                      |
|         | 算式      | 小学5年生「勉強が好きだ」<br>中学2年生「勉強が好きだ」                                                                                                        | 状況                                                                                                                                                                                                     | 計画策定時と比較し、小学校では2.1ポイント、中学校では4.9ポイント上昇しているが、目標値を下回っています。 |                      |                      |                      |     |                      |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                    | 平成26年度から全市立小学校全学年で少人数学級編制を実施し、実施校からは「児童に対し、これまで以上にきめ細やかな指導が行えるようになった」「多様な学習活動が可能になった」「問題行動に関し、今まで以上に早期発見・対応が可能になった」等の意見があり、一定の成果があったものと考えます。<br>また、教材等の充実した整備により、学習意欲を引き出す教育環境の充実が図られていると考えます。         |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
|         |         | 課題                                                                                                                                    | 学習意欲を向上させる手法に関し、現在取り組んでいる事業について、様々な側面から教育環境の在り方を検討する必要があります。                                                                                                                                           |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                  | 現在、当該施策配下の計画事業はすべて着手しており、計画どおり進捗しています。<br>教育現場においては、学習意欲を向上させる手法について日頃から研究し、各種教材等の整備や少人数学級での指導を通じて、より質の高い学びの環境づくりを進めています。                                                                              |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                 | 小学校の少人数学級拡充などにより、「きめ細やかな指導が行えるようになった」「多様な学習活動が可能になった」「問題行動に関し、今まで以上に早期発見・対応が可能になった」などという意見があります。<br>勉強嫌いの理由について、学校の授業がつまらない、内容が分からない、将来何の役に立つかわからないなど、さまざまな理由が上げられ、学習意欲を引き出すための対応方法をさらに検討する必要があると考えます。 |                                                         |                      |                      |                      |     |                      |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                  | 事業概要                                                                 | H28事業実績                                                        | 評価・改善事項                                                                      | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 小学校少人数学級拡充事業<br><br>〈学務健康課〉    | 県事業により実施している小学校1年生から3年生までの少人数学級編成「あおもりっ子育みプラン21」を4年生から6年生まで市の単独事業で実施 | 常勤臨時講師 全8名を配置<br>(対象校5校)<br>学習支援員 全7名を配置<br>(対象校7校)            | 県事業で小学校全学年の少人数学級編成を実施するよう求めています。その間は、市単独事業として維持する必要があります。                    | 31,927             |
| 私立高等学校教育振興費補助事業<br><br>〈教育政策課〉 | 私立学校教育の振興を図るため、市内の私立高等学校の施設の整備(備品購入費)に要する経費に対し補助                     | ○交付件数 4件<br>交付先: 柴田女子高等学校<br>弘前学院聖愛高等学校<br>東奥義塾高等学校<br>弘前東高等学校 | 当該補助事業を継続してほしい旨の要望があり、私立高等学校が教育振興に果たしている役割の重要性に鑑み、現在の補助制度、水準を維持したいと考えます。     | 4,901              |
| 私立幼稚園教材費補助事業<br><br>〈学務健康課〉    | 弘前市内の私立幼稚園及び認定こども園を設立する学校法人の設置者に対し、教材費・教具に係る経費の一部を補助                 | ○補助対象: 3法人                                                     | 子ども子育て支援新制度に移行していない私立幼稚園に、教材費に係る経費の一部を補助することで、幼児教育の充実が図られていることから維持する必要があります。 | 2,030              |

### 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                        | 事業概要                                                                                                                      | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 小・中学校統廃合準備事業<br><br>〈学校づくり推進課〉       | 百沢小がH30.4に岩木小へ統合します。また小友・三和・新和小が統合について協議を進める予定です。このほか、教育改革基本方針により統廃合のたたき台を示している小学校が3校(三省、青柳、大和沢)あり、引き続き保護者や地域との意見交換を重ねます。 | -                  |
| 小・中学校図書整備事業<br><br>〈学務健康課〉           | 学校図書館の蔵書を充実させるための計画的な図書購入                                                                                                 | 21,587             |
| 小・中学校理科教育設備整備事業<br><br>〈学務健康課〉       | 理科教育振興法に基づく国庫補助により、各小・中学校の理科・数学の実験器具などの教材を購入                                                                              | 10,992             |
| 小・中学校特別支援教育設備整備事業<br><br>〈学務健康課〉     | 特別支援学級の新設・増設に際し、障がいの種類に応じた教育を実施するうえで必要な設備を整備                                                                              | 770                |
| 小・中学校教材整備事業<br><br>〈学務健康課〉           | より充実した授業を行うことができる環境をつくるため、小・中学校の教材・教具を整備                                                                                  | 14,196             |
| 教職員の多忙化対策(学校事務の効率化)事業<br><br>〈学務健康課〉 | 市立全小・中学校で中学校区を中心とした連携グループを組織し、学校事務の学校間連携の取組を通じて事務処理の統一化や効率化を進め、教職員の事務負担を軽減                                                | -                  |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |         |              |         |         |     |         |
|---------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------------|---------|---------|-----|---------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅱ 学びと育ちの環境の充実                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |         |              |         |         |     |         |
| 目 標     |         | 3 良好な教育環境の確保                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |         |              |         |         |     |         |
| 施 策     |         | 2 就学等の支援                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |         |              |         |         |     |         |
| 取組み内容   |         | 経済的理由から適正な教育を受けることが困難な児童、生徒及び学生を支援するために、その保護者等に対し就学等に掛かる資金の補助や貸付を行います。<br>また、遠距離通学の児童生徒の通学の確保又は保護者等に対し、通学費を支援します。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |         |              |         |         |     |         |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                   | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                    |         | 実績値(下段:取得年度) |         |         |     | 目標値     |
|         |         |                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |         | H26          | H27     | H28     | H29 |         |
|         | 名称      | 小・中学校就学援助において市が一人当たり支給した額                                                                                         | 71,675円                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 86,583円 | 89,223円      | 88,368円 | 91,152円 |     | 88,267円 |
|         |         |                                                                                                                   | H21                                                                                                                                                                                                                                                                                      | H24     | H26          | H27     | H28     |     |         |
| 算式      | 支給額／対象者 | 状況                                                                                                                | 計画策定時と比較し支給した額が微増傾向にあります。                                                                                                                                                                                                                                                                |         |              |         |         |     |         |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                | 学用品費等の援助を実施することで対象保護者の経済的負担を軽減しています。<br>市全体の児童生徒数は年々減少傾向にありますが、就学援助の認定率としては横ばい傾向にあり、継続して援助を実施する必要があります。                                                                                                                                                                                  |         |              |         |         |     |         |
|         |         | 課題                                                                                                                | 低所得者が多い中、保護者の経済的負担の軽減施策をどのように展開していくかが市の課題です。                                                                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                              | 現在、当該施策配下の計画事業はすべて着手しており、計画どおり進捗しています。<br>今後、少子化に伴う学校の統廃合等により、通学距離が長くなるための通学支援が一層必要になると考えます。                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
|         |         | 改善内容等                                                                                                             | 経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して就学援助制度で対応しています。<br>また、遠距離通学の児童生徒に対する通学支援も実施しています。<br>課題として、就学援助の拡充について、国の就学援助の支給対象品目としてクラブ活動費、生徒会費、PTA会費が加わり支給を求められていますが、現在就学援助は地方公共団体の単独事業であり、当市では全員が参加できる修学旅行となるよう、ほぼ実費を支給するなど、国が示す基準額より多く支給している費目もあります。<br>追加3費目の支給については、教育委員会として各学校に対し協力を求めている必要があると考えます。 |         |              |         |         |     |         |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                     | 事業概要                                                                                             | H28事業実績                                                                                                                            | 評価・改善事項                                                                                    | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 学用品再利用推進<br>事業<br><br>〈学務健康課〉     | 保護者の学用品購入に要する経費の負担軽減を図るため、スキー用具などの学用品の再利用を推進                                                     | H28.5.27 弘前市連合父母と教師の会と業務委託契約締結<br>受注者が、各小学校のPTA組織から不用となったスキー用品を回収し、点検を行った。<br>H28.11.23 リサイクルスキー販売会開催(入場者数300名以上、販売数58点、売上33,300円) | 各小学校のPTA組織の協力を得ながら事業を実施し、平成28年度のリサイクルスキー販売会においては午前中で130セットのスキー用品を売り切り、本事業に対する保護者のニーズは高いです。 | 309                |
| 小・中学校就学援助<br><br>〈学務健康課〉          | 準要保護と認定される児童生徒の保護者及び東日本大震災により就学が困難となった児童生徒の保護者等に対し、児童生徒の学用品費等に必要な経費について助成(要保護児童生徒については、修学旅行費を助成) | ○補助金額<br>・学用品費 93,604千円<br>(小学校 39,538千円、中学校54,066千円)<br>・給食費 85,822千円<br>・医療費 1,146千円<br>○認定者数<br>・小学生1,199人<br>・中学生 875人         | 学校教育法により義務的に実施し、扶助的性質を伴う事業であることから、維持とします。                                                  | 180,572            |
| 小・中学校特別支援教育就学奨励費補助<br><br>〈学務健康課〉 | 弘前市の小・中学校の特別支援教育を受ける児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学に要する経費の一部を補助                                         | 補助金額<br>・小学校 73人 2,277千円<br>・中学校 44人 1,970千円                                                                                       | 学校教育法により義務的に実施し、扶助的性質を伴う事業であることから、維持とします。                                                  | 4,247              |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                 | 事業概要                                                                                                | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 奨学金貸付事業<br>〈教育政策課〉                            | 経済的な理由により修学が困難な者に対し、奨学金を貸付                                                                          | 6,894              |
| 入学準備金貸付事業<br>〈学務健康課〉                          | 経済的な理由によって就学困難と認められる小・中学校の新1年生となる児童生徒の保護者に対して、学用品等の購入のための入学準備金を貸付                                   | 391                |
| 小・中学校通学費補助<br>〈学務健康課〉                         | 小・中学校に就学する児童生徒の通学に要する経費に対し補助                                                                        | 3,971              |
| 給食扶助<br>〈学務健康課〉                               | 経済的な理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学校給食費を補助                                                            | 86,255             |
| 医療扶助<br>〈学務健康課〉                               | 経済的な理由によって就学困難と認められる児童生徒における、学校保健安全法施行令第8条に定められた感染症又は学習に支障を生ずる恐れのある疾病で政令で定めるものに対する治療費及び薬剤費の自己負担分を援助 | 1,190              |
| 相馬小学校スクールバス運行及び車両運行管理業務<br>〈学務健康課〉            | 藍内・沢田地区から相馬小学校に通学する児童の安全を確保するためのスクールバスの運行・管理                                                        | 4,560              |
| 東目屋小学校及び東目屋中学校児童生徒スキー学習に係るバス運行委託事業<br>〈学務健康課〉 | 東目屋スキー場の廃止に伴い、東目屋小・中学校のスキー学習時にそうまロマンチックスキー場へバスで送迎                                                   | 320                |
| 弥生地区児童に係るスクールバス運行委託事業<br>〈学務健康課〉              | 船沢小学校と弥生小学校の統合により、遠距離通学となる弥生地区児童の通学手段を確保するため、スクールバスを運行                                              | 1,978              |

〈基本方向シート〉

| 施策の基本方向Ⅲ                                                                                                                                                                                           | 学び合い支え合う生涯学習活動の推進 |       |       |       |       |     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-----|
| <p>生涯学習活動が多様化・高度化する中で、より高いレベルの学習機会を求める市民の学習意欲に応えることが期待されています。</p> <p>このために必要な生涯学習推進体制や社会教育施設の整備、さらには学習機会の提供等社会教育行政が主体となって行う施策とともに、市民が自ら行う学習活動や社会貢献活動を支援し、社会教育関係団体・機関との連携を進めるなど、市民の生涯学習環境を整えます。</p> |                   |       |       |       |       |     |
| 指 標                                                                                                                                                                                                | 指標の動向             |       |       |       |       |     |
|                                                                                                                                                                                                    | 基準値               | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 方向性 |
| 生涯学習活動をしている市民の割合                                                                                                                                                                                   | 22.4%             | 22.6% | 23.8% | 21.2% |       | 上昇  |
| 取得年度                                                                                                                                                                                               | H25               | H26   | H27   | H28   |       |     |

〈施策シート〉

|         |         |                         |                                                                                                                                                                     |                   |              |      |      |  |      |  |
|---------|---------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------|------|------|--|------|--|
| 施策の基本方向 |         |                         | Ⅲ 学び合い支え合う生涯学習活動の推進                                                                                                                                                 |                   |              |      |      |  |      |  |
| 目 標     |         |                         | 1 生涯学習の基盤整備と充実                                                                                                                                                      |                   |              |      |      |  |      |  |
| 施 策     |         |                         | 1 生涯学習推進体制の充実                                                                                                                                                       |                   |              |      |      |  |      |  |
| 取組み内容   |         |                         | 生涯学習活動を支える社会教育関係職員のスキルを高めるとともに、市民の生涯学習活動を支える社会教育関係団体と連携を強化し、市民が共に高め合う社会環境づくりを進めます。                                                                                  |                   |              |      |      |  |      |  |
| 指標      | 指標名及び算式 |                         | 過去の状況                                                                                                                                                               |                   | 実績値(下段:取得年度) |      |      |  | 目標値  |  |
|         | 名称      | 社会教育講習への参加者数<br>(職員・市民) | 233人                                                                                                                                                                | 228人              | 299人         | 282人 | 315人 |  | 300人 |  |
|         |         |                         | H22                                                                                                                                                                 | H24               | H26          | H27  | H28  |  |      |  |
|         | 算式      | 業務取得                    | 状況                                                                                                                                                                  | H28年度に目標値を達成しました。 |              |      |      |  |      |  |
| 評価      | H28     | 成果                      | 社会教育関係職員等の研修事業において、市・県等の他団体が主催する幅広い内容の研修を受講し、関係職員の資質向上が図られています。また、各団体等への支援により、児童生徒の文化活動の維持・推進が図られ、女性の社会参加の後押しに結びついています。                                             |                   |              |      |      |  |      |  |
|         |         | 課題                      | 社会人の学び直しなど、市民の多様な、または高度な学習ニーズに応えた学習機会を提供できる人材の育成が不可欠であり、視野を広げ、自己の資質向上に常に取り組んでいく必要があります。                                                                             |                   |              |      |      |  |      |  |
|         | H29     | 事中評価                    | 様々な市民の学習ニーズに対応できるよう、弘前大学との連携による専門的研修や県(青森県総合社会教育センター・中南教育事務所)や中南地方社会教育委員協議会など幅広い研修受講の機会を捉え、積極的に参加しやすいよう周知しています。                                                     |                   |              |      |      |  |      |  |
|         |         | 改善内容等                   | 社会教育関係職員らは、大学などとも連携した、より高度な研修や県等の広域的な参加者があり、情報交換も可能な研修に参加しています。今後も、より参加しやすい環境を整え、積極的・能動的な参加を促すことが必要です。また、社会教育関係団体への支援については、少子高齢化に比例し、衰退する事態にならないよう対策として継続する必要があります。 |                   |              |      |      |  |      |  |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                    | 事業概要                                                        | H28事業実績                                                                                           | 評価・改善内容                                                             | H28<br>決算額<br>(千円) |
|----------------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 社会教育関係職員等<br>研修事業<br><br>〈生涯学習課〉 | 社会教育関係職員の資質向上のため、計画的な研修を実施                                  | ○研修会<br>・公民館関係職員研修開催 3回<br>・公民館等新任職員研修会 1回<br>・中南地方社会教育委員連絡協議会 研修 4回<br>・県主催研修会等への派遣<br>・参加者:315人 | 研修会への参加を通して、職員の資質・能力の向上を図り、その成果を地域での事業の中で活かしていくためにも、事業を継続する必要があります。 | 80                 |
| 弘前市連合婦人会事業費補助金<br>〈生涯学習課〉        | 弘前市連合婦人会が年間を通じて行う、女性の社会参加を目的とした各種活動に係る費用の一部を補助              | ○講演会事業 1回/年<br>○文化活動事業 34回/年<br>○研修会事業等 6回/年                                                      | 講演会や研修会を通し、女性の学びと社会参加を促すためにも、引き続き活動を支援する必要があります。                    | 600                |
| 弘前市連合父母と教師の会事業費補助金<br>〈生涯学習課〉    | 弘前市連合父母と教師の会が行う、児童・生徒の教育環境の整備と教育問題の啓発等を目的とした各種活動に係る費用の一部を補助 | ○親睦体育大会(野球、卓球)<br>○教育懇談会<br>○広報紙発行(年2回)<br>○「PTAのあゆみ」発行<br>○PTA大会・研修会派遣等                          | 各単位PTAでの実践活動や研究活動並びにPTA会員の共通理解を深めるために、継続した支援が必要であります。               | 630                |

### 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                     | 事業概要                                                                          | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 弘前市化学への招待事業費補助金<br>〈生涯学習課〉        | 日本化学会東北支部弘前地区支部が開催する、中学生・高校生及び一般市民に化学への関心を深めてもらうことを目的とした「化学への招待」事業に係る費用の一部を補助 | 20                 |
| 弘前地区小学校文化連盟事業費補助金<br>〈生涯学習課〉      | 弘前地区小学校文化連盟が行う各種文化活動に係る費用の一部を補助                                               | 333                |
| 弘前地区中学校文化連盟事業費補助金<br>〈生涯学習課〉      | 弘前地区中学校文化連盟が行う各種文化活動に係る費用の一部を補助                                               | 328                |
| 弘前市小・中学校文化連盟大会派遣事業費補助金<br>〈生涯学習課〉 | 小・中学校の文化活動において、県(中学校のみ)、東北及び全国大会に参加する場合の交通費等の経費に対し補助                          | 2,046              |
| 弘前市学校管理下外親子安全保険事業費補助金<br>〈生涯学習課〉  | 児童生徒の学校管理下外における事故の補償をするため、市内在住の児童生徒、PTA会員が青森県PTA安全互助会に加入するために必要な掛金の一部を補助      | 3,270              |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
|---------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------|----------|----------|-----|----------|--|--|
| 施策の基本方向 |         | Ⅲ 学び合い支え合う生涯学習活動の推進                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
| 目 標     |         | 1 生涯学習の基盤整備と充実                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
| 施 策     |         | 2 社会教育施設等の整備と効果的な運営                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
| 取組み内容   |         | ・様々な場所・ステージで展開される市民の生涯学習活動に必要な公民館や図書館、博物館などの社会教育施設を、より快適で安全なものに整備・改善し、利便性を高めるとともに、管理運営を効果的にを行います。<br>・弘前図書館が所蔵する古文書や絵図、貴重資料の保存・公開を図るため、古文書等のデジタル化を関係団体や弘前大学と連携しながら推進し、研究・教育への利活用を促進します。 |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                         | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                         |                                                      | 実績値(下段:取得年度) |          |          |     | 目標値      |  |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      | H26          | H27      | H28      | H29 |          |  |  |
|         | 名称      | 公民館の利用者数                                                                                                                                                                                | 315,225人                                                                                                                                                                                                                                      | 287,569人                                             | 288,224人     | 283,521人 | 281,087人 |     | 300,000人 |  |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                         | H22                                                                                                                                                                                                                                           | H24                                                  | H26          | H27      | H28      |     |          |  |  |
|         | 算式      | 業務取得                                                                                                                                                                                    | 状況                                                                                                                                                                                                                                            | 過去の状況からは低下傾向が続いています。                                 |              |          |          |     |          |  |  |
| 指標      | H27     | 図書館の図書貸出冊数                                                                                                                                                                              | 435,482冊                                                                                                                                                                                                                                      | 430,580冊                                             | 430,158冊     | 455,649冊 | 447,828冊 |     | 460,000冊 |  |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                         | H22                                                                                                                                                                                                                                           | H24                                                  | H26          | H27      | H28      |     |          |  |  |
|         | 算式      | 業務取得                                                                                                                                                                                    | 状況                                                                                                                                                                                                                                            | ヒロロ「こども絵本の森」をオープンした前年に比較して、-7,821冊、増減率では1.7%減少しています。 |              |          |          |     |          |  |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
| 指標      | H28     | 博物館観覧者数                                                                                                                                                                                 | 22,300人                                                                                                                                                                                                                                       | 30,017人                                              | 36,115人      | 24,715人  | 24,028人  |     | 31,000人  |  |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                         | H22                                                                                                                                                                                                                                           | H24                                                  | H26          | H27      | H28      |     |          |  |  |
|         | 算式      | 業務取得                                                                                                                                                                                    | 状況                                                                                                                                                                                                                                            | H26は、目標値を上回ったが、H27、H28は2万4千人台と横ばい状況である。              |              |          |          |     |          |  |  |
|         |         |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                                                                      | 各施設の施設修繕及び管理運営は、計画通り実施することができています。<br>図書館及び郷土文学館は、平成29年4月から指定管理者制度を導入しました。また、古文書デジタル化事業は、デジタル化とその活用方法について、有識者等により実施計画を策定しました。<br>猪形土製品及びキャラクターデザインの活用件数が増加しています。                                                                              |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                      | 人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの多様化など様々な要因から、指標の目標値達成に至っていません。<br>専門の学芸員の数不足しており、博物館での研究、資料整理等の業務が手薄になっています。                                                                                                                                               |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                    | 博物館では、特別企画展やミニコンサートなどの周知の充実に努め、入館者数の増加を図っています。また、特別企画展の企画は一部実行委員会方式で、インバウンドの多言語化対応は、弘前大学のボランティアを活用しています。体制では、学芸員の業務過多を解消するため、追加募集しています。<br>各施設の施設修繕及び管理運営は、計画通り実施することができていますが、老朽化が進んでいる施設は、今後は大規模な改修工事が必要となり、その必要性や優先順位を踏まえ計画的に実施していく必要があります。 |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                   | 老朽化が進んでいる施設や設備は、今後大規模な改修工事が必要になります。公共施設等総合管理計画による改修工事は、その必要性や優先順位を踏まえた実施計画に基づき個別に計画し、実施していく必要があります。                                                                                                                                           |                                                      |              |          |          |     |          |  |  |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉             | 事業概要                                                              | H28事業実績                                                                                                                                                               | 評価・改善内容                                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------|
| 「いのっち」活用事業<br><br>〈博物館〉   | 「いのっち」のキャラクターに関するグッズなどを作成し、市民並びに子どもたちへのPRを図りつつ、民間企業による幅広い活用を目指すもの | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いのっちキャラクターデザイングッズ作成(消しゴム)と配布</li> <li>・菓子業界等への商品化へ向けたPR</li> <li>・猪形土製品及びキャラクターデザイン活用件数9件(菓子3件、印刷物3件、置物1件、文具2件)</li> </ul>    | 「いのっち」の幅広い活用には、知名度アップが不可欠であるため、継続したグッズ製作と、PRが求められます。 | 100                |
| 古文書デジタル化推進事業<br><br>〈図書館〉 | デジタル化したデータをインターネット等により公開することで、郷土について深く知る機会を充実、全国への情報発信            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会を中心とした庁内会議1回開催及び有識者会議を3回開催。</li> <li>・各種補助金の有効活用も見込んだ、実施計画書を作成。</li> <li>・図書館振興財団の平成29年度助成金(1千万円)を申請し、助成決定済み。</li> </ul> |                                                      | 332                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                     | 事業概要                                                                                        | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 農村環境改善センター施設整備事業<br>〈生涯学習課〉       | 雨漏り対策工事を実施                                                                                  | 1,425              |
| 農村環境改善センター管理事業<br>〈生涯学習課〉         | 利用者が快適にかつ安全に利用できるよう施設環境を維持管理                                                                | 0                  |
| 弘前市総合学習センター施設整備事業<br>〈生涯学習課〉      | ブラインド改修及び音響設備更新工事を実施                                                                        | 3,306              |
| 弘前市総合学習センター管理事業<br>〈生涯学習課〉        | 施設を適切に保守管理することにより、市民が快適に利用できるようにするもの。                                                       | 62,507             |
| 中央公民館岩木館管理運営事業<br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉 | 利用者が快適にかつ安全に利用できるよう施設環境を維持管理                                                                | 15,523             |
| 中央公民館岩木館整備事業<br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉   | 事務室暖房機器更新工事を実施                                                                              | 1,735              |
| 中央公民館相馬館管理運営事業<br>〈生涯学習課中央公民館相馬館〉 | 利用者が快適にかつ安全に利用できるよう施設環境を維持管理                                                                | 2,136              |
| 相馬ふれあい館管理運営事業<br>〈生涯学習課中央公民館相馬館〉  | 利用者が快適にかつ安全に利用できるよう施設環境を維持管理                                                                | 798                |
| 追手門広場維持管理事業<br>〈弘前図書館〉            | 追手門広場内にある各種設備などの維持管理を実施                                                                     | 75,725             |
| 図書館運営事業<br>〈弘前図書館〉                | 生涯学習を推進する施設として、市民の多様化・高度化する文化的需用にも対応できる資料の収集と提供に努め、市民の身近な図書館の運営を実施                          | 168,819            |
| 郷土文学館運営事業<br>〈弘前図書館〉              | 郷土出身の作家や郷土にゆかりのある作家に関する資料を広く公開展示し、市民の文学に対する関心と理解を高めるとともに、地域文化の発展を目指す社会教育施設の運営を実施            | 14,951             |
| 博物館管理運営事業<br>〈博物館〉                | 子どもたちや市民、観光客が歴史・文化・芸術に関心を持ち、郷土の文化への理解を深めるため、美術工芸品や歴史資料等の鑑賞機会を提供すると共に、施設の適正な維持管理を実施          | 92,949             |
| 鳴海要記念陶房館運営事業<br>〈博物館〉             | りんご釉陶芸家である故鳴海要氏の工房保全と作品公開並びに地域に開かれた文化芸術創造の空間としての活用を図るため、サークルや個人向けミニギャラリーなどの開催とともに、喫茶コーナーを開設 | 5,513              |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
|---------|---------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------------|---------|---------|-----|---------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅲ 学び合い支え合う生涯学習活動の推進                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
| 目 標     |         | 2 学習機会の充実とコミュニティづくりの推進                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
| 施 策     |         | 1 生涯学習社会を目指す多様な学習機会の創出と提供                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
| 取組み内容   |         | 生涯にわたって自己をみがき高めようとする市民の学習ニーズに応えるため、家庭・地域・学校の連携の中で多様な学習機会と充実した学習情報の提供を進めます。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         |              |         |         |     |         |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                            | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |         | 実績値(下段:取得年度) |         |         |     | 目標値     |
|         |         |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         | H26          | H27     | H28     | H29 |         |
|         | 名称      | 公民館で実施している講座への参加者数                                                         | 41,625人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 46,461人 | 49,799人      | 49,772人 | 51,568人 |     | 50,000人 |
|         |         |                                                                            | H22                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | H24     | H26          | H27     | H28     |     |         |
| 算式      | 業務取得    | 状況                                                                         | 過去の状況から上昇し、目標値を上回っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |         |              |         |         |     |         |
| 評価      | H28     | 成果                                                                         | 地区公民館及び学区まなびい講座地域では、状況に応じた主体的な活動が進められています。また、中央公民館では、全市域を対象として豊かな地域社会の創造に向けた学習機会、情報の提供に継続して取り組んでいます。特に弘前大学との地域づくり連携事業では、大学・地域双方からの新規事業提案がなされるなど、新たな学習機会として広がりを見せています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |         |              |         |         |     |         |
|         |         | 課題                                                                         | 社会状況の変化に対応して地域住民の高度化・多様化・複雑化するニーズに応えきれいていません。一方で、細分化されたニーズに応えていくことによって、学習に参加する市民も細分化されるため、多くの受講者が互いに学び合う組織的な教育活動の機会が減少していることから、総合的な学びのシステムづくりが必要です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |         |              |         |         |     |         |
|         | H29     | 事中評価                                                                       | 現在、当該施策の下に位置づけられた計画事業は全て着手しており、計画通り進捗しています。特に、30年以上にわたって実施されてきた地区公民館社会教育事業や学区まなびい講座事業は、地域・家庭・学校・社会教育行政と連携し、住民の学び、健康、福祉、レクリエーションなどを通じて、知識の獲得や住民同士(各世代の間)の関係性を高めています。このことをしっかりと活用(理解・周知)し、今後の活動に発展させていくことが重要です。また、弘前大学との地域づくり連携事業では、一人でも多くの市民が参加できるよう、未実施地域の新規事業を計画するなど、取り組みを強化していく必要があります。                                                                                                                                                                                                                                   |         |              |         |         |     |         |
|         |         | 改善内容等                                                                      | 近年、少子高齢化と人口減少の進展など、社会教育を取り巻く環境の変化を受けて社会教育における学習成果を「地域づくり」の実践につなげていくことに対する社会の期待が高まっています。また、現代の高齢者は、以前と比較して若返りが指摘されており、平均寿命や健康寿命の伸長を図るため、積極的に社会参加することは運動や栄養とともに重要な課題となっています。当市では、生涯学習活動をしている市民の割合は2割程度、町会や公民館、PTA、NPO、ボランティア団体などの地域の活動や行事に参加している市民の割合は、3割程度となっています。平成24年に内閣府が実施した生涯学習に関する世論調査では、「この1年間の生涯学習の実施状況」を問う項目に、57.1%が「生涯学習をしたことがある」と回答しており、一概に比較することはできませんが、全国に比べ低い状況となっていることがうかがえます。また、定性分析では、今後多数を占めて行く高齢者の生きがいとなるような取り組みの展開とともに、個別の事業の参加者にとらわれることなく、学習者の充足度など質的評価を重視することが必要である旨の意見もあり、これらを踏まえ総合的に事業を進めて行く必要があります。 |         |              |         |         |     |         |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                       | 事業概要                                                                       | H28事業実績                                                                                                                                    | 評価・改善内容                                                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 市民講座事業(中央公民館)<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉   | 多様化する現代社会の問題を学び、課題解決の方策を学ぶほか国際感覚を育て、次の学びへつなげるもの                            | ○市民講座<br>・実施期間・回数: 6月～3月11回<br>・実施場所: 弘前文化センター<br>・参加者: 349人<br>・講座内容:<br>現代セミナーひろさき(5回)<br>外国人のためのひろさき楽習(1回)<br>世界のおはなし(2回)<br>国際理解講座(3回) | 上位施策に直接影響を与える事業であり、地域の実生活に即した講座やグローバル化に対応した講座などを年間で実施していく必要があります。    | 73                 |
| 地区公民館社会教育事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉     | 地区公民館でさまざまな講座や教室を主催することにより、地域住民の学びを深めるとともに地域社会のつながりを強くするもの                 | ○各種講座・学級活動等<br>・実施時期: 4月～3月<br>・実施回数: 3,240回<br>・実施場所: 各地区公民館(12館)<br>・参加者: 48,483人                                                        | 上位施策の成果に直接影響を与える事業であり、地域の主体的な社会教育活動を年間を通じて継続的に支援していく必要があります。         | 3,289              |
| 学区まなびい講座支援事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉    | 市街地中心部で、地域の拠点である小学校を会場に、地域住民の主導によりさまざまな学びの機会を創出してもらい、学びを深めるとともに地域の活力を高めるもの | ○各種講座・移動学習等<br>・実施時期: 4月～3月<br>・実施回数: 173回<br>・実施場所: 市街地の各学区ほか<br>・参加者: 14,246人                                                            | 上位施策の成果に直接影響を与える事業であり、市街地の主体的な地域活性化の取り組みを社会教育の分野から継続的に支援していく必要があります。 | 918                |
| 弘前大学との地域づくり連携事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉 | 公民館を仲立ちとして弘前大学と住民が連携してさまざまな学びを創出し、地域づくりや人材育成を図るもの                          | ○弘前大学との地域づくり連携事業<br>・事業数: 11事業<br>中央公民館 4回<br>地区公民館 5回<br>学区まなびい講座 2回<br>・参加者: 1,540人                                                      | 上位施策の成果に直接影響を与える事業であり、これらの取り組みを多くの市民や地域で行うため、内容の拡充を図っていく必要があります。     | 510                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>(所管課名)                               | 事業概要                                                                                                               | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| プラネタリウム事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉               | 津軽地域で唯一のプラネタリウムによるプラネタリウム観覧や学校教育でのプラネタリウム利用を通じて、天文に関する知識を楽しみながら学び、宇宙やサイエンスへの興味・関心を高め、学びを促す                         | 4,364              |
| 青年の学習活動活性化事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉            | 青年の自立を促すこと及び職業・年齢などを越えた交流と仲間づくりの実現を目指す                                                                             | 65                 |
| 成人教育事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉                  | 年齢ステージに応じた多様な学習機会を提供し、社会的能力を養うと共にこれを広く社会に生かし、生きがいを持つきっかけとしてもらう。                                                    | 21                 |
| 各種講習会(図書館)<br><br>〈弘前図書館〉                   | 図書館の資料を利用したり、読み聞かせの技術を習得するなど一般向けの講習会や、親子で参加できる講習会を開催                                                               | 174                |
| 主催講座事業(相馬館)<br><br>〈生涯学習課中央公民館相馬館〉          | 相馬地区住民の学習ニーズや地域の実情に応じた講座を開催し、地域の方々が気軽に学びながら心を熟す姿を目指すココジユクや、紙漉きの技術を体験しながら、和紙の手作りの楽しさを学ぶと共に郷土の歴史に関心と理解を深める紙漉き体験事業を実施 | 221                |
| 福寿大学<br><br>〈生涯学習課中央公民館相馬館〉                 | 65歳以上の高齢者に多様な学習機会を提供し、また移動学習を通してその世代に相応しい社会的能力を養い、交流を深める                                                           | 103                |
| 万年青大学<br><br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉                | 岩木地区に居住する60歳以上の市民が、クラブ活動や移動学習会など年間の学習を通して健康保持と教養を高め、生きがいのある充実した生活を過ごしてもらう。                                         | 308                |
| ふるさと青少年教育事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉          | 岩木地区に居住する児童を対象に、学校休業日を利用した教養講座や映画鑑賞会、体験講座や移動学習などに参加する機会を提供しながら、遊びや学びを通して子どもたちの生きる力をはぐくむ。                           | 55                 |
| 子育てサロン「岩木びよびよひろば」<br><br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉    | 岩木地区に居住する未就学児とその保護者を対象に、親子の健康や育児に関する情報交流の機会と場を提供                                                                   | 40                 |
| 家庭教育ミニセミナー(中央公民館岩木館)<br><br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉 | 岩木地区の小学校と連携し、入学予定児童の就学時健康診断時やPTA教養講座などの機会を利用して保護者を対象に家庭教育に関する学習会を開催                                                | 5                  |
| 成人式事業<br><br>〈生涯学習課〉                        | 成人式と成人祭を開催し、新成人を祝福するとともに、成人としての自覚と社会人としての意識の高揚を図る                                                                  | 2,617              |

## 〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |              |       |       |     |       |
|---------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------|-------|-------|-----|-------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅲ 学び合い支え合う生涯学習活動の推進                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |              |       |       |     |       |
| 目 標     |         | 2 学習機会の充実とコミュニティづくりの推進                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |              |       |       |     |       |
| 施 策     |         | 2 市民の自主的な学習活動の支援と協働によるコミュニティづくり                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |              |       |       |     |       |
| 取組み内容   |         | 東日本大震災以来、地域に根ざした「絆」や「協働」への国民的な意識が高まり、学びを社会貢献として地域へ還元したいというニーズが高まっています。市民の社会参加・ボランティア活動と、こうした活動を支える学習機会・学習情報を充実させ、学習を支援します。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |              |       |       |     |       |
| 指 標     | 指標名及び算式 |                                                                                                                            | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                     | 実績値(下段:取得年度) |       |       |     | 目標値   |
|         |         |                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     | H26          | H27   | H28   | H29 |       |
|         | 名称      | 地域活動や行事に参加している市民の割合                                                                                                        | 33.6%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 29.7%                               | 31.3%        | 28.2% | 29.8% |     | 34.0% |
|         |         |                                                                                                                            | H22                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | H25                                 | H26          | H27   | H28   |     |       |
|         | 算式      | 地域経営アンケート                                                                                                                  | 状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 過去の状況から1.6ポイント上昇していますが、目標値を下回っています。 |              |       |       |     |       |
| 評 価     | H28     | 成果                                                                                                                         | 居住地域を対象とした市民組織や、目的を共有する市内の組織体の活動を支援することによって、キッズネットクラス支援事業では東地区の子育て活動を、ピュアフレンズ支援事業では市内の知的障がい者の生涯学習活動の活性化を実現しています。また、その活動を市民に周知し、スタッフとして取り込むことによって市民の社会貢献ニーズに対応しています。<br>文化センターフェスティバル支援事業、公民館まつりでは、活動場所の提供や日常の活動状況、成果などを住民に周知することで、市民の学習機会・情報提供を支援しています。                                                                                                                                          |                                     |              |       |       |     |       |
|         |         | 課題                                                                                                                         | 市民組織や目的を共有する組織体の活動の中では、楽しさや充足感は満たされていますが、地域が直面する独居世帯の増加、担い手不足、生活・社会情勢への不安などの課題に気付き、共有し、考え、行動することが必要です。こうした課題を自らが解決することで、市民の更なる学習活動や行動力につながり、地域コミュニティの活性化の基礎となることを示していく必要があります。                                                                                                                                                                                                                   |                                     |              |       |       |     |       |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                       | 現在、当該施策の下に位置付けられた計画事業は全て着手しており、計画通り進捗しています。<br>特に、ピュアフレンズ支援事業では、昨年と同様に市民ボランティアのほか、新しい学生ボランティアが活動に参加するなど広がりが見られています。                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                     |              |       |       |     |       |
|         | 改善内容等   |                                                                                                                            | 近年、地域との関係性の希薄化と、家庭や家族環境が多様化し地域コミュニティの衰退が指摘されているなか、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害をきっかけとして、地域住民の安心、安全な暮らしを守るための日常的な絆づくりの必要性が認識されています。<br>当市では、インフォーマルな地域の繋がりがどの程度あるのかを検討した場合、弘前市では、地域の活動や行事に「よく参加している」「ときどき参加している」者の割合は3割強にとどまっています。また、青少年の健全育成活動に参加したことのある市民の割合は、平成27年度には、前年度から3.4ポイント上昇しましたが、その後は横ばいとなっています。<br>定性分析では、少子高齢化を背景に、事業の担い手となる団体の活動の継続が懸念されており、ボランティアをはじめとする新たな担い手の育成や、体制の強化が必要となっている状況がうかがえます。 |                                     |              |       |       |     |       |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                         | 事業概要                                                                                     | H28事業実績                                                                                                                | 評価・改善内容                                                                          | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| キッズネットクラス運営<br>支援<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉 | 未就学児を持つ子育て中の親が抱える不安や閉塞感の解消、そして親同士・地域住民との情報交換やネットワークづくりを、集団での遊びを通じて築くことを支援                | ○キッズネットクラス<br>・実施時期・回数：5月～3月11回<br>・実施場所：総合学習センター<br>・参加人数：延べ315人<br>○運営委員会(2回)<br>・参加者募集(広報、地域回覧ほか)<br>・参加人数：延べ24人    | 今後も重要な分野(子育て)で自主的な支援活動をしている市民の取り組みをを継続して支援していきます。                                | 0                  |
| ピュアフレンズ支援事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉       | 知的障がいを持つ青年と学習活動を補助するボランティアによる生涯学習機会として実施。教養を高めるとともに日常生活環境への適応、知的障がい者相互の親睦を図るもの           | ○周知活動(ボランティア募集)<br>○体験・学習活動<br>・実施時期・回数：5月～2月8回<br>・実施場所：総合学習センター<br>・参加人数：延べ222人<br>・ボランティア人数：延べ202人                  | 今後も重要な分野(知的障がい者の生涯学習活動)で自主的な支援活動をしている市民の取り組みを継続して支援していきます。                       | 0                  |
| 文化センターフェスティバル支援事業<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉 | 弘前文化センターで活動しているグループの活動成果を発表する場を提供し、活動の活性化を図るとともに、一般市民に活動への理解を深めてもらうこと及び生涯学習のきっかけとしてもらうもの | ○文化センターフェスティバル<br>・開催時期・回数：11月12日～14日 1回<br>・開催場所：弘前文化センター<br>・来場者数：714人<br>・会議等：実行委員会(2回)<br>作品展示会議(2回)<br>舞台発表会議(2回) | 今後も継続して生涯学習機会の提供や活動情報を発信するなど、市民の学習を支援していくことが必要です。                                | 91                 |
| 公民館まつり(地区公民館)<br><br>〈生涯学習課中央公民館〉     | 地域住民が集い、一年を通じて達成したさまざまな活動成果を共有することにより、さらなる学びに向かう動機付けとなるとともに住民同士の交流を深めるもの                 | ○公民館まつり・文化祭<br>・開催時期：10月～2月<br>・実施回数：各地区公民館1回<br>・開催日数：延べ50日間<br>・参加者：9,198人<br>○地区公民館運営委員会(2回)                        | 施策の成果に直接影響を与える事業であり、今後も継続して地域の拠点として社会教育の推進と地域コミュニティの活性化の向上に寄与する活動を支援していく必要があります。 | 951                |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                        | 事業概要                                                                           | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 相馬地区文化祭<br>〈生涯学習課中央公民館相馬館〉           | 相馬地区の伝統芸能や文化に親しみながら参加体験を<br>するとともに、郷土を愛する心や誇りの保持と地域の活性化<br>を図る                 | 142                |
| 文化グループの支援・育成事業<br>〈生涯学習課中央公民館〉       | 公民館事業を通じて生まれた市民の自主的な学習活動を<br>支援することにより、学びを深めると共に、学びを社会に還<br>元するための機会となるよう支援    | —                  |
| 青年サークル活動の支援・育成事業<br>〈生涯学習課中央公民館〉     | 青年の交流の輪を広げ、さまざまな分野にわたって社会<br>参加を促すために青年の自主的な学習活動を支援                            | —                  |
| 公民館クラブ活動支援(地区公民館)<br>〈生涯学習課中央公民館〉    | 地域住民の自主的な学習活動を支援することにより、学び<br>を深めると共に、学びを社会に還元するための機会となるよう<br>支援               | —                  |
| 岩木地区レクリエーション大会補助金<br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉 | 岩木地区住民の健康及び体力増進を図るとともに、岩木<br>地区の連帯感を深めるため、レクリエーション大会の開催に<br>要する経費に対し補助         | 300                |
| ねっとワーク・いわき関連事業<br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉    | 岩木地区町会及び町会公民館との連携及び情報共有を<br>し、公民館活動の活性化を図るため、情報誌「ねっとワーク・<br>いわき」の発行や担当者連絡会議を開催 | 28                 |
| 花いっぱい運動<br>〈生涯学習課中央公民館岩木館〉           | 育苗講習会や花壇コンクールを通して、岩木地区の各町<br>会が花植えをし奉仕する心や地域の連携協力、環境美化<br>の推進を図る               | 83                 |
| ボランティア活動支援・協働事業(図書館)<br>〈弘前図書館〉      | おはなし会ボランティア、閲覧室ボランティアの駐車場使<br>用料を負担                                            | 42                 |

〈基本方向シート〉

| 施策の基本方向Ⅳ                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成 |       |       |        |       |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|-------|--------|-------|-----|
| <p>文化財の計画的な保存修理を実施しながら、修理・発掘現場の積極的な公開を行うとともに、子どもたちが文化財に触れることにより、歴史に興味を持ち郷土のよさを知ってもらうため、学校との連携による学習を支援します。</p> <p>また、郷土の歴史・伝統・文化を保存し、受け継いでいくための地域活動を推進し、郷土を愛する市民を増やします。</p> <p>併せて、市民や観光客に対し、効果的なPR活動を行い、歴史や文化に触れて感動する機会をより多く提供するとともに、郷土の歴史や文化に対する理解と普及啓発を図るため、文化財に関する情報を収集、整理、発信するためのシステムを構築します。</p> |                          |       |       |        |       |     |
| 指 標                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 指標の動向                    |       |       |        |       |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 基準値                      | H26年度 | H27年度 | H28年度  | H29年度 | 方向性 |
| 郷土弘前の歴史と文化財に親しみを持っている市民の割合                                                                                                                                                                                                                                                                           | 66.0%                    | 66.5% | 65.8% | 64.40% |       | 上昇  |
| 取得年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | H25                      | H26   | H27   | H28    |       |     |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                |              |     |     |     |     |
|---------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 施策の基本方向 |         | Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                |              |     |     |     |     |
| 目 標     |         | 1 文化財の保存と整備                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                |              |     |     |     |     |
| 施 策     |         | 1 文化財の保存と管理                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                |              |     |     |     |     |
| 取組み内容   |         | 市内に残る文化財建造物を保存・管理するため、保存活用の方針を定め、老朽化したものは保存修理を実施します。また、史跡等の記念物の把握と記録を行いつつ管理に努め、その本質的価値を守るため、埋蔵文化財等の調査を実施します。<br>伝統的建造物群保存地区の維持のため、保存管理計画を見直しし、公開武家住宅の管理と保存修理を実施しながら地区内の景観維持を目指します。<br>さらに、市内の文化遺産を守るための調査を実施します。 |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                |              |     |     |     |     |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                                  | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                               |                                | 実績値(下段:取得年度) |     |     |     | 目標値 |
|         |         |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                | H26          | H27 | H28 | H29 |     |
|         | 名称      | 重要文化財建造物の防災設備点検数                                                                                                                                                                                                 | 11件                                                                                                                                                                                                                                                 | 11件                            | 11件          | 11件 | 11件 |     | 11件 |
|         |         |                                                                                                                                                                                                                  | H22                                                                                                                                                                                                                                                 | H25                            | H26          | H27 | H28 |     |     |
|         | 算式      | 点検した重要文化財所有者数                                                                                                                                                                                                    | 状況                                                                                                                                                                                                                                                  | 重要文化財建造物の防災設備保守点検は着実に実施されています。 |              |     |     |     |     |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                                                                                               | 弘前の町並みの特徴である重層的な町並みの根幹を形成する重要文化財建造物について、着実に防災設備の保守点検を実施することができました。これにより良好な状態で文化財建造物を保存することが可能となり、弘前の魅力の向上と共に安全な公開を行うことができたと考えられます。                                                                                                                  |                                |              |     |     |     |     |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                                               | 所有者との連携により、適正な管理体制を構築できていますが、中には、所有者の高齢化や、担い手の減少により、管理体制の見直しが必要になると見込まれます。文化財建造物等修理事業の事業費と、それに伴う所有者負担額は、植物性資材の枯渇等の理由により増加傾向となっています。                                                                                                                 |                                |              |     |     |     |     |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                                             | 11団体への補助金の交付により、重要文化財の適正な維持管理を引き続き行うことができました。また、重要文化財建造物等の修理事業補助も、平成28年度で5事業実施し、所有者の経済的負担を軽減して、保存修理を実施し、その価値を守ることができました。今年度は6事業を予定しています。                                                                                                            |                                |              |     |     |     |     |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                                            | 重要文化財建造物等、弘前の魅力の大きな構成要素である文化的遺産を次代へ継承するため、その健全性を担保する防災設備の保守点検や除排雪経費等に対して今後も継続して補助していく必要があります。所有者や担い手の高齢化や減少が加速度的に進むことが見込まれますので、補助制度のさらなる充実と、総合的な計画の策定が必要です。また、重要文化財建造物等修理事業費とそれに伴う所有者負担額は、増加の傾向にあることから、市のまちづくりの根幹である文化財の保護に対し、継続して補助を実施していく必要があります。 |                                |              |     |     |     |     |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                     | 事業概要                                                   | H28事業実績                                                                                                     | 評価・改善内容                              | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------|
| 重要文化財等修理事業補助<br><br>〈文化財課〉        | 重要文化財建造物の修理や防災設備等の設置・更新等に要する経費に対し補助                    | 旧弘前偕行社保存修理事業(補助)<br>岩木山神社本殿保存修理事業(補助)<br>革秀寺本堂・津軽為信霊屋保存修理事業(補助)<br>高照神社随神門・高塀保存修理事業(補助)<br>乳井神社社殿保存修理事業(補助) | 今後も事業を継続し、文化財の保存と活用に資される必要があります。     | 27,971             |
| 指定文化財管理事業補助<br><br>〈文化財課〉         | 重要文化財建造物の通常の維持管理に必要な防災設備の保守点検や除排雪経費等について、県に準じて経費の一部を補助 | 重要文化財建造物の防災設備保守点検及び除排雪経費補助 11件 補助率1/4                                                                       | 今後も事業を継続し、文化財の保存と活用に資される必要があります。     | 591                |
| 伝統的建造物群保存地区修理修景事業補助<br><br>〈文化財課〉 | 仲町伝統的建造物群保存地区内の建造物等の修理・修景に要する経費に対し補助                   | 地区住民の修理修景事業に対する補助<br>国庫補助事業 4件(門修理2件、板塀修理1件、板塀修景1件)<br>市単独補助 6件(門扉修景2件、サワラ生垣修理2件、サワラ生垣修理2件)                 | 今後も事業を継続し、伝建地区内の建造物・景観の向上に努める必要があります | 2,277              |

## 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                   | 事業概要                                                                     | H28<br>決算額<br>(千円) |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 仲町伝統的建造物群保存地区樹木保存事業補助<br>〈文化財課〉 | 仲町伝統的建造物群保存地区内の樹木保護のため、害虫防除に要する経費の一部に対し補助                                | 93                 |
| 公開武家住宅整備事業<br>〈文化財課〉            | 仲町伝統的建造物群保存地区内の公開武家住宅(4棟)の老朽箇所を修理                                        | 3,798              |
| 市内遺跡発掘調査事業<br>〈文化財課〉            | 開発による遺跡への影響の有無や記録保存を図るため、試掘調査及び詳細分布調査を実施                                 | 2,000              |
| 広域環状道路整備発掘調査事業<br>〈文化財課〉        | 平成24～27年度の4か年で、3,413㎡の発掘調査を実施。平成28年度に過年度の調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行し、発掘調査事業は終了。 | 4,396              |
| 建造物調査事業<br>〈文化財課〉               | 文化財指定の事前調査、解体前の記録保存として建造物調査を実施                                           | 1,024              |
| 大石武学流庭園調査・活用事業<br>〈文化財課〉        | 大石武学流庭園群の国名勝指定に向けて、文化庁の現地指導を受け、瑞楽園の顕在化を図るほか、文化的価値を認識するためのシンポジウムを記載       | 4,189              |
| 瑞楽園管理事業<br>〈文化財課〉               | 国指定名勝瑞楽園及び中別所板碑群の維持管理                                                    | 6,750              |
| 太宰治まなびの家事業<br>〈文化財課〉            | 旧藤田家住宅(太宰治まなびの家)を指定管理業務等により管理                                            | 6,957              |
| 旧市立図書館管理事業<br>〈文化財課〉            | 直営体制により、旧弘前市立図書館を公開活用と併せて管理                                              | 405                |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                |                                                        |              |        |        |     |        |
|---------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------|--------|--------|-----|--------|
| 施策の基本方向 |         | Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                |                                                        |              |        |        |     |        |
| 目 標     |         | 1 文化財の保存と整備                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                |                                                        |              |        |        |     |        |
| 施 策     |         | 2 文化財の整備の推進                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                |                                                        |              |        |        |     |        |
| 取組み内容   |         | 史跡津軽氏城跡は、堀越城跡、弘前城跡で構成され、さらに弘前城跡は弘前城、長勝寺構、新寺構からなります。これらは、史跡津軽氏城跡保存管理計画及び整備計画に基づく、適正な保存、整備並びに活用が求められており、計画に沿った整備を推進します。<br>また、文化財の一部を構成する歴史・文化資料の保存と活用を図るため、津軽歴史文化資料展示施設等を整備するほか、市民及び観光客等が安心して回遊し、弘前の歴史・文化に対する理解を深められる環境の整備を図ります。 |                                                                                                                                                                                |                                                        |              |        |        |     |        |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                                                                                                                 | 過去の状況                                                                                                                                                                          |                                                        | 実績値(下段:取得年度) |        |        |     | 目標値    |
|         |         |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                |                                                        | H26          | H27    | H28    | H29 |        |
|         | 名称      | 堀越城跡整備進捗率                                                                                                                                                                                                                       | -                                                                                                                                                                              | 12.60%                                                 | 28.00%       | 37.80% | 41.50% |     | 42.50% |
|         |         | H22                                                                                                                                                                                                                             | H25                                                                                                                                                                            | H26                                                    | H27          | H28    |        |     |        |
|         | 算式      | 堀越城跡整備対象面積に対する整備済面積の割合<br>※整備対象面積は82,000㎡                                                                                                                                                                                       | 状況                                                                                                                                                                             | 堀越城跡の整備済面積の割合は順調に増加しており、平成29年度末までに目標値を上回る45.3%となる予定です。 |              |        |        |     |        |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                                                                                                              | 当該施策に紐づく計画事業については、着実に進捗しています。<br>堀越城跡整備事業については計画的な整備の推進により、指標となる整備進捗率は着実に増加するとともに、整備終了地区より暫定公開しています。また、津軽歴史文化資料展示施設等整備事業についても、整備は着実に進んでおり、施策目的に寄与しています。                        |                                                        |              |        |        |     |        |
|         |         | 課題                                                                                                                                                                                                                              | 堀越城跡整備事業については2020年春の全面公開にむけて、着実に整備を進めるとともに、地域住民との協働による、より一層の公開活用と適切な維持管理を実施する体制づくりを進める必要があります。津軽歴史文化資料展示施設等整備事業については、平成30年春の開館に向けて着実に整備を進めるとともに、開館後の管理・運営体制への円滑な移行を進める必要があります。 |                                                        |              |        |        |     |        |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                                                                                                                            | 現在、当該施策に紐づく計画事業にはすべて着手しています。<br>堀越城跡整備事業については、着工中の工事を着実に進めるほか、年度内に史跡内の最終整備区である三之丸東地区整備に着手する予定です。<br>津軽歴史文化資料展示施設等整備事業については、全工事を着手済みであり、工期内の竣工に向けて着実な進捗を図ります。                   |                                                        |              |        |        |     |        |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                                                                                                                           | 当該施策については、着実に進捗しており、両事業ともに全面的な公開活用の見込みがほぼ確定しました。今後は、より一層の公開活用と適切な維持管理を実施する、管理・公開活用に係る計画や体制構築の検討を進める必要があります。                                                                    |                                                        |              |        |        |     |        |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                       | 事業概要                                                                                                                   | H28事業実績                                                                                                                                                               | 評価・改善内容                                                                     | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 史跡津軽氏城跡堀越<br>城跡整備事業<br><br>〈文化財課〉   | 本丸・二之丸・三之丸・外構<br>整備、旧石戸谷家住宅復元<br>を実施(整備面積:82,000<br>㎡)。<br>27年度は三之丸西地区・管<br>理活用支援エリア整備等。事<br>業期間:平成21～31年度             | 管理活用支援エリア整備工<br>事2次 6,500㎡<br>外構地区整備工事1次<br>22,900㎡<br>エントランスエリア整備工事1<br>次 4,100㎡<br>管理活用支援エリア休息施<br>設整備工事 1棟<br>三之丸東地区実施設計<br>旧石戸谷家住宅復元工事2<br>次 430㎡<br>整備指導委員会開催 3回 | 計画に基づき、事業を着実<br>に進めます。また、今後も周<br>知・公開活用を進めるととも<br>に、整備後の維持管理体制<br>づくりも進めます。 | 222,472            |
| 津軽歴史文化資料展<br>示施設等整備事業<br><br>〈文化財課〉 | 貴重な歴史的文化的資料の<br>適正な保存と展示のための<br>施設を建設し、多くの人々に<br>公開する環境を整え、併せ<br>て、藩政時代からの歴史・文<br>化資料をもって、地域の立体<br>感のある遺構空間の形成を<br>図る。 | 展示施設新築工事・工事監<br>理<br>展示施設展示工事・工事監<br>理<br>馬場跡整備工事・工事監理<br>馬場跡試掘調査<br>保安林解除用地測量 ほか                                                                                     | 計画に基づき、事業を着実<br>に進めます。また、施設整備<br>や体制づくりのため関係機関<br>との協議調整を進めます。              | 339,587            |

〈施策シート〉

|         |         |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                           |                           |              |     |     |     |         |  |  |
|---------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------|-----|-----|-----|---------|--|--|
| 施策の基本方向 |         | Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                           |                           |              |     |     |     |         |  |  |
| 目 標     |         | 2 文化財の公開活用と伝承                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                           |                           |              |     |     |     |         |  |  |
| 施 策     |         | 1 文化財情報の公開・発信の充実                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                           |                           |              |     |     |     |         |  |  |
| 取組み内容   |         | 文化財保護意識の高揚を図るため、市民や観光客に対し効果的なPR活動を行い、歴史や文化に触れて感動する機会をより多く提供します。<br>また、郷土の歴史や文化に対する理解と普及啓発を図るため、文化財に関する情報を収集、整理、発信するためのシステムを構築します。 |                                                                                                                                                                                                                                           |                           |              |     |     |     |         |  |  |
| 指標      | 指標名及び算式 |                                                                                                                                   | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                     |                           | 実績値(下段:取得年度) |     |     |     | 目標値     |  |  |
|         | 名称      | 文化財課所管施設の入場者数                                                                                                                     | 39,580人                                                                                                                                                                                                                                   | 39,902人                   | H26          | H27 | H28 | H29 | 43,000人 |  |  |
|         |         |                                                                                                                                   | H22                                                                                                                                                                                                                                       | H24                       | H26          | H27 | H28 |     |         |  |  |
|         | 算式      | 該当する施設の年間総入場者数の合算により集計する                                                                                                          | 状況                                                                                                                                                                                                                                        | 目標値43,000人を8,758人上回っています。 |              |     |     |     |         |  |  |
| 評価      | H28     | 成果                                                                                                                                | 平成26年度以降、右肩上がりで見込め入場者数は伸びています。平成26年度から、瑞楽園・武家住宅に、それ以前から導入していた旧藤田家住宅同様に指定管理者制度を導入しました。民間のノウハウを用いた文化財施設の活用が功を奏し、目標値を超える入場者数となっており、文化都市弘前の魅力を、市内外の人に概ね発信できていると考えられます。                                                                        |                           |              |     |     |     |         |  |  |
|         |         | 課題                                                                                                                                | 弘前城跡周辺エリアに集中する観光客等をいかに誘導するかが課題となります。文化財の本質的価値を保存すること、利活用する部分とのバランスを保つ必要があり、文化財施設をより適正に、教育・観光等に活用するため、関係団体との更なる連携、市としてのガイドラインを定める必要があります。                                                                                                  |                           |              |     |     |     |         |  |  |
|         | H29     | 事中評価                                                                                                                              | 現在当該施策に紐づく計画事業はすべて着手しております。<br>引き続き、指定管理者と連携し、民間のノウハウを活用しながら、より多くの人々に弘前の文化遺産に触れていただく機会を作ります。今年度、国土交通省の歴史的風致活用国際観光支援事業を活用し、重要文化財建造物及び仲町伝統的建造物群保存地区等に、多言語の説明板を設置する予定です。これにより、訪日外国人に対して、より深く弘前の歴史・文化に触れていただくことが可能となり、弘前の魅力を広く発信できるものと考えられます。 |                           |              |     |     |     |         |  |  |
|         |         | 改善内容等                                                                                                                             | 文化財施設の入場者数は、順調に伸びています。また、外国人入場者の数も、2倍超の大幅な伸びを示しています。市内からの入場者数も順調に伸びていることから、市内外問わず、弘前の文化財に触れる機会は多くなっていることがわかります。一方で、国外からの来訪者の受け入れ体制や、文化財そのものの価値をわかりやすく説明することも求められています。                                                                     |                           |              |     |     |     |         |  |  |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉            | 事業概要                                                                  | H28事業実績                                                                                                                                                      | 評価・改善内容                                                 | H28<br>決算額<br>(千円) |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------|
| 文化財施設公開事業<br><br>〈文化財課〉  | 公開武家住宅におけるイベントを実施                                                     | ○施設公開<br>旧伊東家住宅(通年)、<br>旧梅田家住宅(4月～11月)、<br>旧岩田家住宅(通年)、<br>旧笹森家住宅(通年)、<br>瑞樂園(4月～11月)、<br>旧市立図書館(通年)、<br>旧藤田家住宅(通年)<br>○文化財講座<br>※体験イベントは指定管理者<br>の自主事業として実施。 | 成果指標に直接影響を与える事業。弘前市の特色をPRする重要な事業であり、継続して事業を進めていく必要があります | 250                |
| 世界遺産登録推進事業<br><br>〈文化財課〉 | 史跡大森勝山遺跡を含めた「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指した活動を実施する縄文遺跡群世界遺産登録推進本部へ、負担金を交付 | ○縄文遺跡群世界遺産登録推進本部により以下の作業を実施する。<br>①推薦書案作成<br>②推進本部会議出席(1回)<br>③専門家委員会出席(1回)<br>④推進会議等出席(4回)                                                                  | 縄文遺跡登録推進本部との連携のためにも事業の継続が必要です。                          | 251                |

〈施策シート〉

|         |             |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                     |              |        |        |     |        |
|---------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|--------------|--------|--------|-----|--------|
| 施策の基本方向 |             | Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                     |              |        |        |     |        |
| 目 標     |             | 2 文化財の公開活用と伝承                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                     |              |        |        |     |        |
| 施 策     |             | 2 文化財を活用した学習等の充実                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                     |              |        |        |     |        |
| 取組み内容   |             | 市内には、弘前城跡をはじめとする数多くの史跡や歴史的建造物などの文化遺産が存在しており、県内はもとより東北でも屈指の文化都市となっています。<br>これらの文化遺産について、小・中学生及び市民の地域文化への理解を得るとともに、地域への誇りと愛着を持った人材育成を図るため、文化遺産の公開活用を推進します。 |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                     |              |        |        |     |        |
| 指標      | 指標名及び算式     |                                                                                                                                                          | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                     | 実績値(下段:取得年度) |        |        |     | 目標値    |
|         |             |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                     | H26          | H27    | H28    | H29 |        |
|         | 名称          | イベント参加者数                                                                                                                                                 | —                                                                                                                                                                                                                                                           | 1,066人                                              | 1,989人       | 3,577人 | 2,507人 |     | 1,200人 |
|         |             |                                                                                                                                                          | —                                                                                                                                                                                                                                                           | H25                                                 | H26          | H27    | H28    |     |        |
| 算式      | 各イベントの参加者総数 |                                                                                                                                                          | 状況                                                                                                                                                                                                                                                          | 目標値は4年間平均値で1,200人ですが、これまでの3年間平均値は2,691人と大きく上回っています。 |              |        |        |     |        |
| 評価      | H28         | 成果                                                                                                                                                       | 各種公開事業により、市民が文化財に触れる機会は増加しており、参加者数も順調に増加しています。                                                                                                                                                                                                              |                                                     |              |        |        |     |        |
|         |             | 課題                                                                                                                                                       | 史跡等公開活用事業・大森勝山遺跡公開活用事業の両事業ともに、定期開催のイベントは定着しつつあり、安定した参加者数となっていますが、参加者からは参加枠の増加や、更なる追加イベントの開催の要望があがっています。しかし、実施体制や、原資となる国庫補助金の減額交付など、限られた人員・予算の中で、より効果的に文化財の公開活用を図っていく必要が生じています。<br>なお、大森勝山遺跡公開活用事業については、イベント等による遺跡の周知・公開活用とともに、来訪者の受入れ環境の整備も進める必要があります。      |                                                     |              |        |        |     |        |
|         | H29         | 事中評価                                                                                                                                                     | 現在、当該施策に紐づく計画事業にはすべて着手しています。<br>史跡等公開活用事業については、遺跡見学会やシンポジウムを開催するほか、秋には市内小学校全6年生児童約1,300名を対象とした弘前城本丸石垣解体現場見学会を開催する予定です。<br>大森勝山遺跡公開活用事業では、8月にじょうもん祭りや縄文講座を開催するとともに、年度内に整備工事用仮設道路整備と台地地区造成工事実施設計策定を進める予定です。                                                   |                                                     |              |        |        |     |        |
|         |             | 改善内容等                                                                                                                                                    | 当該施策については過去3年間の施策展開により、参加者数の順調な増加とともに、参加者からも好評を得ています。また、参加者や地域住民、参加団体からは、公開活用イベントのさらなる内容拡充や、遺跡の公開活用環境の向上について要望も出ています。<br>しかし、公開活用イベントについては要望に答える体制づくりや、国庫補助金の効率的な活用などを検討していく必要があります。<br>また、大森勝山遺跡公開活用事業については、世界遺産登録推進の動向を見据えながら、早急に来訪者の受入れ環境の向上を進める必要があります。 |                                                     |              |        |        |     |        |

## 〈事業シート〉

## 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                                              | 事業概要                                                    | H28事業実績                                                                                                                                                                                                                                          | 評価・改善内容                                                                                                  | H28<br>決算額<br>(千円) |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 史跡等公開活用事業<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>〈文化財課〉    | 小・中学校及び市民を対象に遺跡見学会、石垣シンポジウムなどを実施するほか、出前授業用として土偶のレプリカを作製 | ○遺跡見学会 8月・10月 4回 252人(堀越城跡ほか4ヶ所)<br>○大森勝山遺跡シンポジウム 9月 1回 94人(市民文化交流館ホール)<br>○遺跡説明板整備 1基(如来瀬石切丁場跡)<br>○学習支援(体験発掘) 6月1回 13人(東目屋小学校)<br>○出前授業 7月～2月 12回 260人(堀越小学校、第二中学校)<br>○パネル展 11月～3月 6回 635人(ヒロロほか2ヶ所)<br>○文化財マップ作成調査 7月～10月 4回 251人(福村小学校ほか2校) | 史跡等の整備事業の本格化等に伴う、文化財への関心の高まりにより、今後も参加者の増加が見込まれます。イベントの定着化とともに、多様な要望に応えることのできる体制づくりも含めた、事業の拡充が必要となります。    | 2,000              |
| 大森勝山遺跡公開活用事業<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>〈文化財課〉 | 大森勝山遺跡世界遺産登録に向けて、地域の盛り上がりをもつため、ちびっ子縄文講座、遺跡保存活用イベント等を開催  | ちびっ子縄文講座 7～8月全2回 14人<br>イベント開催(大森勝山じょうもん祭り) 1回 8月開催 参加者・協力者計 175人<br>整備指導委員会開催 3回<br>遺跡整備基本設計策定業務委託<br>アクセス道路現況測量等業務委託<br>草刈業務委託・入口雑木伐採業務委託<br>園路養生工事<br>遺跡説明板・案内看板設置各1基                                                                         | 世界遺産登録推進活動の進捗により、遺跡の知名度や来場者数も増加しています。地域やイベント参加者からも受入れ環境等の向上について要望がでており、今後はイベントの定着化や整備事業の具体化等、事業の拡充が必要です。 | 12,825             |

〈施策シート〉

|         |               |                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |              |      |      |     |      |
|---------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------|------|------|-----|------|
| 施策の基本方向 |               | Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |              |      |      |     |      |
| 目 標     |               | 2 文化財の公開活用と伝承                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |              |      |      |     |      |
| 施 策     |               | 3 地域に根ざした文化遺産の保存と伝承                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |              |      |      |     |      |
| 取組み内容   |               | 地域に根ざした伝統芸能や伝統行事の保存・伝承を図るため、活動団体の支援を進め、各種媒体による記録保存に努めます。<br>また、地域に伝わる伝統技術の保存・伝承を図るため、保存団体への支援を進め、伝統技法による作品製作、古い技術の研さんに努めます。 |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |              |      |      |     |      |
| 指標      | 指標名及び算式       |                                                                                                                             | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                  |      | 実績値(下段:取得年度) |      |      |     | 目標値  |
|         |               |                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                        |      | H26          | H27  | H28  | H29 |      |
|         | 名称            | 津軽塗手板の技法復元数                                                                                                                 | 181種                                                                                                                                                                                                                                                   | 200種 | 213種         | 213種 | 213種 |     | 220種 |
|         |               |                                                                                                                             | H22                                                                                                                                                                                                                                                    | H24  | H26          | H27  | H28  |     |      |
| 算式      | 全548種のうち復元数   | 状況                                                                                                                          | 過去に再現した技法の精度をさらに高めるため複数年で作品を制作しています。                                                                                                                                                                                                                   |      |              |      |      |     |      |
| 指標      | 指標名及び算式       |                                                                                                                             | 過去の状況                                                                                                                                                                                                                                                  |      | 実績値(下段:取得年度) |      |      |     | 目標値  |
|         |               |                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                        |      | H26          | H27  | H28  | H29 |      |
|         | 名称            | 伝統芸能の活動団体数                                                                                                                  | 18団体                                                                                                                                                                                                                                                   | 18団体 | 18団体         | 18団体 | 16団体 |     | 18団体 |
|         |               |                                                                                                                             | H22                                                                                                                                                                                                                                                    | H24  | H26          | H27  | H28  |     |      |
| 算式      | 無形文化財・無形民俗文化財 | 状況                                                                                                                          | 後継者不足から活動を休止している団体があります。                                                                                                                                                                                                                               |      |              |      |      |     |      |
| 評価      | H28           | 成果                                                                                                                          | 平成26年度から進める技法の再現については、再現した技法についてさらに精度を高めるため、再現済技法を深める制作を進めています。また、それに併せて、後継者育成事業も継続しており、現在、研修生は塗3人、木地4人で行われています。                                                                                                                                       |      |              |      |      |     |      |
|         |               | 課題                                                                                                                          | 津軽塗の伝承事業については、再現技法による技術の研鑽を進めながら、後継者育成も継続して進めていますが、そもそも研修を受けようとする、一定程度技術を修めた若手の技術が少ない状態です。関係機関と連携し、後継者の育成を図っていく必要があります。伝統芸能については、後継者不足などによる活動休止中の団体があります。活動中の団体への用具確保のための補助を進めながら、後継者の裾野を広げるための公開活動などへの支援も進める必要があります。                                  |      |              |      |      |     |      |
|         | H29           | 事中評価                                                                                                                        | 平成29年度も引き続き、津軽塗の国の重要無形文化財指定を含めた津軽塗の技術保存及び伝承を図るとともに、市有漆林下草刈を行い、適切な原材料確保・維持管理体制を構築していきます。<br>平成29年度は、松森町獅子舞保存会と鬼沢公民館の2団体に、用具の修理や更新の経費の一部を補助することで、適正な活動の継続と後継者育成を行います。                                                                                    |      |              |      |      |     |      |
|         |               | 改善内容等                                                                                                                       | 無形文化財の保持団体正会員の人数は、わずかに減少していますが、一方で、後継者育成については、国と連携しながら、着実に進めています。しかし、後継者育成研修の対象である一定程度技術を修めた若手の技術者自体が少ないため、関係機関との連携を強化して、研修体制を整備することが必要です。<br>無形民俗文化財の伝承については、毎年一定数事業化されているところです。今後も、用具を確保するための支援を継続し、後継者の育成と、後継者の裾野を広げるための公開活動を行えるようにサポートしていく必要があります。 |      |              |      |      |     |      |

## 〈事業シート〉

### 1 施策を構成する主な事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                 | 事業概要                                           | H28事業実績                                                 | 評価・改善内容                                               | H28<br>決算額<br>(千円) |
|-------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------|
| 津軽塗技術保存伝承事業<br><br>〈文化財課〉     | 津軽塗技術の保存伝承のため、漆採取、技術育成研修に要する経費に対し補助            | ○津軽塗技術保存伝承事業費補助金交付 1団体 100千円(津軽塗技術保存会)<br>○市有漆林下草刈業務 1回 | 津軽塗技術の伝承は着実に進んでいます。今後も継続して伝承事業に対して助成していく必要があります。      | 910                |
| 無形民俗文化財用具修理事業補助<br><br>〈文化財課〉 | 無形文化財の保存・振興を図るため、県及び市の指定無形民俗文化財用具修理に要する経費に対し補助 | ○用具修理件数 4件                                              | 保存団体の財政的負担を軽減し、適正な状態で伝承活動を実施するためにも、継続して助成していく必要があります。 | 279                |

### 2 施策に関連する事業

| 事業名<br>〈所管課名〉                    | 事業概要                               | H28<br>決算額<br>(千円) |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------|
| 民俗文化財指定文化財候補団体補助事業<br><br>〈文化財課〉 | 無形文化財指定を受ける可能性のある団体の保存育成に係る経費に対し補助 | 0                  |

### 3 学識経験者による意見

#### はじめに

平成 24 年度に、弘前大学教育学部は初めて弘前市教育委員会（以下、「弘前市教委」）から平成 23 年度自己評価への意見を求められた。平成 18 年に改定された教育基本法第 17 条 2 項は、「当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない」と規定し、教育振興基本計画の地方版の策定を努力義務化している。弘前市教委は、平成 26 年 6 月に、平成 26 年度から平成 29 年度までの 4 年間の教育振興基本計画を新たに策定した。

他方で地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条は「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」について規定している。その 1 項では、評価報告書の作成と議会への提出及び公表を義務付けており、またその 2 項では評価に際して「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」とされている。こうした規定により、平成 24 年度から弘前大学教育学部は弘前市教委からその自己評価に対する意見書の提出を求められたところである。

担当執筆者は以下の通りである（執筆順）。なお本意見書は、それぞれの担当者が独立して執筆しているため、体裁が異なる場合があることをご了解いただきたい。

- ・ 森本洋介【学校教育講座（教育方法）】（基本方向Ⅰ）
- ・ 瀧本壽史【教職大学院】（基本方向Ⅱ 目標 1・3）
- ・ 福島裕敏【学校教育講座（教育史・教育社会学）】（基本方向Ⅱ 目標 2）
- ・ 松本 大【学校教育講座（社会教育）】（基本方向Ⅲ）
- ・ 塚本悦雄【美術教育講座（彫刻）】（基本方向Ⅳ）

## 施策ごとの取組状況についての意見

### 1. 基本方向Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成

#### (1) 目標 1 豊かな心と健やかな体の育成

施策1に関する事業は現代においてどれも重要な事業であり、数値の多少の変動にとらわれることなく、継続的に行うことに意義があると考えます。特にフレンドシップルーム事業については、さまざまな理由で利用している／せざるをえない子どももいることから、指導体制の充実を今後も図っていくことが求められるが、「評価」にも記載されているように不登校児童の数字が年々増えていることには注意する必要がある。調査研究から早急に背景を明らかにし、対策を練る必要がある。施策2のうち、食生活に関する取り組みについては一定の成果が見られる。そのため、今後はこの数値を維持、ないし100%に近づけるための取り組みを進めることが期待される。また、子どもだけでなく保護者や地域の大人も巻き込んで取り組みを進めることが、現在の子どもの大人になったときに食や健康を意識し続けることにつながると考えられる。一方で運動に関するものについて、実績値の改善傾向が見られないことは、人口減少や気候の変化など、学校教育だけでは対応できない部分もあるため解決が難しい部分があると思われる。この施策に関しては、学校だけの問題にとどめず、保護者を含めた弘前市民としての問題、医療や街づくりといった弘前市の行政全体の問題であるという意識を持って広くアイデアを募り、総合的に対策を講じる必要があると考えます。また、行事のときや部活動所属者にだけ運動させるような運動の仕方ではなく、日常的に運動をしたくなるようなアイデアを子どもからも募る必要がある。

冒頭の全国学力・学習状況調査のアンケート結果について、アンケートの聞き方があまりにも漠然とした質問項目であるため、実際に回答する子どもが何をイメージしてその回答にしたのかがわかりにくい問題があることには留意されたい。

#### (2) 目標 2 確かな学力の定着と向上

施策1について、ICTを活用した教育を前提とする以上、ICT支援員を配備するための予算は一定程度必要である。ただし、本施策の名称である「よくわかる授業づくりの推進」が必ずしも「ICT教育の推進」とイコールになるわけではない。ICT教育の推進は一過性の効果で子どもの授業に対する興味・関心を引き起こすかもしれないが、中長期的に見て学力向上につながるかどうかは不明であり、科学的な実証はまだできていない。ICTを活用すれば自然と子どもの興味関心が高まったり、学力が向上するものではなく、問題は使い方であることを認識すべきである。施策2に関しては、施策1とも関連して、各校における校内研修や指導主事を交えての研究授業を地道に行っていくことが、子どもの学力の底上げ、ひいて

はアンダーアチーバーの解消につながるはずである。子ども一人ひとりの学習状況を把握し、きめ細かく対応している成果が見えてきていると考えられる。ただし、新大学入試共通試験の話題に見られるように、日本で育成する「学力」の質が変化してきていることを念頭におき、教員がその変化に対応する授業づくりを今後実現していくことが求められる。「学力」の質の変化になかなか対応できない子ども・教員も出てくることが予想されるため、本施策は中長期的に見ることが重要であり、1年ごとの結果に捕らわれるべきではない。施策3に関して、中学校における実績値が半数以上を達成していることは評価できる。えてして英語嫌いの中학생が出てくる原因は文法や語彙の習得を重視した授業方法にあると言われているため、ALT を活用して、多少の文法的な間違いがあってもコミュニケーションを取ることができることを意識させたり、そのコミュニケーション自体が楽しいことを理解したりしてもらうことが重要である。正確な文法や多様な語彙の習得は、そのコミュニケーションをより確実に、豊富なものにするためにあるのだと、子どもに理解してもらうことで、英語科の学習目標の達成にもつながることが期待される。特に小学校に関しては、ALT の常駐を進めるべきと考えられる。また小学校の場合は教員への英語の研修を充実することが望ましい。授業のためでもあるが、同時に ALT との円滑な意思疎通のためにも日常会話レベルの英語能力の習得が求められる。その他の事業も必要性の高いものは多いため、継続的に行う必要があると考えられる。

### **(3) 目標3 夢を抱き未来をひらく青少年の育成**

施策1について、「課題」や「事中評価」にあるように、社会教育事業に関しては保護者に対するPRが鍵を握っていると考えられる。家族としての過ごし方が多様になっている状況において、その事業が子どもないし家族にとってどのような意味を持つのが明確である事業ほど受け入れられやすいのではないか。施策2について、事業に参加した子どもや保護者からの意見を参考にしながら、興味をもたれるようなプログラムを調整していく必要があると考えられる。今後はより多様な分野について、子どもや保護者が知る・経験することができるようなプログラムづくりも必要になると考えられる。

## 2. 基本方向Ⅱ 学びと育ちの環境の充実

### (1) 目標 1 連携・協働による学びの保障

施策 1 の取り組みについて、「義務教育 9 年間を貫く”学びと育ち”の環境づくり」と「地域とともにある学校の実現」を基本に据えていることは妥当である。そしてそれらを推進していく事業として「教育自立圏構築推進事業」が大きく前進したことは評価できる。「学びと育ち」を強く意識した「教育自立圏」の構築に期待したい。

小中連携の指標に関する実績値は目標値には達していないものの、着実に増加しているのは「小中一貫教育システム推進事業」の成果が徐々にではあるが実を結んできたからであろう。ただし、現実には教員の多忙感もあり、異なる校種の教育内容や実態にはなかなか意識や時間が向かない状況にある。意識変革には時間がかかるが、教育の連続性は大切な視点であり、小中学校教員及び小中学生の協働の場面設定を増やしながらか引き続き推進していただきたい。なお、「教育自立圏」における児童生徒の「学びと育ち」は中学校卒業後を見通したものでなくてはならない。高校・大学、さらには社会人として世界の中で生きていく力を「教育自立圏」の中でどのように身につけさせていくかを常に念頭に置いていただきたい。このことによって、小中一貫教育システムの制度設計やコミュニティ・スクールの組織編成がグローバルな側面を持ったものになることを期待したい。

「放課後子ども教室事業」は、一見「点」としてその活動が捉えられがちだが、「面」として捉え、弘前市の教育力の全体を向上させていくための事業として考えていくなれば、大きく内容の充実と拡大が図られるのではないだろうか。「学都弘前」を小さな「教室」から支えていく事業である。

平成 30 年度はこの施策 1 が大きく展開していく年度であり、それに向けての大胆かつ緻密な取り組みに期待したい。

施策 2 は平成 25 年度からの 3 年間の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」（文科省委託事業）の成果を基盤に、引き続き弘前市教委が積極的に取り組んでいる様子が見てとれる。弘前市が、県内はもとより全国的にも多様な学びを大切にしながら共生社会に向けたインクルーシブ教育の先進地域となることを期待している。

少子化の中にあっても、特別支援学級在籍者数は増加傾向にあるという。特別支援教育支援員の配置人数は目標値を達成してはいるが、さらなる増員を図っていただきたい。また、多様な学びのためには ICT 機器の活用が期待され、成果も上げられている。これらにかかる人的・財政的措置を引き続き要求していただきたい。

なお、施策 2 の中心となる「インクルーシブ教育システム構築事業」の所管が学校教育改革室から教育センターに移管された。学校現場とより近いところでの事業の推進を図ろうとしたものであり、一層の充実と広がりを期待している。同時に教育センターの機能強化を望むものである。

## (2) 目標2 教員の資質の向上

「施策1 指導力を高め、自己目標を実現する教員の育成」については、講座受講者が講座内容を授業に活用したいとする割合は98.6%と、ほぼ100%に近い値に達しており、昨年度同様、受講者の活用意欲を喚起する講座を提供している。このようなきわめて高い成果を収めた要因として、「課題」として示されているものの、「研修内容や実施時期、回数等の見極めと企画運営する指導主事等の工夫」があったと思われる。その具体例については「成果」欄に具体的に記載されていないものの、要請訪問などを通じた学校・教員のニーズ把握や放課後の時間帯での実施などがあったと推測される。この要請訪問については、年100回以上実施されており、「各校において、校内研修計画に基づいた改善や教職員の資質向上に向けた取組」の計画的・継続的实施に大きく貢献していると思われる。一方で、要請訪問の回数が、平成26年度145件、平成27年度125件に比して、平成28年度は109件と減少傾向にあるが、「要請する必要を明確にし、計画的、継続的な研究になるよう、要請訪問を1年間の研修の流れの中に効果的に位置づけることが重要」という教育委員会の方向性が各学校に浸透してきていることの表れと推測される。ところで、校内研修については、各学校が計画的に熱心に取り組んでいるところであるが、2015年中央教育審議会答申では校内研修の充実が謳われ、また多忙化により学外研修への参加が困難になってきている状況下において、校内研修の果たす役割はこれまで以上に大きくなってきている。今後は、「各学校の調整が難しいため、弘前市教委指導主事以外の派遣事業の紹介を行うなどの工夫」を積極的に推し進めるとともに、研修主任を対象とした研修・支援の充実を図っていくことも重要と考える。

「施策2 教育課題の解決を目指す研究活動の推進」については、「研究指定校の学校教育課題に対する解決の自己評価」は4段階評価で平均3.8ポイントと、前年度に比べて0.4ポイントの上昇、目標値を0.1ポイント上回る結果となっている。また「各研究指定校では、『教科が好き』の割合が増加したり、アンダーアチーバーの人数が減少したりするなど、設定したテーマに関して成果が挙ってきている」とされ、研究指定が効果的な学校改善に寄与しているといえる。こうした成果は、弘前市教委が各学校の実状についての的確な把握にもとづき、研究課題を設定し、研究指定をおこなっていることによると思われる。今後も継続して、指定を負担に感じるのではなく、学校現場が抱える課題の解決に資するような方向で、研究指定をおこなっていただきたい。また、「学校運営研修会」については、市がH30年度から進める「教育自立圏」の取組とリンクした内容となっている点を大いに評価したい。今後も「学校は何を一番大事にしているのかを捉えた研修会」を企画していただきたい。

## (3) 目標3 良好な教育環境の確保

施策1は「学習意欲」向上のためのいわば外堀をどう埋めていくのかという取り組みである。事業費が大きいことから、その対費用効果が求められるものであるが、「学習意欲」の向上を示す指標を何にするかは難しい問題である。

例年指摘されているように、小学5年生と中学2年生の「勉強が好きだ」という児童生徒の割合をその指標とすることの妥当性については、今後も詳しく分析を重ねていく必要がある。目標1の小中一貫教育の推進とも関連してくるが、調査対象とした小学5年生が中学2年生になったときの「勉強が好きだ」という割合の変化など、同一集団の学習意欲（勉強好きの割合）の変化を、例えば「教育自立圏」単位で分析していくことで、「学習意欲」向上の要因を具体的に見い出していくことができるのではないだろうか。

「学習意欲」は幼小中高大という学校教育だけの問題ではない。学び続けるという生涯学習の観点からも問われる必要がある。「主体的・対話的で深い学び」は学び続けていくための教育活動でもある。図書や教材・教具の整備も、この点を念頭に置いて進めていってほしい。

「学習意欲」の問題は教員の在りようと深く関係している。「教員の多忙化対策（学校事務の効率化）事業」が掲げられているが、教員が児童生徒と向き合う時間の確保は授業の充実や児童生徒一人一人の理解に直結することから、今後も根気強く取り組んでいただきたい。そのためにも、「小学校少人数学級拡充事業」における常勤臨時講師と学習支援員の確保と増員を継続して要求していくことが望ましい。

施策2の「就学等の支援」は、近年の子供の貧困と教育格差の問題と底通しており、ますます重要な施策として位置づけていく必要がある。財政的な問題もあろうが、教育の機会均等の理念のもと、積極的に進めていただきたい。弘前市教委の就学支援事業は多岐にわたっており、また修学旅行費用など国が示す基準額を超えて支給している費目もあるなど高く評価できる。今後も、国が追加した3費目も含め、さらなる拡充に努めていただきたい。また、特別支援教育を受ける児童生徒の保護者の経済的負担の軽減は引き続き行ってほしい。目標1に掲げた「共生社会」に通じる施策であり、その実現に邁進している弘前市においては、他の自治体以上の対応を期待したい。

### 3. 基本方向Ⅲ 学び合い支え合う生涯学習活動の推進

#### (1) 目標 1 生涯学習の基盤整備と充実

「施策 1. 生涯学習推進体制の充実」は、社会教育関係職員研修の事業が主たるものである。目標値として「社会教育講習への参加者数（職員・市民）300 人」が定められている。平成 28 年度に初めてこの目標値が達成された（平成 28 年度は 315 人）。この数年、そもそもの社会教育関係職員の人数自体はほぼ横ばいであるわけだから、これはそのまま研修に参加する職員の割合が増えたことを意味する。もちろん参加者数が全てではないが、まずはこの参加者数の増加を大いに評価したい。教育委員会による関係機関・施設への働きかけや職員自身の意識の変化があったと推察される。今後の継続的な取り組みを期待するとともに、大学や県等との連携による研修の質のさらなる向上を望みたい。

「施策 2. 社会教育施設等の整備と効果的な運営」では、「公民館の利用者数」「図書館の図書貸出冊数」「博物館観覧者数」が目標達成の指標となっている。いずれも決して低い数値ではないが、平成 28 年度は目標値に届かず、また前年度からも微減している。市民のニーズや声に耳を傾けながら、職員だけではなく利用者やボランティアも含めた関係者全員で、市民が多く集まる施設にするには何が必要なのか改めて知恵を出し合って頂きたい。また、「専門の学芸員の数が不足」し「業務が手薄」になっているということが課題として挙げられている。社会教育施設とはやはり「社会教育」の施設であるわけだから、そこには市民の学びを適切に支援する専門職員が必要不可欠である。さらに昨今は、労働者の「働き方」についてもそのあり方が社会的に問われてきている。高い専門性を持った社会教育施設職員がその力量を十分に発揮し活き活きと働くことができる体制づくりを望みたい。

#### (2) 目標 2 学習機会の充実とコミュニティづくりの推進

「施策 1. 生涯学習社会を目指す多様な学習機会の創出と提供」は、「公民館で実施している講座への参加者数」が目標達成の指標となっている。平成 28 年度の参加者数は 51,568 人で、初めて目標値（50,000 人）を達成しており、高く評価すべきである。しかしながら同時に、この現状は目標 1 の施策 2 の指標である「公民館利用者数」と合わせて考えると、評価が難しい。つまり「公民館で実施している講座への参加者数」は増加した一方で、「公民館利用者数」は減少している。このことは次のように解釈できるのではないかな。すなわち、「講座への参加者数」の増加は、中央公民館・地区公民館それぞれが主催講座に尽力したのはもちろん、大学や学区まなびい講座等、公民館が地域の多様な機関や団体と連携して講座を実施したがゆえに、講座への参加者のすそ野が広がったからではないかと推測できる。他方で「公民館利用者数」が減少していることをどのように考えるのか。ここでいう「公民館利用者」には、公民館まつり等の講座以外での公民館利用者も含むと思われるが、それが減少しているということである。言い換えれば、講座には参加するが、地域や公民館の行事で

来館する市民は全体として減少傾向にあるということになる。この点が今後の課題といえるだろう。公民館が地域づくりの拠点として今後機能していくためには、あたかも「おらほの公民館」「おらほの地域」という意識で日常的に公民館を利用する市民が増加することが必要である。現在このようにして増加傾向にある「講座への参加者」が、日常的な「公民館の利用者」へと変化し、地域づくりの主体へと成長していくような仕掛けづくりを期待したい。

「施策 2. 市民の自主的な学習活動の支援と協働によるコミュニティづくり」は、市民の自主的な活動を育み支援する事業となっている。目標達成の指標としては「地域活動や行事に参加している市民の割合」が設定されており、前年度よりは向上したものの、目標値である 34.0%には届いていない。しかし内容としては、各事業ともに企画の段階から市民と協働的に実施するなど、教育委員会が市民の成長や学習に寄り添いながら市民の主体性や力量を育む工夫がなされていることは評価できる。新しいボランティア参加者の広がりも生まれてきているようであり、今後も多様な機関・団体と連携することで一層ネットワークを広げることが重要であるといえるであろう。

#### 4. 基本方向Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成

##### (1) 目標 1 文化財の保存と整備

施策1「文化財の保存と管理」について。施策シートに記載されている通り、弘前の町並みの特徴は重層的なところにある。このように、江戸から昭和の様々な時代の歴史的建造物が混在している地域は、全国的に見ても稀であろう。この景観は、市民にとってもかけがえのない財産である。これを維持するために、施策1の事業は、どれも必要不可欠であり、これらが計画通り着実に実施されていることは評価できる。

しかし、施策シートに記載されているように、課題もあるようだ。その中で、重要文化財等修理事業補助と指定文化財管理事業補助について、今後、所有者の経済的な負担をどう減らしていくのかという問題に関しては、例えば「文化財を守る会」のような市民ボランティア団体や基金などを立ち上げて、そこから補助金（寄付金）や維持管理に対する労働力を提供していただくというような形を考えてみてはいかがだろうか。実現すれば、財源や労働力も確保できるだけではなく、市民の文化財に対する意識も高まるのではないかと。

伝建地区修理修景事業補助での課題は、地区内の少子高齢化や空家・空地の増加であろう。これらについては、地域住民と行政が一体となって対策を考えていかなければならない。何れにせよ、この地区に（移住を含めた）人を呼び込むような仕掛けが必要となってくるかもしれない。これは、当該部局との連携が必要であると思われるが、例えば、弘前の歴史文化を守りたいという若い世代の伝建築への転入を優遇するような方向で考えてみてはどうか。

広域環状道路整備発掘調査事業は、調査が終了し、発掘調査報告書の刊行により一区切りがついた。関係者の皆様には4年間ご苦勞様でしたと申し上げたい。

瑞楽園管理事業に関して、瑞楽園は大石武学流庭園の中心的存在であるので、力を入れていただきたい事業である。主屋の老朽化が進んでいるとのこと、早急な対応をお願いしたい。大石武学流庭園調査・活用事業も含め、これらの事業をさらに充実させることで、津軽地方独自の庭園様式の素晴らしさを全国に発信していただきたい。

旧市立図書館管理事業に関しては、耐震補強、修理を含め、安全面を十分考慮した上での公開を引き続きお願いしたい。

文化財の保存と整備事業は、今後、ますます財政が厳しくなることが予想される。限られた予算の中で事業の優先順位を見極め、選択と集中をしていくことも必要になってくるのではないだろうか。また、先にも述べたように、市民の力を活用することも視野に入れて、文化財の保護を考えてみてはどうか。特に、景観を守るということに関しては、多くの市民の関心も高いのではないだろうか。

施策2「文化財の整備と推進」について。堀越城跡整備事業は、進捗状況が良好であるということは評価できる。2020年の全面公開に向け、着実に事業を進めていただきたい。昨年も述べたが、旧石戸谷家住宅復元は、堀越城跡エリアのガイダンス機能を兼ね備える核となる施設となり得るので、活用法など慎重に検討した上で、丁寧に事業を進めていただきたい。

い。また津軽歴史文化資料展示施設等整備事業であるが、30年4月の開館に向け、事業が予定通り進行していることは評価できる。学校教育、生涯教育への活用にも有効なものとなることはもちろん、観光施設としても魅力のある展示空間となることを期待したい。

## **(2) 目標2 文化財の公開活用と伝承**

施策1「文化財情報の公開・発信の充実」について。文化財施設公開事業は、入場者数も右肩上がりに増加し、目標値も超えているということは喜ばしいことである。今後も指定管理者と共に、保存と活用のバランスを十分考慮しながら、文化都市弘前の魅力を発信していただきたい。ただ、公開されている施設自体は、素晴らしいのであるが、観光客などの来場者は、訪問する施設周辺の環境・景観も含めたところでの印象を抱くのであり、そのことを考えると目標1、施策1の事業と連携して事業を展開して行く必要がある。

施策2「文化財を活用した学習等の充実」について。史跡等公開活用事業・大森勝山遺跡公開活用事業については、定期開催のイベントが定着しつつあり、参加者も目標値を大幅に上回るなど、市民の文化財に触れる機会が増加しているということは評価できる。ただ、市民からの要望であるイベントの追加開催や、参加者枠の拡大、受け入れ環境の整備は、今後、可能な限り対応していただきたい。また、遺跡見学など今しか見ることができないものは、より多くの子どもたちに体験してもらいたいのので、優先的に事業の充実を図っていただきたい。これらの課題は、国庫補助金の減額交付など逆風の中での作業となるであろう。経費などの負担を含め、特に市内の小・中学校との連携の強化を図り、この事業を今以上に活性化させていく必要がある。

大森勝山遺跡関連のイベントは、世界遺産登録への気運を高める意味でも重要であり、今が踏ん張りどころであろう。出前授業やシンポジウムなども含めて、今後もこれらの事業の更なる充実を図り、縄文遺跡世界遺産登録推進本部と共に登録に向け積極的な取り組みを期待したい。また、これは筆者からの提案であるが、大森勝山遺跡での「野焼き」を企画してはいかがか。

施策3「地域に根ざした文化遺産の保存と伝承」について。津軽塗技術保存伝承事業の効果もあって、昨年、津軽塗技術保存会が重要無形文化財に認定されたことは、大変喜ばしいことである。これを契機とし、津軽塗が産業として発展していくことで、後継者不足の問題が良い方向に進むことを期待する。

民俗文化財については深刻な後継者不足をどう解消して行くかが課題となる。昨年度も述べたが、民俗文化財保存・伝承を目的としたセンターのようなものを創設し、今以上に行政が積極的に関わっていったらどうか。また、他県の民俗文化財保存会などと連携して、盛り上げて行くことも一つの解決策としてありうるのではないか。

## おわりに

各執筆者による担当部分に関する総括を記載して本意見書のまとめとしたい。

### ○森本洋介（基本方向Ⅰ 社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成）

基本方向Ⅰで取り組まれている諸課題に関しては、弘前市のみならず、都市部も含めた全国的な課題となっている事案が多い。例えば教育における ICT 活用や英語教育、子どもが将来の夢を持てるような事業の企画といった事案である。このような事案に対する取り組みについて、教育は一朝一夕に結果が出るものではないため、中長期的な視点を持ち、年度ごとの実績値に振り回されることのないように腰を据えて取り組むべきであろう。大切にしてほしいのは、インフラの充実はあくまで補助的な要素であって、根本的な問題解決は一人ひとりの教員の専門性を向上させる環境整備にあるということである。一方、実績値の改善が見られない施策・事業について、このような事案に対しては学校教育による取り組みだけでは限界があることを自覚し、家庭や地域を巻き込んで総合的に対策を行う必要がある。

### ○瀧本壽史（基本方向Ⅱ 学びと育ちの環境の充実）

（目標 1）平成 30 年度スタートの教育自立圏構想、小中一貫教育システムの導入に大いに期待している。人口減少・少子化、地域力・家庭力の脆弱化、等の課題と正面から取り組むことになるのではないだろうか。コミュニティ・スクールについても設置に向けて準備が加速されていくものと考えられる。その意味では「ひろさき教育創生市民会議」での議論のテーマにも加えていただきたいとともに、学校評議員制度の活用を一層図ってもらいたい。学校評議員による現実的な議論と提案によって教育自立圏構想はより内実のともなったものになるものと考えている。インクルーシブ教育の推進も、「学びと育ち」の側面から考えれば、教育自立圏との関わりが見えてくるのではないだろうか。

（目標 3）施策 1、施策 2 とともに着実に事業を推進しており、またその成果も上がっていると評価できる。ただしこれらの事業は「学びの環境面」からの取り組みであり、「学び」の在りようと直結するものでなくてはならない。従って施策の基本方向Ⅰとの関わりを念頭に置いた取り組みが求められるのであり、いかに児童生徒の学びを「支援」しているかが評価の指標となってくる。支援項目の調査研究を進めるとともに、支援すべき対象者に漏れないように、細心の注意をもって情報確認を行っていただきたい。財政的な面で課題はあるだろうが、未来を創る弘前っ子を支援する大胆な教育行政に期待したい。

### ○福島裕敏（基本方向Ⅱ 学びと育ちの環境の充実）

（目標 2）2015 年 12 月の中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上」、それに伴う教員育成指標の策定、研修体系の見直しなどおこなわれる一方で、学習指導要領の完全実施や「教育自立圏」の取組などへの対応が求められる中で、近年、教員研修の必要性・重要性が高まってきている。こうした状況下において、弘前市教委には「各校の学校課題と国・県・市の教育課題の解決について、指導力向上の優先順位と教員の実態に応じた研修のあり方を示していく」ことが強く求められる。特に、教員の年齢構成、各学校が抱える教育課題、市の教育課題など、市の実状に根ざした研修内容・形態を計画していくことが重要となる。実際、要請訪問などを通じた各校の実状・ニーズの丁寧な把握や研究指定を通じた学校改善などがおこなわれており、今後さらなる充実・発展を期待したい。

### ○松本大（基本方向Ⅲ 学び合い支え合う生涯学習活動の推進）

社会教育を参加者数や利用者数などの「数」で評価するのは難しい。学校のような試験もないわけだから、社会教育における学びの豊かさを学力テストのような成績で評価することも不可能である。とはいえ、平成 28 年度は初めて、「講習への参加者数」「講座への参加者数」が目標達成の指標を上回った。社会教育は「数」ではないが、これは率直に高く評価したい。なぜなら、この数値目標の達成は、関係職員の努力なしにはありえないと思われるからだ。「自然発生的に」「偶然に」研修や講座に参加する職員や市民が増えたわけではないと思われる。このように、社会教育行政や社会教育施設にはまだまだ工夫する余地はある。この意味では、なぜ平成 28 年度に「数」が増加したのか、この成功要因を丁寧に分析・検証して頂きたい。社会教育をつくるのは「人」である。教育委員会や職員の働きかけで状況が好転することに手応えと自信をもって頂きながら、改善すべき点は改善し、よりよい社会教育行政・社会教育施設を目指して頂ければと思う。

### ○塚本悦雄（基本方向Ⅳ 郷土弘前を愛し、自然や歴史・文化財を守る心の醸成）

市街地の景観について、先にも述べた通り、弘前の重層的な町並みを形成しているのは、重要文化財・指定文化財建物がもちろん根幹となるのであるが、そのほかの「趣のある建物」に指定されているもの、さらには、昭和感のある‘古いけれども味のある’一般の住宅や店舗などの存在が、かなり重要な要素となっているのではないかと。どこにでもある街並みに、ポツリポツリと文化財があるということでは、上辺だけ、作り物の歴史文化都市のようになる。よく「地方はどこにいても同じ風景だ」というようなことを聞くが、幸いにして弘前には、ここにしかない魅力的な景観が（減りつつあるものの）まだまだ残っている。これらを守っていくことは、弘前を全国に誇れる歴史文化都市とするために、最も重要なことのひとつであろう。そのためには、基本方向Ⅳの施策はもちろんであるが、観光や環境、商工の振興に関係する市関連部局などとの連携が不可欠だと考える。

以上、本意見書は、「現在の成果を評価する」というよりもむしろ、「現時点での到達度を示し、問題点を指摘し、改善への示唆を行う」ことを目的として作成されているために、場合によっては弘前市教委職員にとっては耳の痛い「批判」もあるかもしれない。しかしそれは単なる「批判」に留まることなく、できるだけ具体的な「示唆」につながる意見を提示したつもりである。今後の弘前市の教育行政の改善の一助となることを望む。

平成 30 年 2 月 28 日

執筆者一同

○学識経験者による意見用語説明

| 用語      |              | 説明                                                                                                             |
|---------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アルファベット | ALT（エーエルティー） | Assistant Language Teacher（外国語指導助手）の略。英語を母語とし、実際の英語や外国の文化を子どもたちに伝え、日本人教師を補佐する外国人のこと。                           |
|         | ICT（アイシーティー） | Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。情報・通信に関する総称で、IT とほぼ同義に使われる。教育現場においては、パソコンやタブレット端末、電子黒板等を指す。 |
| あ行      | アンダーアチーパー    | もっている力を十分に発揮できていない児童生徒のこと。                                                                                     |
|         | インクルーシブ教育    | 人間の多様性の尊重等の強化、障がい者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障がいのある者となない者が共に学ぶ仕組のこと。             |
| か行      | 学校評議員制度      | 小・中学校の運営に保護者や地域住民の意向を幅広く取り入れ、その協力を得る制度のこと。                                                                     |
|         | 教育自立圏        | 学校・家庭・地域が各々の役割と責任をもって、連携・協働し子どもの健やかな成長に向かって主体的に関わっていく、自立的・持続的な教育機能を有した圏域（中学校区）を意味したもので、市教育委員会が作った「造語」。         |
|         | コミュニティ・スクール  | 学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら地域とともにある学校づくりを進める制度のこと。学校運営協議会制度とも言われる。                          |
| さ行      | 重要無形文化財      | 演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高い文化財のことであり、国が指定するもの。                                               |
|         | 小中一貫教育システム   | 小・中学校が目指す子ども像(15歳の姿)を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指すシステム。                                                       |
| た行      | 特別支援学級       | 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校および中等教育学校に、教育上特別な支援を必要とする児童および生徒のために置かれた学級のこと。                                              |
| は行      | ひろさき教育創生市民会議 | 弘前市が目指すべき教育の姿や施策の方向性などを協議する教育委員会の附属機関。学識経験者、教育関係団体等から推薦された者、関係行政機関職員、公募市民等によって構成される。                           |
|         | フレンドシップルーム事業 | 集団生活に困難を感じている、または不登校傾向にある児童生徒について、通室による集団生活への復帰に向けた支援を行う事業のこと。                                                 |
|         | 放課後子ども教室     | 小学校の余裕教室等を活用して、地域の多様な方々の参画を得て、子どもたちとともに学ぶ学習やスポーツ・文化活動等の取組のこと。                                                  |